

島 根 大 学  
保健管理センター一年報

[平成 21 年度～23 年度]

島根大学保健管理センター

## 保健管理センター年報〔平成 21 年度～23 年度〕に寄せて

島根大学保健管理センター所長

竹 永 三 男

2011 年（平成 23）4 月から、蘆田耕一前所長の後を承けて保健管理センター所長を務めています。専門は医学ではなく日本近現代史で、法文学部社会文化学科の歴史と考古教室現代史学研究室に所属しています。

蘆田前所長から保健管理センター所長になるよう「勧誘」されたときに、無症候性脳梗塞・メニエル病から右足の外反母趾まで「病気のデパート」のような自身の健康状態をお話しして、とても責任を全うできないからと断ったのですが、「保健管理センターを利用するの方が、保健管理センターの役割がよく分かるからよい」という筋の通ったような通らないような話をされて引き受けた次第です。

その蘆田前所長は、在任中、統合と法人化後に生じた職員の心身の健康上の深刻な問題の支援と解決、松江・出雲両キャンパスの保健管理に関する学生・職員支援活動の融合、カルト、飲酒、発達障がい、感染症など今日の学生の心身の健康支援の課題に対する効果的な取り組みの推進など、多岐にわたる課題を、両キャンパスのスタッフのチームワークを大切にしながら遂行しておられました。「所長の仕事はいくつかの会議とあと少し」といった「勧誘の言葉」とは異なり、実際には大切で大変な仕事をしておられたのだと、この 2 年間で実感した次第です。

この年報は、標題にあるように「平成 21 年度～23 年度」の 3 年間の活動を対象として総括したのですが、ここでは、私が所長として担当して 2 年間の活動のあらましを振り返り、気づいた点を書き留めておきます。

### （1）島根大学におけるカウンセリング実施体制の一元化と保健管理センターによる管轄

蘆田所長から引き継いだ課題の中で喫緊のものは、多種多様な予算源により、多様な運営主体で実施されていたカウンセリングを、保健管理センターの責任で一元化するための組織と運営体制案を策定するということでした。運営費交付金中の学長裁量経費を原資として実施してきた保健管理センター担当のカウンセリング（両キャンパスでの嘱託講師カウンセラーによるカウンセリング）、JST 事業によるカウンセリング（松江キャンパスの男女共同参画推進室、出雲キャンパスのワークライフバランス支援室）、学生支援 GP によるカウンセリングとある中、予算自体が交付されなくなった後二者を含めた新たなカウンセリング体制を構築するというものでした。これについては、学生支援課スタッフの支援・教示を得ながら、保健管理センター松江と保健管理センター出雲、松江キャンパスの男女共同参画推進室、出雲キャンパスのワークライフバランス支援室など関係者の連絡・協議を重ねる中で、現行の一元的なカウンセリング体制に移行することができました。出雲キャンパスでは、学生相談室が再開され、保健管理センター出雲の医師が室長として運営に参画し、こちらからも学生支援にあたる体制が作られました。

また、併せて、嘱託講師カウンセラー経費が、これまでは学長裁量経費という臨時的な予算措置（毎年度計画を策定して予算申請し、採択されれば実施できるというもの）に拠

っていたものが、2012年度から経常経費で措置してもらえることになりました。その結果、嘱託講師カウンセラーの任用の一定度の継続性が可能になったことにより、担当していただいているカウンセリングの継続性につなげることができるようになりました。

「こころの支援」を要する学生が増えているのは、全国の全ての大学でそうであり（今年度の全国大学保健管理研究集会でアメリカ・イギリスの大学保健管理機関との国際交流の取り組みが報告されましたが、それによると両国でも同様でした）、島根大学でも来談件数も高い水準が続いています。また、大学をめぐる環境の厳しさが増す中で、ストレスで疲れた教職員の来談も同様の状態にあります。カウンセリング体制の充実という条件を活かして、保健管理センターが学生・職員の心身の健康支援という職責をしっかりと果たせるよう、引き続き努めたいと思います。

## （2）学生相談・支援をめぐる学生関係事務部、教員、保健管理センターの連携の推進

所長になって初めて経験したことは、大学保健管理センター関係の全国・中四国・島根県規模の研究集会に参加したことです。そこでは、全国の大学・短大・高専・専門学校の保健管理担当組織のスタッフが、学生・職員の抱える心身の健康をめぐる問題と支援の取り組みが報告され、熱心な質疑討論が交わされるのですが、そのどれもが島根大学での取り組みの参考になる有益なものでした。その中で、私がこの2年間の参加で感じたことは、学生支援に際して、学生関係事務部・教員・保健管理センター各スタッフの連携が極めて重要だということです。実際、この連携を効果的に進めるために、保健管理センタースタッフは苦心し、他の2者とも協力して様々な試みをしていたのが印象的でした。

島根大学では、出雲キャンパスで従来から学生支援に関する懇談会を、医学部学務課、保健管理センター出雲、教員の参加で定期的・継続的に開いていましたが、そのことは松江キャンパスでは知られておらず、また、同様の取り組みをすることもないままで推移してきました。このような中で、2012年度は先ず、学務課・学生支援課スタッフと保健管理センターの懇談会を開催しました。さらに12月には、岡山大学保健管理センターの大西勝先生を講師としてお招きし、学務課・学生支援課・保健管理センタースタッフとの懇談会（学生支援をめぐる質問に答えていただく会）、これに両キャンパス5学部の学生委員会委員を中心とした教員も加わった「学生支援に関する研修講演会」を開催しました。当日は、大西先生から出された「引きこもり」「発達障がい」という課題を抱えた学生に対する具体的な支援の方法について、教員・学生関係事務部スタッフ・保健管理センタースタッフがグループ協議を行い、その結果を発表して大西先生が講評するという形式で進められました。この会は、学生支援をめぐる具体的な問題で、両キャンパスの教員・事務部スタッフ・保健管理センタースタッフが一緒に考えるという画期的な経験をすることができました。そして、そのことを通して、学生支援の課題では、それぞれの職種・職域を超えてお互いに率直に話し合い、共同の取り組みを進めることが大切だということを、文字どおり実践的に学ぶことができました。こうした取り組みが、相互の信頼関係を築く上で大切なことだ実感した次第です。

なお、四半期ごとに1回、保健管理センターの月例会議を出雲キャンパスで開催することを継続し、そのことを通して保健管理センター内部でも両キャンパスの相互理解を深め、融合を図るよう努めています。

### (3) 保健管理センターの管理運営をめぐる課題

保健管理センターの管理運営をめぐることは、この3年間も、管理運営委員会の先生方に一方ならぬお世話になりました。予算配分など毎年の課題に加え、出雲キャンパス保健管理センター医師の再任規程策定の課題、改正労働契約法実施への対応の課題など、保健管理センターの管理運営に関する課題をめぐる審議には、ご多忙の中ご出席をいただき、重要な決定をしていただきました。私自身は、管理運営委員会は、その規程上の職責を通して保健管理センターの活動を鞭撻していただくとともに、保健管理センターにとっての最良の「理解者・支援者」であっていただける存在だと考えています。そのためには、管理運営委員会委員の先生方に、日頃から保健管理センターの活動報告をきちんと行うことが必要だと考えていましたが、その実践には不十分な点が多々ありました。この点は反省し、次期に引き継ぎたいと思います。

また、現在島根大学では、各種の全学センターに関わって教育・研究体制の抜本的な見直しが行われています。次年度からこの計画が正式に実施されれば、保健管理センターも、教育・学生支援副学長の下で「教育・学生支援機構」を構成することになります。大学の組織や職員の所属・職種は多様でも、学生自身は具体的な人格としてただ一人のものであり、学生集団としても同様です。前述の、学生相談・支援をめぐる学生関係事務部・教員・保健管理センターの連携の課題が、この点でも実効あるものになるよう、新しい機構・組織の中で、保健管理センタースタッフも引き続き力を尽くしていかねばと考えています。

島根大学保健管理センターも参加している国立大学法人保健管理施設協議会の総会に参加しますと、医学・臨床心理学等以外の分野を専門とする学部教員や、保健管理センター所属教員以外の学部教員が保健管理センター所長を努めているのは、島根大学の外には、一橋大学と愛知教育大学のみようです。このことには、メリットもデメリットも挙げられると思いますが、歴代の所長がそうであったように、私自身もこの2年間、「保健管理」を専門としない、学部所属教員が保健管理センター所長を務めていることがメリットとなるようにしたいと考えていました。具体的言えば、対外的には、各学部・事務部との連携を密にする橋渡しの役割を果たすことであり、内部的には、保健管理センタースタッフが管理運営の仕事の懸念なくそれぞれの職務に専念できるようになることに資することでした。前者では、前所長の尽力を引き継ぐよう努めてきましたが、後者では、「全学の会議に出る度に仕事を増やしてくる」ということもあったと思います。ただ、大学、とくに地方国立大学の置かれている状況が厳しさを増す中で、また、何より学生の状況が大きく変化し、心身の困難を抱えた「気になる学生」が増加する中で、保健管理センターの役割は、今後一層大きくなると思います。その課題に取り組むために、保健管理センタースタッフ自身の健康管理にも留意し、所内の意思疎通と連携を強め、全国の保健管理センターの活動に学ぶことが大切だと、2年間の任期の終わりを前にして考えています。

(2013年2月3日記)

# 島根大学保健管理センター



和田、柏、米原、小林、山下、長廻  
長廻徹、荒川、竹永、河野、江副、早瀬

保健管理センター松江は平成 23 年 7 月～9 月に一部改修を行いました。



← 玄関に風除け室を設けました。

スロープの傾斜は緩やかに、幅も広  
くになりました。



↓ 車椅子で利用できるトイレは、オス  
トメイト対応の多目的トイレです。



## 目 次

はじめに	
寄稿	1
<b>松江キャンパス</b>	
I：事業・業務	7
II：保健管理業務	10
1. 健康診断・事後措置	10
①学生定期健康診断	
②特別健康診断	
③臨時健康診断	
2. 保健管理センター利用状況	19
①学生・職員などの健康相談等	
②栄養相談	
③母性保健相談	
3. 精神衛生相談・カウンセリング状況	26
4. その他の活動	30
①発達障がいのある学生の支援について	
②平成23年度新入生スクリーニング面接とカウンセラーによるフォローアップ	
③東日本大震災後のこころのケア	
III：教職員の健康管理	38
IV：広報・啓発活動	39
1. 学内研修会の開催	39
2. 教員・学生対象の研修会	40
3. 保健管理センター松江のホームページ	40
4. カルト対策	42
<b>出雲キャンパス</b>	
I：事業・業務	43
II：保健管理業務	46
1. 健康診断および事後措置	47
①医学部学生定期健康診断	
②大学院生定期健康診断	
2. 医学部学生の感染症対策	56
①ツベルクリン反応検査	
②小児感染症（麻疹、風疹、ムンプス、水痘・帯状ヘルペス）抗体検査、 B型肝炎・C型肝炎抗体検査、肝機能検査	

③B型肝炎ワクチン接種	
④インフルエンザワクチン接種	
3. 外国人研究留学生、外国人研究者健康診断	64
4. 保健管理センター利用状況	66
①年度別・区分別利用延件数	
②年度別・月別利用件数および3ヵ年の利用件数の推移	
③健康診断書の発行件数（再掲）	
④医療機関（専門医）紹介件数（再掲）	
5. メンタルヘルス対策	74
①こころの健康相談・カウンセリング	
②新入生心理検査	
Ⅲ：教職員の健康管理	76
1. 教職員のセンター利用件数（再掲）	76
2. 産業医業務	76
Ⅳ：広報・啓発活動	76
1. 保健管理センターのしおり発行	76
2. 島根大学保健管理センター出雲のホームページ	76
3. 健康教育：テーピング講習会	76

## 学術研究・組織

I：学術研究活動	77
1. 研究会主催	77
2. 学会・研究会参加	78
3. 学会・研究会発表	80
4. 著書	81
5. 学術論文	81
6. 報告書	82
7. 研究助成	82
Ⅱ：教育活動	83
Ⅲ：社会貢献・講演	84
Ⅳ：保健管理体制	86
1. 組織	86
2. 構成	86
3. 保健管理センター管理運営委員会	87
4. 保健管理センター規則	88
V：沿革	91

## IT 社会における大学生のメンタルヘルス

島根大学保健管理センター副所長

江副 智子

私は 2010 年 4 月に神戸からこの出雲の地に赴任いたしました。出身は京都市北区で、熊本、静岡、東京、大阪、神戸など、温暖な地域で生活してきた、島根県とは縁もゆかりもなかったのですが、大阪大学精神医学教室の武田雅俊教授のご紹介により島根大学でお世話になることになりました。

私の専門は予防医学で、テクノストレスの研究を中心に行ってきました。近年 IT はますます進化をとげ、パソコンが多機能化するとともに、スマートフォンが普及し、さらに facebook や Twitter などを使用する人々が増加しています。それに伴い、従来のような対面式でのコミュニケーション以外に、リアルとヴァーチャルが組み合わさったような形の新しいコミュニケーション様態が出現しており、いい意味でも悪い意味でも、人々の心身の健康や対人関係のあり方に多大な影響を及ぼしていると思われまます。

東京大学大学院教育学研究科健康教育学分野の佐々木司教授によると、中高生や大学生を対象に精神健康調査を行ったところ、睡眠時間が短い者、就寝時刻が日によってバラバラな者、床に就いた後でも毎日ケータイを使っている者がうつになるリスクが高いという結果が得られたそうです。このことは、ケータイの過剰な使用が、睡眠時間の短縮につながり生体リズム障害に影響し、それがうつになるリスクを高めていることを示しています。ケータイのみならず、パソコンも使用する人では、パソコンを夜中まで使用することにより、画面の光に夜遅くまでさらされ、また、メールや SNS での人とのやりとりやゲーム、インターネット上での検索などで神経が興奮し、睡眠相がずれ、生体リズムが乱されることとなります。

他方、IT にはプラスの面もあります。国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センターの大野裕センター長監修の「うつ・不安ネット こころが軽くなる認知療法活用サイト」のようなインターネットを活用した新たなストレス対処法も登場しています。対面でのコミュニケーションが困難な場合、IT を活用したメンタルヘルスサービスを活用することも考慮に入れる必要があります。

日本の大学保健管理センターでの IT を活用した健康管理について目を向けてみますと、ホームページを作成したり、メール相談を受け付けたりして、Web を利用している所は数多く見られますし、健診システムに IT を活用している所もあります。メンタルヘルスに関しては、例えば一橋大学では、遠隔講義システムを用いた発達障害学生に対する修学支援を行っていますし、富山大学では、発達障害学生に対して、face-to-face でのオフライン支援と Web システムによるオンライン支援を組み合わせる包括的サポートを行っています。一方海外に目を向けますと、Jue らは、調査対象とした 426 の米国の大学のうち、約 60%

が Website で健康情報を提供しており、そのうちメンタルヘルスに関するものが最も多かったと報告しています。

今後ますます IT が発達し、青少年がリアルな対人関係のみならず、ヴァーチャルな対人関係を構築しながら生活する中で、従来では予想もつかなかった危険性にさらされ、それによってメンタルヘルスに悪影響が及ぶ可能性があります。他方で、IT と上手につきあえば、それをストレス対処法として、メンタルヘルスの向上のために役立てることもできます。このような IT 社会にいる中で、大学生のメンタルヘルスを向上させるためには、IT が大学生の精神状態に及ぼす影響のマイナス面とプラス面両方を視野に入れながら、サービスや研究を進めていくことが重要だと言えるでしょう。その際に、大学の保健管理センターが果たす役割は今後ますます大きくなると思われます。

## 保健管理センターに勤務して

保健管理センター松江 長 廻 久 美 子

2009年より保健管理センターに保健師として勤務しております。入職当初は、4、5月の目まぐるしい学生定期健診をはじめ、予め計画してくださっていた業務をこなすだけで精一杯でした。保健相談・指導場面では、BMI値や血圧が高い学生さんが割と多いのに驚きました。一人暮らしによる食生活の偏りや生活リズムの乱れ、運動不足等が原因と考えられますが、一番健康な世代の大学生さんにとって生活習慣病は遠い先の話といった感じで、どのような相談・指導方法が効果的なのかと迷いました。また、発達障がい、不登校、行方不明、自傷、カルト、PTSD、ハラスメント等々・・・今まで聞き慣れていなかった言葉や経験したことのない出来事に、カルチャーショックを受けとても戸惑ってしまいました。本当に一つ一つ教えてもらって学生さんに対応する毎日でした。

私は看護職としての第一歩は保健分野ではなく、病院の内科・救急・小児科等の臨床からでした。終末期のケアに携わったのがきっかけで、就職して7年目に生命の誕生の場面に立ち会える助産師を志す事にしました。以来保健管理センターに採用になるまで、病院や看護教育の実習現場でまた地域での新生児訪問活動を通じて、母子保健と15年間関わってきました。出生にまつわる母子やその環境は必ずしも順調で恵まれたものではありません。母親の育児の孤立や虐待が問題となりだした時、実際困難な状況を抱える方を目の当たりにして自分の無力さに悩み辛くなることがありました。しかし魅力を感じ自分が選択した看護の分野だったのでなんとか続けることができたのだと思います。

2012年の夏、高松市で開催された中国四国大学保健管理研究集会で、「島根大学松江キャンパスにおける母性保健相談の取り組み」について発表させていただきました。これは2009～2011年の学生定期健康診断を利用した女子学生の主に月経にまつわる相談の取り組みを重点的にまとめたものです。保健管理センターでは15年以上に亘り、随時来所相談に加え定期健診時に全女子学生を対象とした母性保健指導・教育をされてきた先生と先輩方の実績があります。月経や性に関する正しい知識を習得し将来的に自身の健康を保持できるよう、学生の多様な相談に一貫して真摯に向き合ってこられたことを「取り組み」をまとめる際に知ることができました。相談・指導の工夫、改善、研究の積み重ねといった健康教育への情熱と学生を愛おしむ保健管理センターのあり方に新鮮な感動を覚えました。大学における母性保健相談の意義を学ぶ機会となり、これまでの‘母と子’からその前段階にある‘青年期の女性’に、微力ながら自分ができることは何かを模索しつつ関わっていかうと心新たに私自身の次へのスタートになったように思います。

まだまだ学生さんへの対応は勉強が必要ですが、保健管理センターでは困った時や分からないことがあるとすぐに相談できアドバイスがもらえるので大変に心強いです。頼りになる先生、先輩方と縁あって一緒に仕事ができ幸せだと実感しているこの頃です。

## 4年間を振り返って

保健管理センター松江（嘱託講師） 小林亮輔

保健管理センターで非常勤のカウンセラーとして勤務するようになって4年目になりました。大学に行かない日は、スクールカウンセラーとして小・中・高校へ行っています。スクールカウンセラーとしての活動は大学に来るようになる少し前から始まっていました。スケジュール帳がないと、今日、どこで何をすれば良いかすらわからない日替わり生活をする私に対し、多くの方がねぎらいの言葉をかけてくださいました。が、当の本人はと言えば周囲の心配などどこ吹く風と、むしろそのような生活を楽しみ、また、そこから多くのことを学んできました。学んだことの1つとして、小・中・高という流れを知ることができたことです。そのおかげで、例えば今目の前にいる中学生の小学生時代を、自分が出会ってきた小学校や小学生を通して想像し、また、これから迎える高校生時代を、自分が出会ってきた高校や高校生を通して、想像できるようになりました。もちろん、今目の前にいるのが、小学生でも高校生でも同じことです。その想像の精度がどうなのか、あるいは、想像できたから何なのかと問われても、何となくそう思うだけ、それを想像することが目の前の人にとって何となく良い気がするだけとしか答えられません。どこかの本で読み知ったか、あるいは自らが捏造したのかわからない「何となくそんな気がする、ということが大事だ」という言葉を頼りにここまでやってきました。そんな生活に4年前から大学が加わりました。つまり、大学をイメージしながら児童・生徒と関われるようになり、また保健管理センターでは、小・中・高の時代を想像しながら学生と関わっています。そんな自分と出会ってきた学生が「保健管理センターに来て良かった」と、何となく思っていてくれたらと願う日々です。

保健管理センターで非常勤のカウンセラーとして勤務するようになって4年目になりました。その間、いろいろな学生と出会ってきました。学生たちを前に私は、彼らの中に学生当時の自分、時には現在の自分を見ていました。自分を見るからこそ、時に彼らに腹を立て、時に寛容に見守ってきました。この逆転移をどのように扱うかが課題であり、同時に自分の武器であると思ってやってきました。そして、この部分が保健管理センターでの自分の役割の1つであり、存在意義だと考えてきました。学生に対して確実に貢献できたという感覚はいささかも持ててはいませんが、そんな自分の役割についてはある程度果たせて来られたのではないかと振り返ります。さてここで、1つ付け加えておかないといけなことがあります。この逆転移を、多くの方々は、そう遠くはない過去まで学生をやっていたこと、つまり私の年齢に起因されるかもしれませんが、決してそうではありません。ひとえに、私の常識の欠如、認識の甘さ、要は学生気分が抜けていない（と言うと学生に失礼ですが）個人的な要因が大きいという、ただそれだけのことです。このことを付け加

えておかないと、立派に社会人をやっている同級生たちに申し訳が立ちません。悪しからず。

保健管理センターで非常勤のカウンセラーとして曲がりなりにも4年目を迎えられるのも、周りの諸先輩方のサポートがあったからこそです。1年目は右も左もわからない状態でしたが、4年目になり、ようやく右はお箸を持つ方で、左はお茶碗を持つ方だということくらいまでわかるようになってきました。粘り強く、暖かく見守っていただいたことに深く感謝申し上げます。そしていつの間にか、入学生として出会った学生が卒業するほどの月日が経ちました。私もいい加減、諸先輩方におんぶに抱っこ状態であることも、「何となく良い気がする」だの「学生気分が抜けていないことが武器」だのと巧言することも、そろそろ卒業しなければいけないと思うようになりました。卒業試験に向けて頑張ろうと思います。保健管理センターで非常勤のカウンセラーとして勤務するようになって4年になります。

## 学生相談の世界を「共に」歩いて

保健管理センター松江（嘱託講師）

執行三佳

松江キャンパスの正門を抜けると、記憶よりずっと短いメインストリートの両端に、記憶よりぐんと背が伸び緑の豊かになった街路樹が並んでいました。当大学の卒業生ではない私の「記憶」とは、小学生、中学生だった頃のものであり、大学祭とその他の機会に何度か足を運んだ時のものです。

記憶をよみがえらせつつ松江キャンパスを歩いたのは、ほんの1年と数か月前のことです。週に半日ほどのごく短い時間だけの関わりではありますが、常勤スタッフのみなさんや学生さんたちに支えられ、励ましをもらい、学ばせてもらっています。本当にありがたい居場所となっています。そんな素敵で居場所では私は何を感じ、何をしようとしているのでしょうか。改めて思いめぐらせていると、「内なる宝石を求める物語」というイメージが浮かんできました。

誰かと出会い語り合うことは、そのたびに刺激的で、必ずどこかに小さな宝石と宝の地図があるはずだと感じられます。宝石はたいてい小さいものです。けれどもその光はあたりに柔らかい暖かさを与えてくれたり、すこし前をすっきり照らしてくれたりします。私は、学生さんが自分で何かを決断してほっとした表情を見せてくれたとき、すこし楽に生きるための程良いあきらめを手にしたときなどに、その宝石に出会いました。まさしく「出会った」という印象で、学生さんが一人で見つけてきたように感じることもあります。ま

たある時は、一緒に石を磨いていたら宝石だったということもあります。願わくは、たくさんの石と一緒に磨いて、輝きを一緒に喜びあえる機会を増やしていきたいものです。

では宝の地図とは何でしょうか。それは、先述の小さな宝石を見つけるための地図ではありません。そのようなものがあればたいそう楽なのですが、実際は磨くべき石と一緒に見つけ、どうやって磨くのかを一緒に考え、そして一緒にゴシゴシ…そんなイメージです。ここで言う宝の地図とは、私にとっての「考えるべき・考えたいテーマ」です。授業を受けることから友人関係まで、あらゆる面で「自ら動く」ことが求められる大学生活への戸惑いや不安を感じる学生さんにお会いすれば、彼らの目に映る日常やこころの風景に思いをはせます。それと同時に、高校から大学、そして社会という枠の変化は学生にとってどのような意味を持つのだろう、私はこの枠の変化にどのように触れていくことができるのだろうと、思索すべきテーマを与えてもらっています。また、家族との関係について悲しんだり喜んだりしながら話し合ってきた学生さんたちからは、一生抜け出すことのできない家族のつながりの渦中に私自身もいることに気付かされ、はからずとも内省の時をもらっています。そうやって得られた宝の地図を一步ずつ辿り、すこしずつ成長していくことができれば、その過程が、今度は私の小さな宝石になるのだと思います。

かつて大学祭に遊びに来ていた私は、小説が大好きな子どもでした。そして、今も変わりなく小説は大好きです。特に主人公の人生を描いた歴史小説が好きです。そこには必ず輝ける原石を磨く時間があります。自分を見つめ、たくさんのことを学び、社会との関わり方を模索していく過程が描かれています。小説よりずっとユニークで、時に複雑な学生さんたちの大学生活にほんの少し関与させてもらい、一緒に自分を見つめ、毎日の生活から学べる事を探し、そして人や社会との付き合い方を模索していく一助になりたい、この思いは、子どもの頃からずっと続いてきた私の心のありようの、一つの表現かもしれません。

松江キャンパス

## I : 事業・業務

○平成 21 年度

月	項目・内容
4 月	入学時定期健康診断（新入生） 入学式救護 【4～5 月】定期健康診断（在学生・留学生） 学生寮生の健康調査 【4～6 月】定期健康診断事後指導・措置（新入生・在学生・留学生）
5 月	保健管理センター第 1 回管理運営委員会 特別健康診断（RI 取扱者 学生・職員）
6 月	保健管理センター第 2 回管理運営委員会
7 月	
8 月	第 20 回島根学生相談研究会 中国五大学競技大会事前健康診断 第 39 回中国四国地方保健管理研究集会（鳥取市）
9 月	第 47 回全国大学保健管理研究集会（札幌市）
10 月	保健管理センター第 3 回管理運営委員会 平成 21 年度中国・四国地区メンタルヘルス研究協議会 中国五大学競技大会事前健康診断
11 月	保健管理センター第 4 回管理運営委員会（メール会議） 特別健康診断（RI 取扱者 学生・職員） 推薦入学試験救護 「保健管理センター」パンフレット発行
12 月	保健管理センター第 5 回管理運営委員会
1 月	水泳部寒中水泳大会救護 大学入試センター試験救護 保健管理センター第 6 回管理運営委員会（メール会議）
2 月	個別学力検査（前期日程）救護
3 月	全国大学保健管理協会中国四国地方部会幹事会 保健管理センター第 7 回管理運営委員会 個別学力検査（後期日程）救護 第 21 回島根学生相談研究会 卒業式救護
内科健康相談 4 月～7 月 : 2 回/月, 10 月～2 月 : 1 回/月 栄養・食生活相談 2 回/月	
保健管理センターミーティング（松江・出雲） 4/21, 7/6, 10/13, 11/13, 12/11, 1/22, 3/12	

○平成 22 年度

月	項目・内容
4 月	入学時定期健康診断（新入生） 入学式救護 【4～5 月】定期健康診断（在学生・留学生） 学生寮生の健康調査 【4～6 月】定期健康診断事後指導・措置（新入生・在学生・留学生）
5 月	保健管理センター第 1 回管理運営委員会 特別健康診断（RI 取扱者 学生・職員）
6 月	
7 月	全国学生相談研究会議 第 26 回エンカウンターグループ
8 月	第 22 回島根学生相談研究会 中国五大学競技大会事前健康診断 第 40 回中国四国地方保健管理研究集会（松山市）
10 月	第 48 回全国大学保健管理研究集会（千葉市） 中国五大学競技大会事前健康診断
11 月	中国五大学競技大会事前健康診断 特別健康診断（RI 取扱者 学生・職員） 推薦入学試験救護 「保健管理センター」パンフレット発行
12 月	
1 月	水泳部寒中水泳大会救護 大学入試センター試験救護
2 月	保健管理センター第 2 回管理運営委員会 個別学力検査（前期日程）救護
3 月	全国大学保健管理協会中国四国地方部会幹事会出席 第 23 回島根学生相談研究会 個別学力検査（後期日程）救護 卒業式救護
内科健康相談 4 月～7 月 : 2 回/月, 10 月～2 月 : 1 回/月 栄養・食生活相談 2 回/月	
保健管理センターミーティング（松江・出雲） 4/26, 5/24, 6/21, 8/9, 9/27, 10/29, 12/8, 1/31	

○平成 23 年度

月	項目・内容
4月	入学時定期健康診断（新入生） 入学式救護 【4～5月】定期健康診断（在学生・留学生） 【4～6月】定期健康診断事後指導・措置（新入生・在学生・留学生）
5月	保健管理センター第1回管理運営委員会 特別健康診断（RI取扱者 学生・職員）
6月	
7月	
8月	第24回島根学生相談研究会 第41回中国四国地方保健管理研究集会（岡山市） 中国五大学競技大会事前健康診断
9月	
10月	中国五大学競技大会事前健康診断
11月	第49回全国大学保健管理研究集会（下関市） 中国五大学競技大会事前健康診断 特別健康診断（RI取扱者 学生・職員） 推薦入学試験救護 「保健管理センター」パンフレット発行
12月	
1月	水泳部寒中水泳大会救護 大学入試センター試験救護
2月	個別学力検査（前期日程）救護
3月	全国大学保健管理協会中国四国地方部会幹事会出席 第25回島根学生相談研究会 個別学力検査（後期日程）救護 第36回中国・四国大学精神保健・学生相談研究会 卒業式救護
内科健康相談 4月～7月：2回／月，10月～2月：1回／月 栄養・食生活相談 2回／月	
保健管理センターミーティング（松江・出雲） 4/25, 6/8, 8/2, 9/27, 11/1, 12/13, 2/17, 3/9	

## Ⅱ : 保健管理業務

### 1. 健康診断・事後措置

#### ①学生定期健康診断

##### i .健康診断項目

平成 21, 22, 23 年度

学年等 項目	学部		大学院		留学生
	1 年	2 年以上	1 年	2 年以上	
計測	○	○	○	○	○
血圧	○	○	○	○	○
内科	該当者のみ	○	○	○	○
胸部 X 線	○	○	○	○	○
尿検査	○	該当者のみ	該当者のみ	該当者のみ	該当者のみ
心電図	該当者のみ	該当者のみ	該当者のみ	該当者のみ	該当者のみ
問診	○	—	○	—	—

実施時期は4月～5月で、1年生は入学式前後で各学部0.5日計2日間で実施している。  
2年生以上、大学院生等は午後0.5日を12回で行っている。

1年生は問診結果や既往歴、本人の希望等により、内科診察及び心電図検査を実施する。

2年生以上・大学院生・留学生の尿検査・心電図検査は経過観察該当者、医師の指示、希望者に対して実施する。

ii. 学生定期健康診断受診率

○平成 21 年度

学部

		1 年生		2 年生		3 年生		4 年生		5 年生以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
法文	対象者数	98	133	96	136	115	140	112	134	47	20
	受診者数	96	132	47	96	63	95	47	100	7	6
	受診率(%)	98.0	99.2	49.0	70.6	54.8	67.9	42.0	74.6	14.9	30.0
教育	対象者数	68	103	78	94	74	99	63	106	18	4
	受診者数	68	102	78	94	70	96	63	106	5	1
	受診率(%)	100.0	99.0	100.0	100.0	94.6	97.0	100.0	100.0	27.8	25.0
総合理工	対象者数	338	79	372	55	361	63	346	63	151	7
	受診者数	332	76	161	37	212	48	203	55	57	6
	受診率(%)	98.2	96.2	43.3	67.3	58.7	76.2	58.7	87.3	37.7	85.7
生物資源	対象者数	112	94	147	58	126	92	132	99	40	10
	受診者数	112	94	64	28	67	62	81	71	5	1
	受診率(%)	100.0	100.0	43.5	48.3	53.2	67.4	61.4	71.7	12.5	10.0
計	対象者数	616	409	693	343	676	394	653	402	256	41
	受診者数	608	404	350	255	412	301	394	332	74	14
	受診率(%)	98.7	98.8	50.5	74.3	60.9	76.4	60.3	82.6	28.9	34.1

大学院

		1 年生		2 年生		3 年生		4 年生以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女
人文社会科学	対象者数	3	6	0	1				
	受診者数	3	4	0	0				
	受診率(%)	100.0	66.7	0.0	0.0				
法務研究科	対象者数	20	11	22	5	13	6	5	1
	受診者数	7	7	16	2	9	3	2	0
	受診率(%)	35.0	63.6	72.7	40.0	69.2	50.0	40.0	0.0
教育学	対象者数	23	17	16	12	1	-		
	受診者数	22	17	11	9	1	-		
	受診率(%)	95.7	100.0	68.8	75.0	100.0	-		
総合理工学(前期)	対象者数	96	20	100	15	4	0		
	受診者数	91	18	84	18	3	0		
	受診率(%)	94.8	90.0	84.0	120.0	75.0	0.0		
総合理工学(後期)	対象者数	5	1	4	0	2	1	5	1
	受診者数	4	1	1	0	0	0	0	0
	受診率(%)	80.0	100.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生物資源科学	対象者数	32	21	37	18	4	2		
	受診者数	28	20	21	15	0	1		
	受診率(%)	87.5	95.2	56.8	83.3	0.0	50.0		
計	対象者数	179	76	179	51	24	9	10	2
	受診者数	155	67	133	44	13	4	2	0
	受診率(%)	86.6	88.2	74.3	86.3	54.2	44.4	20.0	0.0

## ○平成 21 年度

## 外国人留学生 (学部)

		1 年生		2 年生		3 年生		4 年生		5 年生以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
法文	対象者数	1	2	3	3	-	-	-	-	-	1
	受診者数	1	2	1	2	-	-	-	-	-	0
	受診率(%)	100.0	100.0	33.3	66.7	-	-	-	-	-	0.0
教育	対象者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	受診者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	受診率(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総合理工	対象者数	6	2	3	-	6	-	2	1	-	-
	受診者数	4	2	3	-	4	-	2	0	-	-
	受診率(%)	66.7	100.0	100.0	-	66.7	-	100.0	0.0	-	-
生物資源	対象者数	1	2	2	2	3	-	2	2	-	-
	受診者数	1	1	1	2	3	-	1	1	-	-
	受診率(%)	100.0	50.0	50.0	100.0	100.0	-	50.0	50.0	-	-
計	対象者数	8	6	8	5	9	0	4	3	0	1
	受診者数	6	5	5	4	7	0	3	1	0	0
	受診率(%)	75.0	83.3	62.5	0.0	77.8	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0

## 外国人留学生 (大学院)

		1 年生		2 年生		3 年生		4 年生以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女
人文社会科学	対象者数	3	3	-	4				
	受診者数	3	2	-	0				
	受診率(%)	100.0	66.7	0.0	0.0				
法務研究科	対象者数	-	-	-	-	-	-	-	-
	受診者数	-	-	-	-	-	-	-	-
	受診率(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
教育学	対象者数	-	5	1	3	-	-		
	受診者数	-	5	0	2	-	-		
	受診率(%)	-	100.0	0.0	66.7	-	-		
総合理工学(前期)	対象者数	4	4	1	1	2	4		
	受診者数	1	2	1	1	1	3		
	受診率(%)	25.0	50.0	100.0	100.0	50.0	75.0		
総合理工学(後期)	対象者数	1	0	6	1	2	4	5	-
	受診者数	1	0	0	1	0	2	0	-
	受診率(%)	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	-
生物資源科学	対象者数	2	1	3	3	-	2		
	受診者数	1	1	0	0	-	0		
	受診率(%)	50.0	100.0	0.0	0.0	-	0.0		
計	対象者数	10	13	11	11	4	6	5	0
	受診者数	6	10	1	4	1	5	0	0
	受診率(%)	60.0	76.9	9.1	36.4	25.0	83.3	0.0	0.0

## ○平成 22 年度

## 学部

		1 年生		2 年生		3 年生		4 年生		5 年生以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
法文	対象者数	113	128	98	132	98	145	114	140	40	18
	受診者数	113	128	32	68	62	110	71	106	5	4
	受診率(%)	100.0	100.0	32.7	51.5	63.3	75.9	62.3	75.7	12.5	22.2
教育	対象者数	65	111	67	103	77	94	72	102	16	8
	受診者数	64	111	60	102	74	92	69	97	5	3
	受診率(%)	98.5	100.0	89.6	99.0	96.1	97.9	95.8	95.1	31.3	37.5
総合理工	対象者数	344	64	330	78	373	58	353	62	163	9
	受診者数	336	63	181	29	190	40	237	56	48	5
	受診率(%)	97.7	98.4	54.8	37.2	50.9	69.0	67.1	90.3	29.4	55.6
生物資源	対象者数	126	84	110	94	154	65	165	90	51	20
	受診者数	125	84	45	32	72	40	75	72	8	7
	受診率(%)	99.2	100.0	40.9	34.0	46.8	61.5	45.5	80.0	15.7	35.0
計	対象者数	648	387	605	407	702	362	704	394	270	55
	受診者数	638	386	318	231	398	282	452	331	66	19
	受診率(%)	98.5	99.7	52.6	56.8	56.7	77.9	64.2	84.0	24.4	34.5

## 大学院

		1 年生		2 年生		3 年生		4 年生以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女
人文社会科学	対象者数	4	6	3	6	-	-		
	受診者数	4	6	2	4	-	-		
	受診率(%)	100.0	100.0	0.0	66.7	-	-		
法務研究科	対象者数	17	6	9	7	15	3	7	2
	受診者数	6	2	5	3	11	2	0	1
	受診率(%)	35.3	33.3	55.6	42.9	73.3	66.7	0.0	50.0
教育学	対象者数	12	23	16	13	-	1		
	受診者数	10	23	7	10	-	0		
	受診率(%)	83.3	100.0	43.8	76.9	-	0.0		
総合理工学(前期)	対象者数	94	12	93	19	6	0		
	受診者数	83	9	73	16	4	4		
	受診率(%)	88.3	75.0	78.5	84.2	66.7	0.0		
総合理工学(後期)	対象者数	5	1	5	1	3	-	5	1
	受診者数	5	1	2	1	2	-	0	0
	受診率(%)	100.0	100.0	40.0	0.0	66.7	-	0.0	0.0
生物資源科学	対象者数	26	21	30	19	6	2		
	受診者数	23	18	19	17	2	1		
	受診率(%)	88.5	85.7	63.3	89.5	33.3	50.0		
計	対象者数	158	69	156	65	30	6	10	3
	受診者数	131	59	108	51	19	7	0	1
	受診率(%)	82.9	85.5	69.2	78.5	63.3	116.7	20.0	0.0

○平成 22 年度

外国人留学生（学部）

		1 年生		2 年生		3 年生		4 年生		5 年生以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
法文	対象者数	2	1	-	1	3	3	-	-	-	1
	受診者数	2	1	-	0	3	2	-	-	-	0
	受診率(%)	100.0	100.0	-	0.0	100.0	66.7	-	-	-	0.0
教育	対象者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	受診者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	受診率(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総合理工	対象者数	4	1	5	2	4	1	6	-	-	-
	受診者数	4	1	4	1	3	1	1	-	-	-
	受診率(%)	100.0	100.0	80.0	50.0	75.0	100.0	16.7	-	-	-
生物資源	対象者数	1	2	-	1	2	2	3	-	1	
	受診者数	1	2	-	0	2	2	2	-	0	
	受診率(%)	100.0	100.0	-	0.0	100.0	100.0	66.7	-	0.0	-
計	対象者数	7	4	5	4	9	6	9	0	1	1
	受診者数	7	4	4	1	8	5	3	0	0	0
	受診率(%)	100.0	100.0	80.0	0.0	88.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

外国人留学生（大学院）

		1 年生		2 年生		3 年生		4 年生以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女
人文社会科学	対象者数	1	4	3	2	-	1		
	受診者数	1	4	3	2	-	0		
	受診率(%)	100.0	100.0	0.0	100.0	-	0.0		
法務研究科	対象者数	-	-	-	-	-	-	-	-
	受診者数	-	-	-	-	-	-	-	-
	受診率(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
教育学	対象者数	-	4	-	5	-	-		
	受診者数	-	4	-	4	-	-		
	受診率(%)	-	100.0	-	80.0	-	-		
総合工学(前期)	対象者数	4	2	2	-	1	4		
	受診者数	4	1	2	-	1	3		
	受診率(%)	100.0	50.0	100.0	-	100.0	75.0		
総合工学(後期)	対象者数	2	3	7	1	2	4	-	-
	受診者数	2	3	1	0	2	1	-	-
	受診率(%)	100.0	0.0	14.3	0.0	100.0	25.0	-	-
生物資源科学	対象者数	7	4	2	2	-	-		
	受診者数	4	2	1	2	-	-		
	受診率(%)	57.1	50.0	50.0	100.0	-	-		
計	対象者数	14	17	14	10	3	9	0	0
	受診者数	11	14	7	8	3	4	0	0
	受診率(%)	78.6	82.4	50.0	80.0	100.0	44.4	0.0	0.0

○平成 23 年度

学部

		1 年生		2 年生		3 年生		4 年生		5 年生以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
法文	対象者数	108	119	111	128	104	133	98	145	42	22
	受診者数	108	119	51	77	55	90	69	118	5	6
	受診率(%)	100.0	100.0	45.9	60.2	52.9	67.7	70.4	81.4	11.9	27.3
教育	対象者数	64	110	65	111	64	103	76	94	13	8
	受診者数	64	110	63	110	61	102	67	91	5	4
	受診率(%)	100.0	100.0	96.9	99.1	95.3	99.0	88.2	96.8	38.5	50.0
総合理工	対象者数	356	55	340	64	337	78	364	55	157	5
	受診者数	348	54	127	17	174	56	227	43	45	0
	受診率(%)	97.8	98.2	37.4	26.6	51.6	71.8	62.4	78.2	28.7	0.0
生物資源	対象者数	137	76	126	83	116	102	150	65	51	14
	受診者数	137	76	68	52	48	71	89	51	11	4
	受診率(%)	100.0	100.0	54.0	62.7	41.4	69.6	59.3	78.5	21.6	28.6
計	対象者数	665	360	642	386	621	416	688	359	263	49
	受診者数	657	359	309	256	338	319	452	303	66	14
	受診率(%)	98.8	99.7	48.1	66.3	54.4	76.7	65.7	84.4	25.1	28.6

大学院

		1 年生		2 年生		3 年生		4 年生以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女
人文社会科学	対象者数	9	3	4	6	-	-		
	受診者数	8	3	1	2	-	-		
	受診率(%)	88.9	100.0	0.0	33.3	-	-		
法務研究科	対象者数	13	6	10	4	5	4	6	2
	受診者数	1	4	0	0	4	2	1	2
	受診率(%)	7.7	66.7	0.0	0.0	80.0	50.0	16.7	100.0
教育学	対象者数	11	14	7	18	-	-		
	受診者数	11	12	4	17	-	-		
	受診率(%)	100.0	85.7	57.1	94.4	-	-		
総合工学(前期)	対象者数	121	20	91	12	6	1		
	受診者数	100	14	69	9	1	0		
	受診率(%)	82.6	70.0	75.8	75.0	16.7	0.0		
総合工学(後期)	対象者数	7	1	2	1	4	1	4	1
	受診者数	6	1	0	0	4	0	0	0
	受診率(%)	85.7	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
生物資源科学	対象者数	29	22	24	17	3	3		
	受診者数	26	18	18	12	1	1		
	受診率(%)	89.7	81.8	75.0	70.6	33.3	33.3		
計	対象者数	190	66	138	58	18	8	10	3
	受診者数	152	52	92	40	10	3	1	2
	受診率(%)	80.0	78.8	66.7	69.0	55.6	37.5	10.0	66.7

○平成 23 年度

外国人留学生（学部）

		1 年生		2 年生		3 年生		4 年生		5 年生以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
法文	対象者数	3	3	2	1	-	1	3	2	-	1
	受診者数	3	3	0	0	-	0	1	1	-	0
	受診率(%)	100.0	100.0	0.0	0.0	-	0.0	33.3	50.0	-	0.0
教育	対象者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	受診者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	受診率(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総合理工	対象者数	6	2	3	1	6	3	4	1	2	-
	受診者数	6	2	2	0	4	0	1	0	0	-
	受診率(%)	100.0	100.0	66.7	0.0	66.7	0.0	25.0	0.0	0.0	-
生物資源	対象者数	4	2	1	2	-	1	2	2	1	-
	受診者数	4	2	1	1	-	1	1	1	0	-
	受診率(%)	100.0	100.0	100.0	50.0	-	100.0	50.0	-	0.0	-
計	対象者数	13	7	6	4	6	5	9	5	3	1
	受診者数	13	7	3	1	4	1	3	2	0	0
	受診率(%)	100.0	100.0	50.0	25.0	66.7	20.0	33.3	40.0	0.0	0.0

外国人留学生（大学院）

		1 年生		2 年生		3 年生		4 年生以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女
人文社会科学	対象者数	1	-	1	4	-	-		
	受診者数	0	-	0	2	-	-		
	受診率(%)	0.0	-	0.0	50.0	-	-		
法務研究科	対象者数	-	-	-	-	-	-	-	-
	受診者数	-	-	-	-	-	-	-	-
	受診率(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
教育学	対象者数	-	-	-	1	-	-		
	受診者数	-	-	-	0	-	-		
	受診率(%)	-	-	-	0.0	-	-		
総合工学(前期)	対象者数	4	2	2	1	3	1		
	受診者数	2	1	1	1	1	0		
	受診率(%)	50.0	50.0	50.0	100.0	33.3	0.0		
総合工学(後期)	対象者数	3	2	2	3	2	-	5	1
	受診者数	1	1	0	1	1	-	1	0
	受診率(%)	33.3	0.0	0.0	33.3	50.0	-	20.0	0.0
生物資源科学	対象者数	4	1	4	3	2	1		
	受診者数	2	1	1	1	1	0		
	受診率(%)	50.0	100.0	25.0	33.3	50.0	0.0		
計	対象者数	12	5	9	12	5	2	5	1
	受診者数	5	3	2	5	3	0	1	0
	受診率(%)	41.7	60.0	22.2	41.7	60.0	0.0	20.0	0.0

### iii. 事後措置

#### ○血圧

自動血圧計で自己測定した結果、高値（収縮期血圧 140mmHg and/or 拡張期血圧 90mmHg）を示した学生に対し、手動で測定をする。手動測定でも高値だった学生は、呼び出して後日、二次検診を行っている。血圧高値者は定期的測定を勧めたり、肥満度や家族歴を考慮して内科校医または内科医受診、栄養相談へとつなげている。

#### 二次検診受診状況

	平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
対象者	153	18	102	13	150	9
受検者	114	17	79	10	127	8
血圧高値者 (%対受検者)	32(20.9)	3 (16.7)	14(17.7)	1 (10.0)	24(18.9)	1 (12.5)

#### ○結核検診(胸部X線撮影)

学校保健安全法に基づき、定期健康診断受診者に胸部の X 線撮影を実施している。異常所見があれば専門の医療機関を紹介し、精密検査の結果を確認している。

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
受 検 者		3,663	3,639	3,485
要精密検査者		10	6	9
精密検査受検者		10	6	9
精密検査 結果	異常なし	8	4	8
	要観察	2	1	1
	要治療	0	1	0

## ②特別健康診断(放射性同位元素 RI 等取扱者)

島根大学職員安全衛生管理規程第 23 条及び、島根大学総合科学研究支援センター遺伝子機能解析分野 RI 実験施設放射線障害予防規則第 18 条の規定により、放射線業務従事者の健診を年 2 回実施している。

1. 対象者:放射線・RI 取扱学生、教職員
2. 検査項目:①全身の自覚症状に関する問診
  - ②皮膚・眼球・爪の性状などの視診
  - ③一般血液検査(松江赤十字病院)

		平成 21 年度			平成 22 年度		平成 23 年度	
		5 月	11 月	3 月	6 月	12 月	5 月	11 月
新規登録者	学生	19	29	1	27	26	16	27
	職員	2	0	0	1	0	5	0
既登録者	学生	68	0	0	62	0	63	0
	職員	31	30	0	31	30	32	32
計		120	59	1	121	56	116	59
要精密検査者		1	0	0	0	1	0	1

## ③臨時健康診断 (体育系の部活・サークル健康診断)

大学を代表して対外試合に出場するスポーツ選手や、強化合宿、体育実技、各クラブ活動の合宿などに対応して臨時健康診断を実施している。

- 内科診察(聴打診)
- 血圧測定
- 身長・体重測定
- 検尿

### 臨時健康診断人数

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
中国五大学学生競技夏季大会	224	258	255
中国五大学学生競技冬季大会	125	116	117
その他の大会・合宿	78	81	69
計	427	455	441

## 2. 保健管理センター利用状況

### ①学生・職員などの健康相談等

健康相談の母性保健利用数は婦人科医師診察，保健師による相談を加算した数字である。

健康診断証明書発行は保健管理センターでの発行数で証明書自動発行機発行数は未算入である。

○平成 21 年度

		延べ件数				
		学生	留学生	職員	その他	合計
測定・検査	身体測定	439	1	20		460
	血圧測定	588	2	12	4	606
	体温測定	427	9	27	3	466
	尿検査	384				384
	その他	131	1	11	1	144
健康相談	内科系(医師による)	101	5	70	6	182
	外科系(医師による)	18	1	1		20
	母性相談	151	8	8		167
	保健・生活指導他	596	9	24	3	632
	その他	189	15	24	19	247
処置	投薬	498	9	139	3	649
	外科系	65	1	10	2	78
	休養室利用	71	1	11	2	85
	リラックス室・事務室休憩	291		11	8	310
	マッサージ機使用	21		8		29
	健診事後措置	246	2			248
	その他	21		1		22
専門医紹介	内科系	406	12	16	1	435
	外科系	156	2	6	4	168
	精神科	10		1		11
	婦人科	20	2	1		23
	その他	238	10	10	4	262
健康診断証明書発行		24	2	4		30
合計		5,091	92	415	60	5,658

学生は学部・大学院・研究生等でその他は卒業生・保護者等である。

定期健康診断受検者数は含んでいない。

○平成 22 年度

延べ件数

		学生	留学生	職員	その他	合計
測定・検査	身体測定	429				429
	血圧測定	529	3	8	1	541
	体温測定	264	8	18	8	298
	尿検査	368	6			374
	その他	139	5	2	4	150
健康相談	内科系(医師による)	101	5	81	11	198
	外科系(医師による)	14		2	1	17
	母性相談	157	7	7		171
	保健・生活指導他	260	7	16		283
	その他	220	4	11	1	236
処置	投薬	582	6	211	10	809
	外科系	78	3	9	1	91
	休養室利用	83	2	13	2	100
	リラックス室・事務室休憩	260		21	2	283
	マッサージ機使用	33		2		35
	健診事後措置	312	2			314
	その他	12	2		2	16
専門医紹介	内科系	276	13	10	3	302
	外科系	153	8	6	1	168
	精神科	14	1	1	1	17
	婦人科	25	2			27
	その他	270	14	13	4	301
健康診断証明書発行		36	8			44
合計		4,615	84	431	52	5,182

学生は学部・大学院・研究生等でその他は卒業生・保護者等である。  
定期健康診断受検者数は含んでいない。

○平成 23 年度

延べ件数

		学生	留学生	職員	その他	合計
測定・検査	身体測定	524	11			535
	血圧測定	644	9	9		662
	体温測定	289	13	24	3	329
	尿検査	389	1			390
	その他	100	22	3	1	126
健康相談	内科系(医師による)	107	8	86	2	203
	外科系(医師による)	20		3	2	25
	母性相談	221	7	17	2	247
	保健・生活指導他	481	17	31	2	531
	その他	205	11	12	8	236
処置	投薬	560	32	192	6	790
	外科系	109	11	5	1	126
	休養室利用	47		7	5	59
	リラックス室・事務室休憩	180		74	6	260
	マッサージ機使用	4	1	8	2	15
	健診事後措置	334	4	1		339
	その他	6				6
専門医紹介	内科系	312	15	9	1	337
	外科系	174	15	7	2	198
	精神科	15		2	1	18
	婦人科	42	2	1	1	46
	その他	238	24	9	2	273
健康診断証明書発行		45	3			48
合計		5,046	179	483	45	5,789

学生は学部・大学院・研究生等でその他は卒業生・保護者等である。

定期健康診断受検者数は含んでいない。

## ②栄養相談

管理栄養士 石倉陽子（学生支援課）

栄養相談は、毎月、予約制で水曜日の午後を中心に個別で実施しており、ここ数年の1年間当たりの相談件数は、約110件である。

対象は、定期健康診断時の身長・体重測定値からBMIを算出し、その値が適正範囲外の学生や、高血圧などの所見があり食生活の改善が必要と認められた学生で、相談内容は体重に関わるものが圧倒的に多い。また、その他にも申し出があれば随時、個別面談やメールで対応している。

相談日前に食生活調査票・食行動調査票を配布し、記入後提出してもらうことで、相談者が知りたいと思っている内容や、食習慣等を事前に把握できる。面談時に各々にあった回答や助言ができることで相談者のモチベーションアップへと繋がり、成果を挙げている。

栄養相談指導者数

	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	実人数	延件数	実人数	延件数	実人数	延件数
学生	44	113	34	114	34	103

## 食生活の調査

近年、「食」を取り巻く環境は変化を続け、終日営業の飲食店やコンビニの増加で便利になった反面、生活は夜型化して日常生活のリズムは大きく崩れてきている。その影響は大学生にとっても大きく、朝食の欠食、食事の選択能力の不足、調理技術の不足、孤食の増加、食費の行き過ぎた節約といったような問題を引き起こし、特に一人暮らしをしている学生に顕著である。

そこで学生の実態を把握するため、平成23年1月に本学の一講義を受講している学生117人（男子65名、女子52名）を対象にアンケートを実施した。方法は、大学生を含む青年層でよく取り上げられる食生活の問題点を15項目挙げ、該当するものを複数回答で選択してもらい、どの項目が多いか調査した。

その結果、一番多かった項目は「同じものばかりを買う傾向がある」、「食事はひとりで食べることが多い」で48.7%、次いで「生活費の節約はまずは食費から」で36.8%であった。男女別では、男子はひとり当たりの選択数が多く、ひとりが多くの問題点を抱えていることがうかがえた。

これらの問題点が重なりあって、栄養の過不足を招き、生活習慣病の要因を作っていると考えられる。このような状況を踏まえ、保健管理センターとしては、「食」の大切さを伝えると共に問題解決に繋がるような情報を発信し、健康に大学生活を過ごせるよう支援していくことが重要である。

### 【アンケートの内容】

※該当するものは全て選択してもらった。

<朝食の欠食に関する項目>

1. 朝は出かける時間ぎりぎりまで寝ている。
2. 朝食は食べないことが多い。

3. 午前中は頭がぼ～としていることが多い。

<食事選択能力に不足に関する項目>

4. ファストフードやコンビニをよく利用する。                      5. 同じものばかりを買う傾向がある。  
 6. 外食はラーメン・丼などの単品物が多い。  
 7. 満腹にさえなればよい。栄養バランスはあまり考えない。

<孤食に関する項目>

8. 食事はひとりで食べることが多い                      9. 食事が楽しくない。  
 10. 外食する時もいつもひとり。

<調理技術に関する項目>

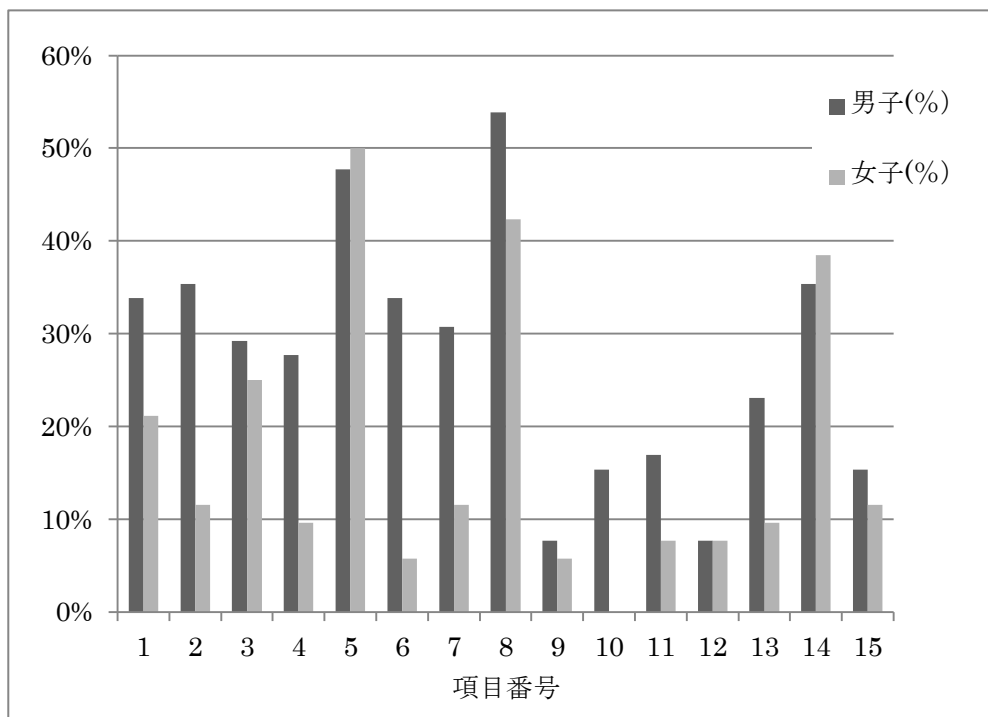
11. 包丁・鍋など調理器具をあまり置いてない。  
 12. 今まで料理を作ったり、手伝ったりしたことがない。  
 13. 家で食べる時はインスタ食品が多い。

<食費の節約と流用に関する項目>

14. 生活費の節約はまずは食費から  
 15. 食事を一食抜いてでも他のことにお金を使いたい。

【男女別の項目別人数割合 (%)】

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	朝食の欠食			食事の選択能力			孤食			調理技術			食費		
男子	33.8	35.4	29.2	27.7	47.7	33.8	30.8	53.8	7.7	15.4	16.9	7.7	23.1	35.4	15.4
女子	21.2	11.5	25.0	9.6	50.0	5.8	11.5	42.3	5.8	0.0	7.7	7.7	9.6	38.5	11.5
合計	28.2	0.2	27.4	19.7	48.7	21.4	22.2	48.7	6.8	8.5	12.8	7.7	17.1	36.8	13.7



### ③母性保健相談

#### ○女性の健康相談

学生・職員の月経不順、月経随伴症状、月経前不定愁訴など月経に関する悩み等に、婦人科医師や保健師が随時応じている。

#### 女性の健康相談内訳（延数）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
月経痛	29	42	73
月経不順	41	37	47
無月経	18	13	27
不性出血	20	20	26
過多月経	6	5	1
月経に関する不定愁訴	3	10	11
月経移動の相談	5	4	8
妊娠に関する相談	6	7	11
性感染症に関する相談	2	3	1
その他 <sup>1)</sup>	24	46	61
計	154	187	266

<sup>1)</sup> 帯下や外陰部の異常、子宮頸がん検診・頸がんワクチンに関すること、貧血、やせ、不妊に関する相談など

#### 相談に対する対応（延数）

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
医師診察	128	105	128
往診	3	2	2
鎮痛剤の投与	8	21	23
センターでの休養	10	12	11
セルフケア・日常生活等保健指導	29	48	73
月経周期・基礎体温測定指導	45	38	46
その他の保健指導 <sup>2)</sup>	5	8	18
医療機関紹介	28	39	68

<sup>2)</sup> 性感染症予防、避妊、子宮頸がん検診や頸がんワクチンの受け方など

○学生定期健康診断時の母性保健相談

従来個別相談のみであったが、平成 21 年度より「月経に関するミニレクチャー」と称し教育を取り入れたグループ相談も実施することにした。新入生と学部 2 年生以上の対応に分けて実施し、内容は婦人科医師による「月経機序」のレクチャーと個別診察および保健師の保健指導である。

詳しく経過を知る必要がある学生は個別相談とし、それ以外の学生はグループで母性保健相談を行った。

・新入生

入学前の健康調査票を基に月経不順、月経随伴症状、月経前不定愁訴に所見のある学生を対象とした。

	健診受診者数	相談対象者数	相談来所者数	要経過観察者数
平成 21 年度	441	22	10	7
平成 22 年度	413	59	14	3
平成 23 年度	385	31	10	3

・学部 2 年生以上

健診受診表に過去の指導歴や月経状況を自己申告、または BMI 低値の学生を医師診察、保健師面接で相談対象とした。

	健診受診者数	相談対象者数	相談来所者数	要経過観察者数
平成 21 年度	1,041	21	12	4
平成 22 年度	1,012	9	2	2
平成 23 年度	1,012	21	14	11

相談対象者の主訴（延数）

	新 入 生			学部 2 年生以上		
	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
月経痛	9	44	13	3	4	5
月経不順	14	25	2	18	5	13
不定愁訴	-	17	4	-	1	-
その他	1	-	1	1	-	4

### 3. 精神保健相談・カウンセリング状況

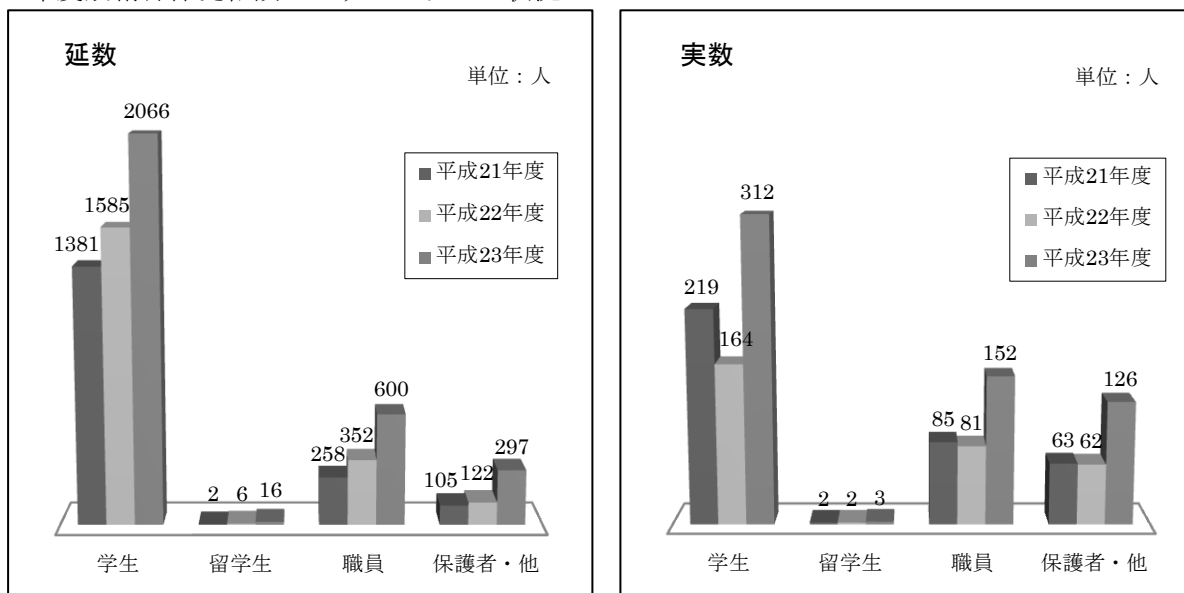
相談内容分類に関して、平成 23 年度から変更し、相談方法も集計に追加した。

実数、延数ともに平成 23 年度は平成 21 年度、22 年度と比して増加している。

要因として、集計時にメール、電話での相談をできるだけ算入したことが考えられる。そして、平成 20 年度「気になる学生調査」を教員に実施してから、教職員からの相談やコンサルテーションも増加している。保護者からの相談もあり、保護者や指導教員との連携も増えた。

学部生・大学院生ともに、入学時の定期健康診断において臨床心理士による面接を行っている。継続面接となる場合もあるが、困った時や相談の必要時に来所しやすい状況作りの一助となっていると思われる。

年度別精神保健相談・カウンセリング状況



#### ○平成 21 年度

##### 精神保健・カウンセリング延数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学 生	110	112	129	164	65	88	167	159	108	101	106	72	1,381
留学生	1									1			2
職 員	22	13	20	24	32	22	19	26	25	14	21	20	258
保護者・他	5	1	7	16	18	12	3	10	6	6	7	14	105
計	138	126	156	204	115	122	189	195	139	122	134	106	1,746

相談内容別精神保健・カウンセリング延数

	医師 診察	産業 医活動	修学	進路	学生 生活	家庭 家族	対人 関係	心身 健康	その 他	ハラス メント	申込 み	不明	計
学 生			143	23	25	1	132	918	31	25	56	29	1,383
職 員	54	19		80				105					258
保護者・他				55				19	31				105

学生：学部生，大学院生，留学生，研究生等

○平成 22 年度

月別 精神保健・カウンセリング延数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学 生	134	126	168	161	71	108	149	138	161	136	131	102	1,585
留学生	1		1				2	2					6
職 員	20	22	28	35	20	22	33	30	33	36	41	32	352
保護者・	5	5	7	17	11	9	9	12	17	10	8	12	122
計	160	153	204	213	102	139	193	182	211	182	180	146	2,065

相談内容別 精神保健・カウンセリング延数

	医師 診察	産業 医活動	修学	進路	学生 生活	家庭 家族	対人 関係	心身 健康	その 他	ハラス メント	申込 み	計
学 生			157	41	30	1	153	1,079	29	40	61	1,591
職 員	57	98		46				149		2		352
保護者・他				66				40	16			122

学生：学部生，大学院生，留学生，研究生等

○平成 23 年度

月別 精神保健・カウンセリング延数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学 生	253	189	213	185	132	121	184	187	169	171	162	100	2,066
留学生		1		1					5	3	4	2	16
職 員	57	44	51	53	42	33	38	50	44	55	65	68	600
保護者・他	47	27	32	38	31	15	19	15	11	19	18	25	297
計	357	261	296	276	205	169	241	252	229	248	249	195	2,979

相談方法別 精神保健・カウンセリング延数

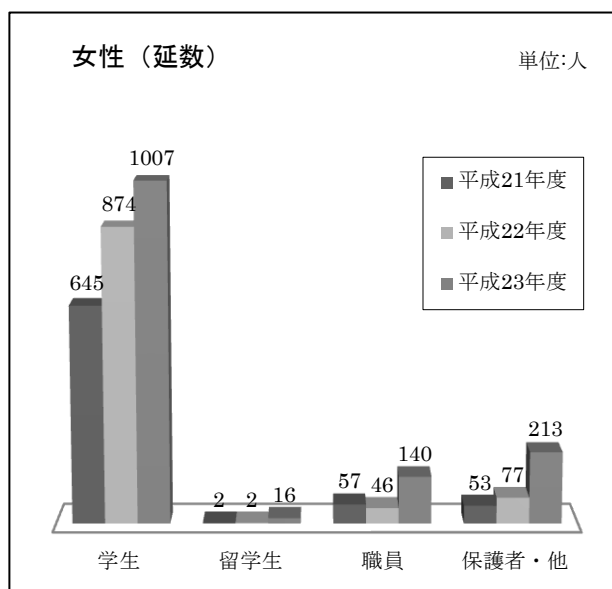
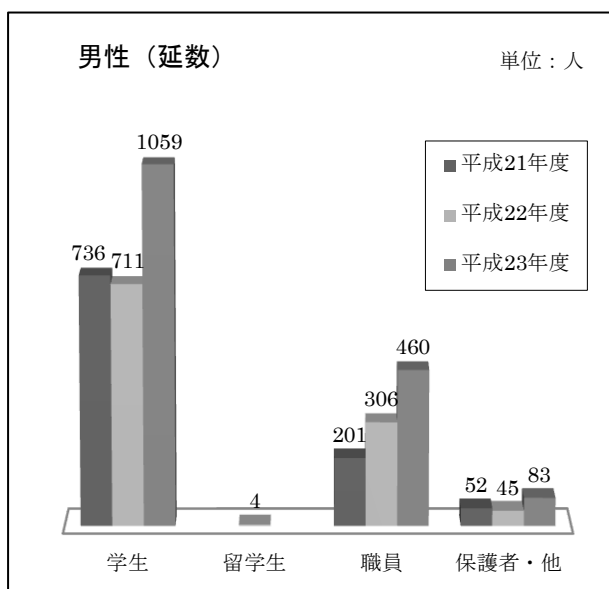
	医師 診察	産業 医活 動	カウ ンセ リン グ	コン サル テ ー シ ョ ン	修学 支 援	危機 介 入	そ の 他	カ ウ ン サ ル	カ ウ ン サ ル 支 援	コン サ ル ・ 危 機 介 入	修学 支 援 ・ 他	申 込 み ・ 他	キ ャ ン セ ル	計
学 生			1,295	3	548	10	131	1	2		1	53	22	2,066
留学生			9	1	1	1	4							16
職 員	52	74	141	248	20	1	62			1		1		600
保護者他			41	109	53	2	90	2						297
計	52	74	1,486	361	622	14	287	3	2	1	1	54	22	2,979

相談内容別 精神保健・カウンセリング延数

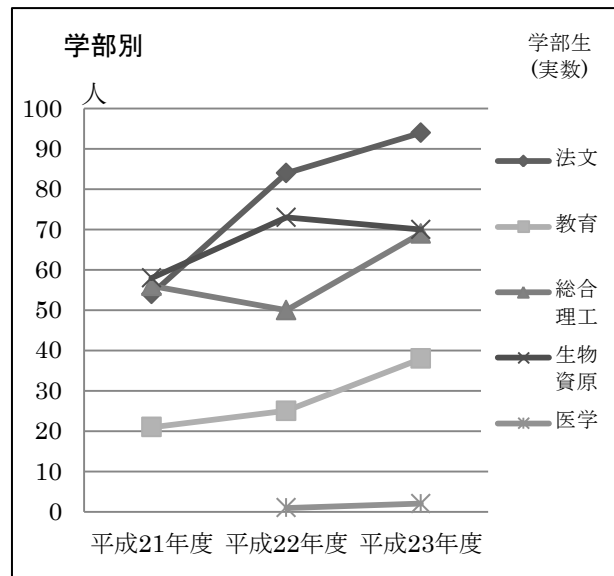
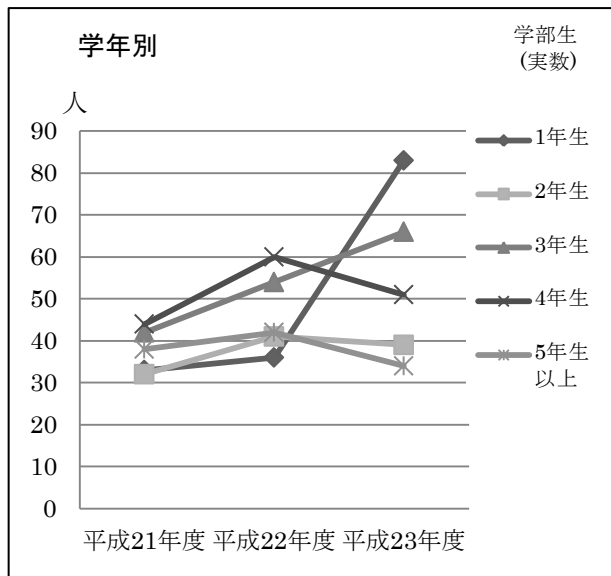
	医師 診察	産 業 医	修学	進 路	対 人	対 自 (健康)	生 活	そ の 他	不 明	修学 進 路	修学 対 自	進 路 対 人	進 路 対 自	対 人 対 自	申 込 み	計
学 生			533	77	29	1,181	37	114	23	1	12	1	2	3	53	2,066
留学生			1			11	2	2								16
職 員	52	74	126	2	2	120	5	206	12						1	600
保護者他		0	89	10	5	68	15	110								297
計	52	74	749	89	36	1,380	59	432	35	1	12	1	2	3	54	2,979

学生：学部生，大学院生，留学生，研究生等

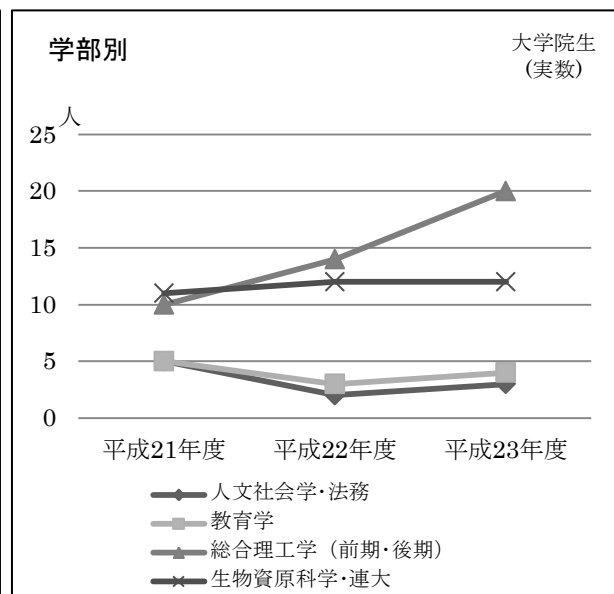
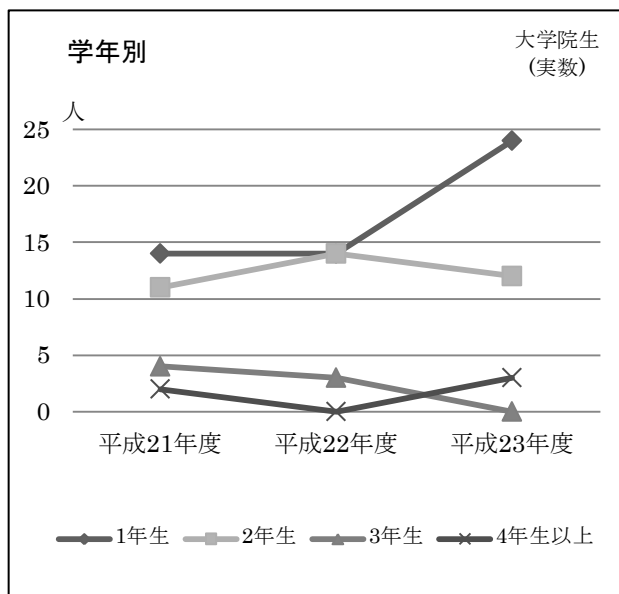
性別精神保健相談・カウンセリング延数



学部・学年別精神保健相談・カウンセリング実数（学部生）



学部・学部別精神保健相談・カウンセリング実数（大学院）



#### 4. その他の活動

##### ①発達障がい<sup>※(注)</sup>のある学生の支援について

###### i. 発達障がいについて

###### ○大学生の発達障がい

平成 17 年 4 月に施行された発達障がい者支援法第 8 条によると、「国及び地方公共団体は発達障がい児（18 歳以上の発達障がい者であって高等学校、中等教育学校及び特別支援学校に在学する者を含む）が、その障がいの状態に応じ、十分な教育を受けられるようにするため、適切な教育的支援、支援体制の整備その他必要な措置を講じるものとする。大学及び高等専門学校は、発達障がい者の障がいの状態に応じ、適切な教育上の配慮をするものとする」としている。ここでいう発達障がいとは、「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいその他これに類する脳機能の障がいであってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの」と定義されている。

平成 19 年 4 月から特別支援教育が施行され、小中学校で軽度発達障がいとして特別な支援を受けてきた学生が、大学に進学してきている。島根大学においても、入学前に発達障がいと診断されている学生もいるが、入学後に指導教員や保護者から「発達障がいではないか」と紹介されたり、本人の不応感を感じていると発達障がいと疑われたりする例が多い（表 1～表 3）。このような場合、本人や保護者が発達障がいと気づいていない場合が多く、診断を勧めて支援を行ったり、未診断のまま学生が困っていることについて具体的な課題解決方法を考えたりと、個々の事例について適宜検討して対応している。

表 1. 島根大学入学時に診断ありの学生

入学年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度
学生数	1	1		4	1	1	5

表 2. 入学後、医療機関で診断を受けた学生

診断年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度
学生数	3 (‘05, ‘08, ‘08 入学)	2 (‘07, ‘09 入学)	2 (‘07, ‘10 入学)	2 (‘10 入学)

表 3. 困難を抱え発達障がいと疑われる学生

		関わり始めの年度						
		2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度
入学年度	2004 年度		2		2	1		
	2005 年度	1			3	3		
	2006 年度					2	2	1
	2007 年度						2	
	2008 年度				1		3	
	2009 年度					1		2
	2010 年度						2	1
	2011 年度							

## ○発達障がいのある学生の困難さについて

保健管理センターでは、従来は発達障がいのある学生に個々で対応をしていた。平成 21 年度に島根大学重点プロジェクト経費（教育改革推進経費）により、専門のカウンセラーを 1 名増員し、発達障がいのある学生に対し当事者グループ、発達支援カウンセリングなどの支援を行った。平成 22 年度からは島根県東部発達障がい者支援センター「ウィッシュ」のグループにつながっている。

発達障がいの診断をすでに受けている学生からの相談は少なく、相談内容や生活場面のエピソードを聞いて、発達障がい疑われることが多い。学年によっても特徴があり、1 年次では履修登録ができない、教室が変更になるととどろき着けない、2・3 年次では、実験がみんなと一緒に出来ない、フィールドワークが苦手、レポートが書けない、4 年次では卒論が書けない、就職活動ができないといった相談が多い。これらは一見、学生の悩みとしてありそうだが、その内容を詳しく聞くと、全く卒論が書けていないという大変深刻なこともある。

発達障がいがあっても、記憶力などは大変すぐれていることも多く、高校や大学の初めのうちは本人の懸命な努力によってカバーされ、成績優秀なことも多い。しかし学年が進み、研究に必要な論理的・創造的な思考を要求されると、それに応えられなくなって本人が辛くなり、来談につながることもある。

以下に国立特別支援教育総合研究所が作成した発達障がいのある学生が示す困難の例を示すが、大学の教職員はこのようなことを認識し、学生に対応する必要がある。

## 発達障がいのある学生が示す困難の例（国立特別支援教育総合研究所、2007）

困難の領域	記述例
対人関係や大学での生活上のトラブルに関する事	「友人とうまく付き合えない」「約束を守ることができない」「借りたものをなくしてしまう」「サークルや級友とトラブルを起こすことが多い」「孤立している」「余暇時間が適切に使えず学内各部署に決まりきった質問をして回っている」「集団が苦手なため単独で休息できる空間を見つけると常に使用している」など
学業上の問題に関する事	「講義についていけない」「ノートが取れない」「テストができない」「課題、単位取得が予定通り進まないことからくる自己否定感」「提出期限が守れない」「科目履修の管理が困難」「本人は一生懸命学業に取り組んでいる様子であるが、成果が上がらない」「授業中、突然的の外れな質問をするため、授業が中断され困ることがある」など
行動・情緒面の問題に関する事	「物事がうまくいかないことで感情のコントロールが困難になり、パニックになる」「自己主張が強く、自省にかける」「気持ちが落ち込みやすい」「自尊心が低く、自分はダメな人間であると訴える」「感情的に起伏が多い」「不応場面ですべて断られて、手が出たりする」など
就労の問題に関する事	「進路を決められず就職活動がうまくいかない」「対人関係の形成に問題があるにもかかわらず、そういった能力を高く要求される職種を選ぶようして失敗を繰り返す」「面接ですべて断られる」「対人関係が主体の仕事や臨機応変が必要な仕事は困難」「やりたい職業が見つからない」「将来に対して漠然とした不安がある」など

※（注）「発達障がい」という用語については、この稿ではひらがな表記に統一したが、法律や文献などは原著の表記に従った。

ii. 学外機関との連携

○島根県東部発達障がい者支援センター「ウィッシュ」

a. 就労相談

平成 22 年度より、島根県東部発達障がい者支援センター「ウィッシュ」から保健管理センター松江に担当者が派遣され、月に 1 回相談活動を行っている。長期休暇を除く第 2 水曜に開催し、予約の受付は保健管理センターが行っている。

平成 22 年度		平成 23 年度	
日程	件数	日程	件数
4 月 14 日	1 名	6 月 15 日	1 名
5 月 26 日	1 名	7 月 13 日	1 名
7 月 14 日	1 名	10 月 12 日	0 名
10 月 20 日	1 名	11 月 9 日	0 名
12 月 8 日	1 名	12 月 14 日	1 名
1 月 12 日	3 名	1 月 11 日	0 名
2 月 9 日	1 名		

b. グループ活動

平成 23 年度からは、ウィッシュ担当者と保健管理センターカウンセラーがファシリテーターとなり、グループ活動を行っている。平成 23 年度はグループの開催回数は 6 回で、延べ 14 人が参加した。1 回の時間は 60 分で、「この場で話したことはこの場だけ」と、噂話などにならないように注意喚起し、さらに、「他の人が話しているときはしっかり聞きましょう」というルールのもとで実施している。

最初に短時間で緊張が解けるようにウォーミングアップを兼ねた簡単なゲームを行い、その後、「この 1 週間でよかったこと；グッドニュースを話してください」「この 1 週間でまずかったこと；バッドニュースを話してください」と身近なことを皆で共有する。それによりどんな出来事があり、どのように困ったのかを話す機会となり、解決のための方策も皆が参加して考えることができる。会話の中では、「物を失くして困っている」「家で洗濯機が使えない」「勉強はいつやっているか」「はまっていること」といった話題も出る。

授業時間との兼ね合いで、グループに参加できない学生もおり、前期・後期でメンバーも入れ替わりがあった。

平成 23 年度	
日程	参加者数
6 月 15 日	1 名
7 月 13 日	2 名
10 月 12 日	3 名
11 月 9 日	4 名
12 月 14 日	3 名
1 月 11 日	1 名

○独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 島根障がい者職業センター

障がい者職業センターは、職業評価・通所訓練、就職や職場定着に向けた支援を行っている。発達障がいのある学生にとっては、自分の社会的適性を知ることが、将来の自立に向けて必要になってくる。

学生の中には、職業評価・通所訓練の後、ハローワークの障がい者雇用としてのトライアル雇用で高い評価を得て、半年後に安定的な仕事へと転職した例もある。

○しまね東部若者サポートステーション

しまね東部若者サポートステーションは、若者（～40歳位）の支援を行っており、パソコン講座、就労支援セミナー、働くための基礎講座など若者向けのプログラムを行っている。

不登校の大学生にとって、いきなり登校するのはハードルが高く、前段階としてサポートステーションでのパソコン講座や就職のための面接練習に出た後、大学へつながる場合もあり、担当者と随時連携を取りながら進めている。

参考文献： 発達障がいのある学生支援ケースブック  
(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所編著)

## ②平成 23 年度年度新入生スクリーニング面接とカウンセラーによるフォローアップ

### 【はじめに】

保健管理センター松江では、10 年前より健康診断時に医師が新入生全員を対象としてスクリーニング面談を実施している。その効果をさらに発展させるため、5 年前からは「注意が必要な新入生」をカウンセラーに引継ぎ、入学から数か月にわたる期間を継続してフォローアップしている。平成 23 年度は、4～6 月の 3 ヶ月間、3 名の非常勤カウンセラーを特別配置し、面接のフォローアップを行ったので、その結果を報告する。

### 【目的】

新入生は大学生活に大きな期待をもつ一方、慣れない地での新しい生活、高校までとは異なる履修の仕組みの中で、強い緊張を強いられる。新入生が、島根大学での勉学と生活になじみ、充実した学生生活を送れるようになるために、入学後最初の数か月は重要な意味をもっている。健康診断に際して実施している医師による入学時スクリーニング面接と、カウンセラーによるフォローアップは、次のことを目的としている。

1) 次のような学生を早期に見つけ出す。

- ・大学生活に不安を覚える学生
- ・友人が出来るかどうか不安な学生（発達障害の学生が含まれる場合がある）
- ・健康調査票（精神面）の記入項目にチェックが多く、経過を見る必要がある学生
- ・本人から相談希望
- ・保護者から配慮の依頼があった学生
- ・健診時に医師の見立てで配慮を要する学生

2) 上記の学生をカウンセラーに確実に引継ぎ、カウンセラーが継続的に会うことで、入学早期のつまずきを最小限にする。

### 【方法】

1) 入学時スクリーニング面接

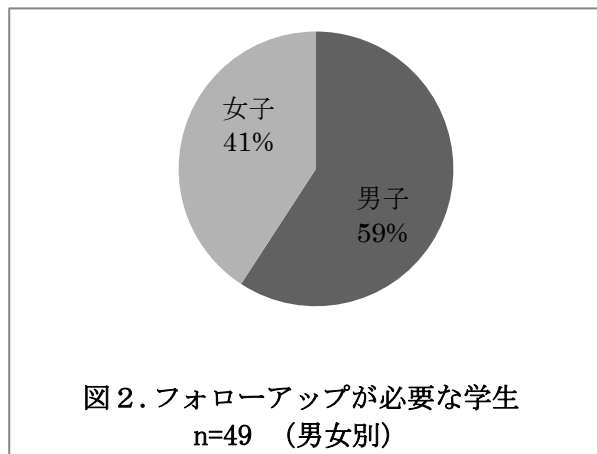
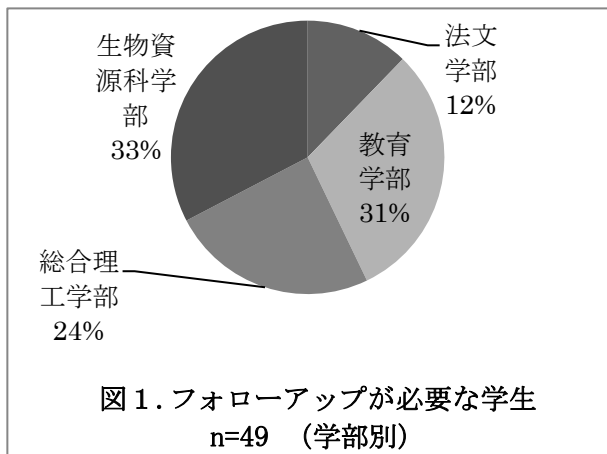
島根大学松江キャンパスは法文学部、教育学部、総合理工学部、生物資源科学部の 4 学部と、人文社会科学研究科、教育学研究科、総合理工学研究科、生物資源科学研究科、法務研究科の 5 研究科よりなり、新入生は約 1300 名である。新入生の健康診断は、2 学部ずつ 2 日に分けて実施しており、一通りの健診（身長、体重、血圧、視力測定）が終わった後、2 名の医師により健康面のチェックと、スクリーニング面談を行った。

2) カウンセラーによるフォローアップ

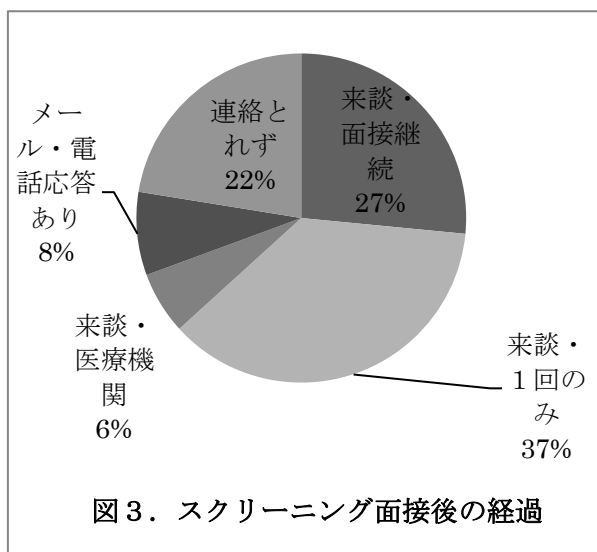
スクリーニング面接において、カウンセラーのフォローアップが必要と判断された学生は、当日カウンセラーと短時間会い、後日履修計画を組んだ後に授業の空き時間を利用してカウンセラーによるフォローアップを受けるよう勧める。カウンセラーによるフォローアップは、常勤カウンセラー 1 名、非常勤カウンセラー 4 名により行われた。カウンセラーによるフォローアップの内容は、大学になじんでいるか、困っていることはないかなどで、来談のなかった学生にはメールや電話で様子を聞いた。検討の統計は、 $\chi^2$  検定を用いて行った。

## 【結果】

1) 平成 23 年度のスクリーニング面接を行った学生は 1238 名で、カウンセラーによるフォローアップが必要とされた新生は 49 名（うち大学院生 2 名）で、新生全員に対する割合は 4.0% (49/1238) であった。学部別では法文学部 12% (6/49)、教育学部 31% (15/49)、総合理工学部 24% (12/49)、生物資源科学部 33% (16/49) であった (図 1)。男女別では男子 59% (29/49)、女子 41% (20/49) であった (図 2)。フォローアップが必要な学生は、学部や男女で差はなかった。



2) スクリーニング面接後の経過では、保健管理センターに来談した学生は 69% (34/49) で、平成 24 年 4 月現在も面接が継続している学生が 13 名、医療機関に紹介した学生が 3 名、一度は来談したが「大学生活に慣れた」、「大丈夫」と継続面接は希望しなかった学生が 37% (18/49) であった。8% (4/49) の学生は、来談がないためメールや電話で様子を聞いたが、「大学生活に慣れてきて、なんとかやれている」ということであった。メールや電話で連絡が取れない学生が 22% (11/49) あった (図 3)。



3) 来談した学生の中には、「授業中緊張が強く、語学のクラスで当てられるのが心配で、出席できない」と訴えた学生があり、外国語教育センターに配慮をお願いした。また、発達障害・精神障害などメンタルヘルスに問題を抱えた学生が 5 名あり、現在も面接を継続している。

4) 1 年後 (平成 24 年 4 月現在) の経過は、継続面接している学生が 4 名、休学している学が 2 名、不登校が 2 名、病院紹介や栄養相談で保健管理センターを利用している学生が 2 名あった。

## 【考察】

島根大学では、平成 20 年度より学生支援 GP による「気になる学生調査」を行っているが、指導教員から紹介があった学生の中には、学力不足や発達障害が疑われ保護者や指導教員との連携が必要となる学生や、メンタルヘルスが不良で保健管理センターでの継続面接や医療機関

への紹介が必要で、入学早期からの支援がされていれば大学に適応できていたと考えられる例も多かった<sup>1)</sup>。入学期（入学後1年間）は、学生が今までの生活から離れ、新しい生活へと移行する時期である。鶴田（2010）<sup>2)</sup>は、学生は入学に伴って生じた課題と、入学以前から抱えてきた課題とに直面し、大学のカリキュラムに慣れること、自分の関心領域を選ぶこと、大学や学部にも所属感を持つこと、学科や専攻を選ぶこと、新しい対人関係を作ること、親や家族から物理的・心理的に離れて関係を見直すこと、など新しい環境で生活を展開することが課題となる、と述べている。この時期に、カウンセラーによるフォローアップを行い、新しい環境に慣れるよう支援することは、重要と考えられる。

医師によるスクリーニング面接で、カウンセラーによるフォローアップが必要と判断された学生のうち、保健管理センターに来談した学生は69%（34/49）で、現在も面接が継続している学生が13名であった。この中には発達障害や精神障害の診断を受けており、日常的な修学・生活支援が必要な学生もいた。それらの学生に対しては、入学早期から保護者や指導教員と連携しながら支援を行っており、カウンセラーによるフォローアップが有効と考えられた。

1度は来談したが「大学生活に慣れた」、「大丈夫」と継続面接は希望しなかった学生に、メールや電話で様子を聞いたところ、「大学生活に慣れてきて、なんとかやれている」と答えた学生が8%（4/49）であった。これらの学生は、大学生活に順応してきており、今後何か困ったことがあれば自ら連絡もできると考えられる。

メールや電話で連絡が取れない学生が22%（11/49）あった。来談動機が本人にない場合、面接の継続は困難であるが、高野ら（2008）<sup>3)</sup>は、従来から検討されてきた、来談した学生にいかにも効果的な援助を提供できるかという検討課題ばかりでなく、来談に消極的であるものの問題を抱えている学生をいかに援助につなげていくかということも、学生相談の重要な検討課題である、と述べている。また、最上ら（2008）<sup>4)</sup>は従来の自主来談が中心の“待つ相談”に加え、“働きかける相談”への試みを推進し、大学全体の退学防止対策を行った結果、退学者が大幅に減少した、という取り組みを報告している。これらの学生の中には、発達障害が疑われる学生や、対人関係が困難である学生も含まれており、後々不登校や引きこもりになる可能性も否定できない。今後、来談動機が本人にない学生に対し、どのように対応していくのか、指導教員とどう連携していくのか、学生本人へのインフォームド・コンセントや守秘義務の問題も含め、大学全体で考えていく必要性が示唆された。

#### 【参考文献】

1. 河野美江、早瀬眞知子、荒川長巳、寺脇玲子、妹尾明子、深石優子：「気になる学生」調査報告。学生の自主的活動の評価と教育効果の向上 最終報告書、55～61, 2011
2. 鶴田和美：大学生を理解する視点。学生相談ハンドブック、日本学生相談学会 50周年記念誌編集委員会（編）、2010
3. 高野明 吉武清實 池田忠義 佐藤静香 関谷佳代：学生相談に対する援助要請の態度と学生相談に関して求める情報の関係。学生相談研究 28（3）、191-201, 2008
4. 最上澄枝、金子糸子、佐藤哲康、布施晶子、市来真彦：自ら助けを求めず潜在している学生に対する学内協働による取り組み—欠席過多学生対応プロジェクトを通して—、学生相談研究 28（3）、214-224, 2008



### Ⅲ. 教職員の健康管理

教職員の健康管理に関しては、小康状態が続いている。ただ、「試し出勤（現在はリハビリ出勤とは言わない）」の実施が年々難しくなっている。正職員の数が減り、どこの部署も余裕がないためである。事務系職員に関しては、個人評価を採用してから職員が孤立しているのではないかと危惧しており、「ストレス反応」と「チームの健康度調査」を同時に実施した。その結果は、少なくとも職員がストレスを感じておりチーム機能が万全でないと感じていることがわかった。教員に関しては、いったん病休に入ってしまうと、復職はきわめて困難である。そこで、早期に発見して仕事量を減らすなど軽減措置をとりなんとか仕事を続けられるようにすることに重点を置くようにしている。

しかし、今後少子化は続くのであり、すでに一部の学部、学科では定員割れが起きている。その結果、精神的に未熟だけでなく学力のない学生が増え、世話見の良い教員には燃え尽き症候群が危惧される状況である。一方、研究者として育てられた教員の中には教育職としての自覚が乏しく、アカデミックハラスメントが頻発する可能性も大きい。事務職は削減が続き、一方で少子化という環境変化のため新たな職務も発生しており、ストレスも増大する一方である。このように職場環境が好転する兆しはない。環境変化に耐えられるように、職場の文化を変えることが必要と考え、ワークショップを取り入れた新人研修の講師などを実施している。

（産業医 荒川長巳）

## IV. 広報・啓発活動報告

### 1. 学内研修会の開催

#### ○第3回SDフォーラム

「発達障害のある学生の理解と支援」講演会

開催日：平成21年9月8日（火）

場 所：島根大学松江キャンパス 教養講義室2号館701教室

島根大学出雲キャンパス 講義棟31番講義室

「学生相談窓口寄せられた相談事例について」

学生支援課 寺脇玲子

「島根大学における発達障害のある学生への支援」

講師：保健管理センター 河野美江

「富山大学における発達障害学生への支援メニューとサポートの一例」

講師：富山大学保健管理センター 西村優紀美准教授

#### ○発達障がいのある学生支援研修会

「大学時代を中心に半生を振り返って（ソルトの場合）」

開催日：平成22年2月24日（水）総合理工学部・生物資源科学部教授会

平成22年11月17日（水）教育学部・法文学部教授会教育学部

アスペルガー症候群当事者（ハンドルネーム・ソルトさん）から、発達障がいの特性や特徴、必要な支援についてお話しいただいた。

#### ○GP研修会

「学内協働の学生支援」－快適な学生生活を過ごすための支援について－

開催日：平成23年3月9日（水）

場 所：島根大学松江キャンパス 教養講義室2号館701教室

島根大学出雲キャンパス 講義棟31番講義室

「大学生に対するメンタルヘルス支援について」

講師：こころの診療所 細田クリニック院長 細田眞司医師

「気になる学生」調査について

講師：保健管理センター 河野美江

「大学生における学生相談」

講師：深石優子臨床心理士、妹尾明子臨床心理士

## 2. 教員・学生対象の研修会

### ○平成 21 年度

- 総合理工学部新入生対象 「学生生活の安全—カルト勧誘を中心に—」(荒川)
- 総合理工学部電子制御学科新入生対象「コミュニティづくりワークショップ」(2回・荒川)
- 法文学部法経学科新入生対象 「コミュニティづくりワークショップ」(荒川)
- 島根大学新規採用者研修 (荒川)
- 法文学部教授会「指導教員と連携した学生相談の取り組みについて」(河野)
- 附属中学校教員「子どもたちの心とからだの声を聴こう」(河野)
- サークルリーダー研修会「予防しよう ～新型インフルエンザ、熱中症、薬物など」(河野)
- 総合理工学部教授会「セクハラ研修会」(河野)

### ○平成 22 年度

- 総合理工学部新入生対象 「学生生活の安全—カルト勧誘を中心に—」(荒川)
- 総合理工学部電子制御学科新入生対象「コミュニティづくりワークショップ」(2回・荒川)
- 法文学部法経学科新入生対象 「コミュニティづくりワークショップ」(荒川)
- 島根大学新規採用者研修 (荒川)
- 島根大学新規採用者フォローアップ研修 (荒川)
- 医学部「保育サポーター養成講座」(河野)
- 男女共同参画推進室 「子育てサポーター養成講座」(河野)

### ○平成 23 年度

- 総合理工学部新入生対象 「学生生活の安全—カルト勧誘を中心に—」(荒川)
- 総合理工学部電子制御学科新入生対象「コミュニティづくりワークショップ」(2回・荒川)
- 法文学部法経学科新入生対象 「コミュニティづくりワークショップ」(荒川)
- 島根大学新規採用者研修 (荒川)
- 島根大学新規採用者フォローアップ研修 (荒川)
- 法文学部教授会「気になる学生」調査報告 (河野)

## 3. 保健管理センター ホームページ

アドレスは <http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/~health/> で、随時更新を行っている。

### 【2009. 7. 17 発行】 熱中症に注意しましょう！

7月に入り、急に暑くなってきました。昨年もスポーツ活動中に、熱中症で保健管理センターに運ばれた学生が何人もいました。

熱中症とは、体の中と外の“あつさ”によって引き起こされる様々な体の不調で、梅雨の合間に突然気温が上昇した日や梅雨明けの蒸し暑い日、合宿の初日などには事故が起こりやすいので注意が必要です。暑熱環境での体温調節能力には、暑さへのなれが関係しています。急に暑くなったときは運動を軽減し、暑さになれるまでの数日間は、短時間の軽い運動から徐々に増やしていくようにしましょう。

熱中症は、大変に身近なところでおきています。そのため、十分にその危険性を認識しておくことが必要です。

①熱失神：皮膚血管の拡張によって血圧が低下し、脳血流が減少しておこるもので、めまい、失神などがみられる。顔面そう白となって、脈は速くて弱くなる。

②熱疲労：脱水による症状で、脱力感、倦怠感、めまい、頭痛、吐き気などがみられる。

涼しい場所に運び、衣服をゆるめて寝かせ、水分を補給すれば通常は回復します。

足を高くし、手足を末梢から中心部に向けてマッサージするのも有効です。

吐き気やおう吐などで水分補給ができない場合には、病院に運び、点滴を受ける必要があります。

③熱けいれん：大量に汗をかいたときに水だけしか補給しなかったため、血液の塩分濃度が低下して、足、腕、腹部の筋肉に痛みをともなったけいれんがおこる。

生理食塩水（0.9%）を補給すれば、通常は回復します。

④熱射病：体温の上昇によって中枢機能に異常をきたした状態。意識障害（反応が鈍い、言動がおかしい、意識がない）がおこり、死亡率が高い。

死の危険のある緊急事態です。体を冷やしながら、集中治療のできる病院へ一刻も早く運ぶ必要があります。いかに早く体温を下げて意識を回復させるかが予後を左右するので、現場での処置が重要です。体温を下げるには、水をかけたり濡れタオルを当てて扇ぐ方法、くび、腋の下、足の付け根など太い血管のある部分に氷やアイスパックをあてる方法が効果的です。循環が悪い場合は、足を高くし、マッサージをします。症状としては、意識の状態と体温が重要です。意識障害は軽いこともあります。応答が鈍い、言動がおかしいなど少しでも異常がみられる時には重症と考えて処置しましょう。

### 熱中症予防のために

暑い時には服装は軽装にし、素材も吸湿性や通気性のよいものにしましょう。屋外で直射日光がある場合には帽子を着用しましょう。

また、防具をつけるスポーツでは、休憩中に衣服をゆるめてできるだけ熱を逃がし、円滑な体温調節を助ける工夫が必要です。

汗は体から熱を奪い、体温が上昇しすぎるのを防いでくれます。しかし、失われた水分を補わないと脱水になり、体温調節能力や運動能力が低下します。暑いときにはこまめに水分を補給しましょう。また、汗からは水と同時に塩分も失われます。塩分が不足すると熱疲労からの回復が遅れます。水分の補給には0.1～0.2%程度の食塩水が適当です（スポーツドリンクは糖分が多いので、水で2倍に薄めると良いです。）

引用：財団法人 日本体育協会ホームページ <http://www.japan-sports.or.jp/medicine/guidebook1.html>

## 【2011. 9. 26 発行】 ハチに注意してください！

8月以降ハチに刺される事故が多数発生し、先日、本学でも3人の学生がスズメバチに襲われ入院する事故が発生しました。幸い大事には至りませんでした。学生・教職員のみなさんは下記にご留意の上、ハチに刺されないようご注意ください。

### ◆刺されないための注意

- ハチの巣に近づかない、揺すらない。
- 白い帽子、衣服を着る。
- 身を低くする。
- 整髪料、香水を付けない。
- ハチに遭遇したら後ろにゆっくり下がりながら逃げる。
- 手で払わない。

### ◆刺された場合の対応

- すぐに毒を絞り出し（口で吸い出さず、指でつねって絞り出す）、良く水で洗って冷やす。
- 抗ヒスタミン軟膏やステロイド剤、タンニン酸水を塗布する。
- できるだけ皮膚科を受診する。

### ◆アナフィラキシー症状出現時の対応

- （一度刺された人がハチ毒に対して抗体ができ、2度目に刺されたときにアレルギーを起こすこと）
- 症状は極めて短時間で起こります。少しでも変わった症状がみられたら速やかに医療機関を受診してください。

## 4. カルト対策

- ・合格通知に新入生および保護者あてにカルトに気をつけるよう書いたチラシを同封した。
- ・入学式の祝辞において保健管理センター所長がカルトに対する注意を促した。
- ・新入生の健康診断時に注意を喚起し、すでに勧誘を受けていたら勧誘手口の情報を収集した。
- ・一般教養「健康スポーツ科学概論」の講義において、最新の勧誘手口とともにカルトの危険について講義をした。
- ・総理工学部新入生を対象に、「学生生活の安全—カルト勧誘を中心に—」の講義をした。
- ・具体的な勧誘手口がわかった段階で、チラシを制作し新入生必修の英語の講義でチラシを配布した（H21, 22年度）。
- ・具体的な勧誘手口がわかった段階で、メールを利用して全学生に注意を喚起した（H23年度）。

出雲キャンパス

## I 事業・業務

○平成 21 年度

月	行 事	内 容
4 月	新入生オリエンテーション 新入生健康調査 新入生心理テスト 学生定期健康診断	保健管理センターの利用案内等 健康管理カードの提出 ACS 健康調査表の提出 胸部 X 線検査、内科、耳鼻咽喉科、眼科
5 月	学生定期健康診断 小児感染症および B 型・C 型肝炎の抗体等に関する検査	胸部 X 線検査、内科、耳鼻咽喉科、眼科
6 月	学生定期健康診断事後措置	再検査（尿、血圧）、受診勧奨
7 月	学生定期健康診断事後措置 B 型肝炎ワクチン接種 健康教室（西医体対策）	再検査（尿、血圧）、受診勧奨  テーピング講習会
8 月	入学者選抜（医学科学士入学、看護学科 3 年次編入学） 第 20 回島根学生相談研究会 第 39 回中国・四国大学保健管理研究集会（鳥取市）	救護
9 月	入学者選抜（医学科学士入学第 2 次試験） 第 47 回全国大学保健管理研究集会（札幌市）	救護
10 月	小児感染症および B 型・C 型肝炎の抗体等に関する検査 外国人研究留学生・外国人研究者健康診断（～11 月）	
11 月	インフルエンザワクチン接種（～12 月） ツベルクリン反応検査（～12 月）	医学科 5・6 年, 看護学科 3・4 年希望者
12 月	入学者選抜（推薦入学）	救護
1 月	B 型肝炎ワクチン接種（～2 月） 大学入試センター試験	救護
2 月	入学者選抜（前期日程試験）	救護
3 月	入学者選抜（後期日程試験） 第 21 回島根学生相談研究会 全国大学保健管理協会中四国地方部会幹事会（岡山）	救護

### 【年間を通しての業務】

1. センター出雲会議 月 1 回
2. 日常の健康相談（身体面およびこころの健康相談）
3. 応急処置
4. 医療機関（専門医）への紹介
5. こころの健康相談（定例） 和田臨床心理士 週 1 回、早瀬臨床心理士 月 2 回
6. 健康診断書の発行
7. 休養室の利用
8. 救急カバンの貸し出し
9. 機器の利用案内（体内脂肪計、血圧計、視力計等）

○平成 22 年度

月	行 事	内 容
4 月	新入生オリエンテーション 新入生健康調査 新入生心理テスト 学生定期健康診断	保健管理センターの利用案内等 健康管理カードの提出 ACS 健康調査表の提出 胸部 X 線検査、内科、耳鼻咽喉科、眼科
5 月	学生定期健康診断	胸部 X 線検査、内科、耳鼻咽喉科、眼科
6 月	学生定期健康診断事後措置 小児感染症および B 型・C 型肝炎の抗体等に関する検査、 B 型肝炎ワクチン接種（～7 月）	再検査（尿、血圧）、受診勧奨
7 月	学生定期健康診断事後措置 健康教室（西医体対策）	再検査（尿、血圧）、受診勧奨 テーピング講習会
8 月	入学者選抜（医学科学士入学、看護学科 3 年次編入学） 第 22 回島根学生相談研究会 第 40 回中国・四国大学保健管理研究集会（松山市）	救護
9 月	入学者選抜（医学科学士入学第 2 次試験）	救護
10 月	小児感染症および B 型・C 型肝炎の抗体等に関する検査 外国人研究留学生・外国人研究者健康診断 第 48 回全国大学保健管理研究集会（千葉市）	
11 月	インフルエンザワクチン接種（～12 月） ツベルクリン反応検査（～12 月）	医学科 5・6 年、看護学科 3・4 年希望者
12 月	入学者選抜（推薦入学）	救護
1 月	B 型肝炎ワクチン接種（～2 月） 大学入試センター試験	救護
2 月	入学者選抜（前期日程試験）	救護
3 月	入学者選抜（後期日程試験） 第 23 回島根学生相談研究会 全国大学保健管理協会中四国地方部会幹事会（岡山）	救護

【年間を通しての業務】

1. センター出雲会議 月 1 回
2. 日常の健康相談（身体面およびこころの健康相談）
3. 応急処置
4. 医療機関（専門医）への紹介
5. こころの健康相談（定例） 和田臨床心理士 週 1 回、早瀬臨床心理士 月 2 回
6. 健康診断書の発行
7. 休養室の利用
8. 救急カバンの貸し出し
9. 機器の利用案内（体内脂肪計、血圧計、視力計等）

○平成 23 年度

月	行 事	内 容
4 月	新入生オリエンテーション 新入生健康調査 新入生心理テスト 学生定期健康診断	保健管理センターの利用案内等 健康管理カードの提出 ACS 健康調査表の提出 胸部 X 線検査、内科、耳鼻咽喉科、眼科
5 月	学生定期健康診断 小児感染症及び B 型・C 型肝炎の抗体等に関する検査	胸部 X 線検査、内科、耳鼻咽喉科、眼科
6 月	学生定期健康診断事後措置	再検査（尿、血圧）、受診勧奨
7 月	学生定期健康診断事後措置 B 型肝炎ワクチン接種 健康教室（西医体対策）	再検査（尿、血圧）、受診勧奨  テーピング講習会
8 月	入学者選抜（医学科学士入学、看護学科 3 年次編入学） 第 24 回島根学生相談研究会 第 41 回中国・四国大学保健管理研究集会（岡山市）	救護
9 月	入学者選抜（医学科学士入学第 2 次試験）	救護
10 月	小児感染症及び B 型・C 型肝炎の抗体等に関する検査 外国人研究留学生・外国人研究者健康診断	
11 月	インフルエンザワクチン接種（～12 月） 第 49 回全国大学保健管理研究集会（下関市）	医学科 5・6 年、看護学科 3・4 年希望者
12 月	外国人研究留学生・外国人研究者来日時健康診断 ツベルクリン反応検査 入学者選抜（推薦入学）	救護
1 月	B 型肝炎ワクチン接種（～2 月） 大学入試センター試験	救護
2 月	入学者選抜（前期日程試験）	救護
3 月	入学者選抜（後期日程試験） 第 25 回島根学生相談研究会 全国大学保健管理協会中四国地方部会幹事会（岡山）	救護

【年間を通しての業務】

1. センター出雲会議 月 1 回
2. 日常の健康相談（身体面およびこころの健康相談）
3. 応急処置
4. 医療機関（専門医）への紹介
5. こころの健康相談（定例） 和田臨床心理士 週 1 回、早瀬臨床心理士 月 2 回
6. 健康診断書の発行
7. 休養室の利用
8. 救急カバンの貸し出し
9. 機器の利用案内（体内脂肪計、血圧計、視力計等）

## II 保健管理業務

### 1. 学生定期健康診断および事後措置

健康診断項目

平成 21、22、23 年度

項目 学年	質問紙による問診	身体計測 BMI	血圧測定	尿検査	内科診察	耳鼻咽喉科 検診	眼科検診	胸部 X 線 検査
医学科 1 年	○	○	○	○	○	○	○	○
医学科 2 年	○	○	○	○	○	—	—	—
医学科 3 年	○	○	○	○	○	—	—	○
医学科 4 年	○	○	○	○	○	—	—	—
医学科 5 年	○	○	○	○	○	—	—	○
医学科 6 年	○	○	○	○	○	○	○	○
看護学科 1 年	○	○	○	○	○	○	○	○
看護学科 2 年	○	○	○	○	○	—	—	—
看護学科 3 年	○	○	○	○	○	—	—	○
看護学科 4 年	○	○	○	○	○	○	○	○
医科学修士	○	○	○	○	○	該当者	該当者	○
看護学修士	○	○	○	○	○	該当者	該当者	○
博士課程	○	○	○	○	○	該当者	該当者	○

4 月～5 月 健康診断を実施する。(対象者は休学者を除く)

健診日程：内科・耳鼻咽喉科・眼科健診は計 3 日間、胸部 X 線検査は計 4 日間

健診場所：医学部附属病院（内科外来、耳鼻咽喉科外来、眼科外来、放射線部）

6 月 健康診断の再検査（尿・血圧測定）を実施する。

6 月～7 月 総合判定の結果により、該当者（要医療・要精密検査）に対して受診勧奨を行う。

# ①医学部学生定期健康診断

○平成 21 年度 医学科

内科・耳鼻咽喉科・眼科検診受診率

区分		学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男子	対象者数(人)		66	55	48	58	58	52	337
	受診者数(人)		64	54	43	56	55	51	323
	受診率(%)		97.0	98.2	89.6	96.6	94.8	98.1	95.8
女子	対象者数(人)		29	34	56	38	42	36	235
	受診者数(人)		29	34	54	37	42	35	231
	受診率(%)		100.0	100.0	96.4	97.4	100.0	97.2	98.3
計	対象者数(人)		95	89	104	96	100	88	572
	受診者数(人)		93	88	97	93	97	86	554
	受診率(%)		97.9	98.9	93.3	96.9	97.0	97.7	96.9

胸部X線検査受診率

区分		学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男子	対象者数(人)		66		48		58	52	224
	受診者数(人)		66		44		57	46	213
	受診率(%)		100.0		91.7		98.3	88.5	95.1
女子	対象者数(人)		29		56		42	36	163
	受診者数(人)		29		53		41	35	158
	受診率(%)		100.0		94.6		97.6	97.2	96.9
計	対象者数(人)		95		104		100	88	387
	受診者数(人)		95		97		98	81	382
	受診率(%)		100.0		93.3		98.0	92.0	98.7

健診結果(判定区分)

人数(%)

判定区分		学	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
有所見者	要治療		1 (1.1)	1 (1.1)	0	0	0	0	2 (0.4)
	要精密検査		6 (6.5)	2 (2.3)	1 (1.0)	3 (3.2)	3 (3.1)	6 (7.0)	21 (3.8)
	要継続医療		0	3 (3.4)	4 (4.1)	4(4.3)	3 (3.1)	5 (5.8)	19 (3.4)
	要経過観察		22 (23.7)	25 (28.4)	30 (30.9)	21 (22.6)	23 (23.7)	20 (23.3)	141 (25.5)
	措置要せず		6 (6.5)	2 (2.3)	0	1 (1.1)	1 (1.0)	8 (9.3)	18 (3.2)
	計		35 (37.6)	33 (37.5)	35 (36.1)	29 (31.2)	30 (30.9)	39 (45.3)	201 (36.3)
異常なし		58 (62.4)	55 (62.5)	62 (63.9)	64 (68.8)	67 (69.1)	47 (54.7)	353 (63.7)	
合計		93	88	97	93	97	86	554	

※X線直接撮影有所見者 なし

○平成 21 年 度看護学科

内科・耳鼻咽喉科・眼科検診受診率

区分		学年		1年	2年	3年	4年	計
男子	対象者数(人)	6	3	4	4	4	4	17
	受診者数(人)	6	3	4	4	4	4	17
	受診率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
女子	対象者数(人)	55	59	68	73	68	73	255
	受診者数(人)	55	57	65	67	65	67	244
	受診率(%)	100.0	96.6	95.6	91.8	95.6	91.8	95.7
計	対象者数(人)	61	62	72	77	72	77	272
	受診者数(人)	61	60	69	71	69	71	261
	受診率(%)	100.0	96.8	95.8	92.2	95.8	92.2	96.0

胸部 X線検査受診率

区分		学年		1年	2年	3年	4年	計
男子	対象者数(人)	6		4		4	4	14
	受診者数(人)	6		4		4	4	14
	受診率(%)	100.0		100.0		100.0	100.0	100.0
女子	対象者数(人)	55		68		73	73	196
	受診者数(人)	55		68		69	69	192
	受診率(%)	100.0		100.0		94.5	94.5	98.0
計	対象者数(人)	61		72		77	77	210
	受診者数(人)	61		72		73	73	206
	受診率(%)	100.0		100.0		94.8	94.8	98.1

健診結果 (判定区分)

人数 (%)

判定区分		学年		1年	2年	3年	4年	計
有所見者	要治療	0	0	0	0	1 (1.4)	0	1 (0.4)
	要精密検査	0	5 (8.3)	5 (7.2)	5 (7.2)	1 (1.4)	1 (1.4)	11 (4.2)
	要継続医療	0	4 (6.7)	0	0	4 (5.6)	4 (5.6)	8 (3.1)
	要経過観察	6 (9.8)	19 (31.7)	19 (27.5)	19 (27.5)	24 (33.8)	24 (33.8)	68 (26.1)
	措置要せず	14 (23.0)	1 (1.7)	3 (4.3)	3 (4.3)	8 (11.3)	8 (11.3)	26 (10.0)
	計	20 (32.8)	29 (48.3)	28 (40.6)	28 (40.6)	37 (52.1)	37 (52.1)	114 (43.7)
異常なし		41 (67.2)	31 (51.7)	41 (59.4)	41 (59.4)	34 (47.9)	34 (47.9)	147 (56.3)
合計		61	60	69	69	71	71	261

※ X線直接撮影有所見者 なし

○平成 22 年度 医学科

内科・耳鼻咽喉科・眼科検診受診率

区分		学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男子	対象者数(人)		54	73	57	45	58	58	345
	受診者数(人)		54	70	55	45	58	54	336
	受診率(%)		100.0	95.9	96.5	100.0	100.0	93.1	97.4
女子	対象者数(人)		46	30	46	48	38	42	250
	受診者数(人)		44	29	43	48	36	40	240
	受診率(%)		95.6	96.7	93.5	100.0	94.7	95.2	96.0
計	対象者数(人)		100	103	103	93	96	100	595
	受診者数(人)		98	99	98	93	94	94	576
	受診率(%)		98.0	96.1	95.1	100.0	97.9	94.0	96.8

胸部X線検査受診率

区分		学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男子	対象者数(人)		54		57		58	58	227
	受診者数(人)		54		55		58	58	225
	受診率(%)		100.0		96.5		100.0	100.0	99.1
女子	対象者数(人)		46		46		38	42	172
	受診者数(人)		46		40		38	41	165
	受診率(%)		100.0		87.0		100.0	97.6	95.9
計	対象者数(人)		100		103		96	100	399
	受診者数(人)		100		95		96	99	390
	受診率(%)		100.0		92.2		100.0	99.0	97.7

健診結果(判定区分)

人数(%)

判定区分		学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
有所見者	要治療		1 (1.0)	0	0	0	0	0	1 (0.2)
	要精密検査		7 (7.1)	1 (1.0)	3 (3.1)	4 (4.3)	3 (3.2)	4 (4.3)	22 (3.8)
	要継続医療		0	0	1 (1.0)	2 (2.2)	2 (2.1)	3 (3.2)	8 (1.4)
	要経過観察		43 (43.9)	34 (34.3)	34 (34.7)	22 (23.7)	20 (21.3)	26 (27.7)	179 (31.1)
	措置要せず		6 (6.1)	0	0	0	1 (1.1)	6 (6.4)	13 (2.3)
	計		57 (58.2)	35 (35.4)	38 (38.8)	28 (30.1)	26 (27.7)	39 (41.5)	223 (38.7)
異常なし			41 (41.8)	64 (64.6)	60 (61.2)	65 (69.9)	68 (72.3)	55 (58.5)	353 (61.3)
合計			98	99	98	93	94	94	576

※ X線直接撮影有所見者 計 3名

○平成 22 年度 看護学科

内科・耳鼻咽喉科・眼科検診受診率

区分		学年	1年	2年	3年	4年	計
男子	対象者数(人)		8	6	3	5	22
	受診者数(人)		8	6	3	5	22
	受診率(%)		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
女子	対象者数(人)		52	57	64	68	241
	受診者数(人)		52	55	64	60	231
	受診率(%)		100.0	96.5	100.0	88.2	95.9
計	対象者数(人)		60	63	67	73	263
	受診者数(人)		60	61	67	65	253
	受診率(%)		100.0	96.8	100.0	89.0	96.2

胸部X線検査受診率

区分		学年	1年	2年	3年	4年	計
男子	対象者数(人)		8		3	5	16
	受診者数(人)		8		3	5	16
	受診率(%)		100.0		100.0	100.0	100.0
女子	対象者数(人)		52		64	68	184
	受診者数(人)		52		64	68	184
	受診率(%)		100.0		100.0	100.0	100.0
計	対象者数(人)		60		67	73	200
	受診者数(人)		60		67	73	200
	受診率(%)		100.0		100.0	100.0	100.0

健診結果 (判定区分)

人数 (%)

判定区分		学年	1年	2年	3年	4年	計
有所見者	要治療		1 (1.7)	0	0	0	1 (0.4)
	要精密検査		3 (5.0)	1 (1.6)	1 (1.5)	0	5 (2.0)
	要継続医療		1 (1.7)	1 (1.6)	3 (4.5)	3 (4.6)	8 (3.2)
	要経過観察		14 (23.3)	7 (11.5)	20 (29.9)	19 (29.2)	60 (23.7)
	措置要せず		10 (16.7)	1 (1.6)	5 (7.5)	6 (9.2)	22 (8.7)
	計		29 (48.3)	10 (16.4)	29 (43.3)	28 (43.1)	96 (37.9)
異常なし			31 (51.7)	51 (83.6)	38 (56.7)	37 (56.9)	157 (62.1)
合計			60	61	67	65	253

※ X線直接撮影有所見者 なし

○平成 23 年度 医学科

内科・耳鼻咽喉科・眼科検診受診率

区分		学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男子	対象者数(人)		66	73	68	49	44	58	358
	受診者数(人)		66	66	51	49	43	57	332
	受診率(%)		100.0	90.4	75.0	100.0	97.7	98.3	92.7
女子	対象者数(人)		36	52	30	42	48	38	246
	受診者数(人)		34	50	29	42	47	38	240
	受診率(%)		94.4	96.2	96.7	100.0	97.9	100.0	97.6
計	対象者数(人)		102	125	98	91	92	96	604
	受診者数(人)		100	116	80	91	90	95	572
	受診率(%)		98.0	92.8	81.6	100.0	97.8	99.0	94.7

胸部 X 線検査受診率

区分		学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男子	対象者数(人)		66		68		44	58	236
	受診者数(人)		66		60		43	54	223
	受診率(%)		100.0		88.2		97.7	93.1	94.5
女子	対象者数(人)		36		30		48	38	152
	受診者数(人)		35		27		47	36	145
	受診率(%)		97.2		90.0		97.9	94.7	95.4
計	対象者数(人)		102		98		92	96	388
	受診者数(人)		101		87		90	90	368
	受診率(%)		99.0		88.8		97.8	93.8	94.8

健診結果(判定区分)

人数(%)

判定区分		学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
有所見者	要治療		0	0	0	0	0	0	0
	要精密検査		9 (9.0)	7 (6.0)	1 (1.3)	4 (4.4)	6 (6.7)	4 (4.2)	31 (5.4)
	要継続医療		3 (3.0)	1 (0.9)	0	2 (2.2)	3 (3.3)	3 (3.2)	12 (2.1)
	要経過観察		32 (32.0)	43 (37.1)	23 (28.8)	24 (26.4)	31 (34.4)	33 (34.7)	186 (32.5)
	措置要せず		5 (5.0)	0	3 (3.8)	0	1 (1.1)	4 (4.2)	13 (2.3)
	計		49 (49.0)	51 (44.0)	27 (33.8)	30 (33.0)	41 (45.6)	44 (46.3)	242 (42.3)
異常なし			51 (51.0)	65 (56.0)	53 (66.2)	61 (67.0)	49 (54.4)	51 (53.7)	330 (57.7)
合計			100	116	80	91	90	95	572

X線直接撮影有所見者 計 3名

○平成 23 年度 看護学科

内科・耳鼻咽喉科・眼科検診受診率

区分		学年	1年	2年	3年	4年	計
男子	対象者数(人)		10	8	8	3	29
	受診者数(人)		9	8	8	3	28
	受診率(%)		90.0	100.0	100.0	100.0	96.6
女子	対象者数(人)		53	50	60	62	225
	受診者数(人)		53	49	60	61	223
	受診率(%)		100.0	98.0	100.0	98.4	99.1
計	対象者数(人)		63	58	68	65	254
	受診者数(人)		62	57	68	64	251
	受診率(%)		98.4	98.3	100.0	98.5	98.8

胸部X線検査受診率

区分		学年	1年	2年	3年	4年	計
男子	対象者数(人)		10		8	3	21
	受診者数(人)		10		8	3	21
	受診率(%)		100.0		100.0	100.0	100.0
女子	対象者数(人)		53		60	62	175
	受診者数(人)		53		60	62	175
	受診率(%)		100.0		100.0	100.0	100.0
計	対象者数(人)		63		68	65	196
	受診者数(人)		63		68	65	196
	受診率(%)		100.0		100.0	100.0	100.0

健診結果 (判定区分)

人数 (%)

判定区分		学年	1年	2年	3年	4年	計
有所見者	要治療		0	0	0	0	0
	要精密検査		8 (12.9)	6 (10.5)	2 (2.9)	4 (6.3)	20 (8.0)
	要継続医療		1 (1.6)	1 (1.8)	1 (1.5)	3 (4.7)	6 (2.4)
	要経過観察		29 (46.8)	21 (36.8)	14 (20.6)	13 (20.3)	77 (30.7)
	措置要せず		2 (3.2)	0	1 (1.5)	2 (3.1)	5 (2.0)
	計		40 (64.5)	28 (49.1)	18 (26.5)	22 (34.4)	108 (43.0)
異常なし			22 (35.5)	29 (50.9)	50 (73.5)	42 (65.6)	143 (57.0)
合計			62	57	68	64	251

※ X線直接撮影有所見者 なし

## ②大学院生定期健康診断

○平成 21 年度 大学院生・昼間コース

受検率		内科等	胸部X線直接撮影	血液検査
対象者数 (人)		48	48	48
受検者数 (人)		32	34	37
受検率 (%)		66.7	70.8	77.1

判定区分 人 (%)

	異常なし	有所見者					合計
		措置を要せず	要経過観察	要精密検査	要継続医療	計	
内科等	13 (40.6)	3 (9.4)	12 (37.5)	3 (9.4)	1 (3.1)	19 (59.4)	32 (100.0)
胸部X線直接撮影	34 (100.0)	0	0	0	0	0	34 (100.0)
血液検査	23 (62.2)	0	10 (27.0)	1 (2.7)	3 (8.1)	14 (37.8)	37 (100.0)

HBs・HCV検査関係

検査項目	受検者数 (人)	陽性者数 (人)	陽性者率 (%)
HBs抗原検査	27	3	11.1
HBs抗体検査	27	19	70.4
HCV抗体検査	27	1	3.7

○平成 21 年度 大学院生・昼夜開講履修コース

受検率		内科等	胸部X線直接撮影	血液検査
対象者数 (人)		144	144	144
受検者数 (人)		15	11	12
受検率 (%)		10.4	7.6	8.3

判定区分 人 (%)

	異常なし	有所見者					合計
		措置を要せず	要経過観察	要精密検査	要継続医療	計	
内科等	12 (80.0)	0	3 (20.0)	0	0	3 (20.0)	15 (100.0)
胸部X線直接撮影	11 (100.0)	0	0	0	0	0	11 (100.0)
血液検査	6 (50.0)	0	6 (50.0)	0	0	6 (50.0)	12 (100.0)

HBs・HCV検査関係

検査項目	受検者数 (人)	陽性者数 (人)	陽性者率 (%)
HBs抗原検査	11	0	0
HBs抗体検査	11	9	81.8
HCV抗体検査	11	0	0

○平成 22 年度 大学院生・昼間コース

受検率	内 科 等	胸部X線直接撮影	血液検査
対象者数 (人)	57	57	57
受検者数 (人)	29	30	38
受検率 (%)	50.9	52.6	66.7

判定区分 人 (%)

	異常なし	有 所 見 者					合計
		措置を要せず	要経過観察	要精密検査	要継続医療	計	
内 科 等	10 (34.5)	0	13 (44.8)	5 (17.2)	1 (3.4)	19 (65.5)	29 (100.0)
胸部X線 直接撮影	29 (96.7)	0	0	1 (3.3)	0	1 (3.3)	30 (100.0)
血液検査	15 (39.5)	4 (10.5)	12 (31.6)	7 (18.4)	0	23 (60.5)	38 (100.0)

HB s・HC V検査関係

検査項目	受検者数 (人)	陽性者数 (人)	陽性者率 (%)
HB s 抗原検査	28	3	10.7
HB s 抗体検査	28	14	50.0
HC V抗体検査	28	1	3.6

○平成 22 年度 大学院生・昼夜開講履修コース

受検率	内 科 等	胸部X線直接撮影	血液検査
対象者数 (人)	149	149	149
受検者数 (人)	3	4	8
受検率 (%)	2.0	2.7	5.4

判定区分 人 (%)

	異常なし	有 所 見 者					合計
		措置を要せず	要経過観察	要精密検査	要継続医療	計	
内 科 等	1 (33.3)	0	1 (33.3)	1 (33.3)	0	2 (66.7)	3 (100.0)
胸部X線 直接撮影	4 (100.0)	0	0	0	0	0	4 (100.0)
血液検査	4 (50.0)	2 (25.0)	1 (12.5)	1 (12.5)	0	4 (50.0)	8 (100.0)

HB s・HC V検査関係

検査項目	受検者数 (人)	陽性者数 (人)	陽性者率 (%)
HB s 抗原検査	7	0	0
HB s 抗体検査	7	5	71.4
HC V抗体検査	7	0	0

○平成 23 年度 大学院生・昼間コース

受検率	内科等	胸部X線直接撮影	血液検査
対象者数 (人)	55	55	55
受検者数 (人)	31	30	38
受検率 (%)	56.4	54.5	69.1

判定区分 人 (%)

	異常なし	有所見者					合計
		措置を要せず	要経過観察	要精密検査	要継続医療	計	
内科等	12 (38.7)	0	13 (41.9)	5 (16.1)	1 (3.2)	19 (61.3)	31 (100.0)
胸部X線直接撮影	30 (100.0)	0	0	0	0	0	30 (100.0)
血液検査	23 (60.5)	0	6 (15.8)	9 (23.7)	0	15 (39.5)	38 (100.0)

HBs・HCV検査関係

検査項目	受検者数 (人)	陽性者数 (人)	陽性者率 (%)
HBs抗原検査	31	2	6.5
HBs抗体検査	31	21	67.7
HCV抗体検査	31	1	3.2

○平成 23 年度 大学院生・昼夜開講履修コース

受検率	内科等	胸部X線直接撮影	血液検査
対象者数 (人)	147	147	147
受検者数 (人)	14	15	10
受検率 (%)	9.5	10.2	6.8

判定区分 人 (%)

	異常なし	有所見者					合計
		措置を要せず	要経過観察	要精密検査	要継続医療	計	
内科等	6 (42.9)	0	6 (42.9)	2 (14.3)	0	8 (57.1)	14 (100.0)
胸部X線直接撮影	15 (100.0)	0	0	0	0	0	15 (100.0)
血液検査	6 (60.0)	0	3 (30.0)	1 (10.0)	0	4 (40.0)	10 (100.0)

HBs・HCV検査関係

検査項目	受検者数 (人)	陽性者数 (人)	陽性者率 (%)
HBs抗原検査	8	0	0
HBs抗体検査	8	5	62.5
HCV抗体検査	8	0	0

## 2. 医学部学生の感染症対策

### ①ツベルクリン反応検査

○平成 21 年度

医学科 4 年 11 月実施

	対象者数 (人)	受検者数 (人)	受検率 (%)	結 果 (人)				備 考
				(-)	(+)	(++)	(+++)	
1 回目	96	96	100.0	14	32	44	6	陰性者率 6.3%
2 回目	83	83	100.0	6	33	42	2	

※ 第 1 回目の判定結果が、発赤長径 40 mm 以上または (+++) の強陽性 13 名については、第 2 回目のツ反を実施せず胸部 X 線検査を実施した。結果は全員異常なし。

看護学科 2 年 11 月～12 月実施

	対象者 数(人)	受検者 数(人)	受検率 (%)	結 果 (人)				備 考
				(-)	(+)	(++)	(+++)	
1 回目	59	59	98.4	9	16	33	1	陰性者率 1.7%
2 回目	46	46	100.0	1	14	31	0	

※ 第 1 回目の判定結果が、発赤長径 40 mm 以上または (+++) の強陽性 9 名については、第 2 回目のツ反を実施せず胸部 X 線検査を実施した。結果は全員異常なし。

看護学科 3 年次編入生 11 月～12 月実施

	対象者数 (人)	受検者 数(人)	受検率 (%)	結 果 (人)				備 考
				(-)	(+)	(++)	(+++)	
1 回目	10	10	100.0	0	4	6	0	陰性者率 0%
2 回目	6	6	100.0	0	1	5	0	

※ 第 1 回目の判定結果が、発赤長径 40 mm 以上または (+++) の強陽性 4 名については、第 2 回目のツ反を実施せず胸部 X 線検査を実施した。結果は全員異常なし

○平成 22 年度

医学科 4 年 11 月実施

	対象者数 (人)	受検者数 (人)	受検率 (%)	結 果 (人)				備 考
				(-)	(+)	(++)	(+++)	
1 回目	93	93	100.0	7	15	58	13	陰性者率 3.2%
2 回目	72	70	97.2	3	16	40	11	

※ 第 1 回目の判定結果が、発赤長径 40 mm 以上または (+++) の強陽性 20 名については、第 2 回目のツ反を実施せず胸部 X 線検査を実施した。結果は全員異常なし。

看護学科2年 11月～12月実施

	対象者数(人)	受検者数(人)	受検率(%)	結 果 (人)				備 考
				(-)	(+)	(++)	(+++)	
1回目	63	63	100.0	6	15	41	1	陰性者率 0.2%
2回目	53	52	98.1	1	17	18	16	

※ 第1回目の判定結果が、発赤長径40mm以上または(+++)の強陽性10名については、第2回目のツ反を実施せず胸部X線検査を実施した。結果は全員異常なし。

看護学科3年次編入生 11月～12月実施

	対象者数(人)	受検者数(人)	受検率(%)	結 果 (人)				備 考
				(-)	(+)	(++)	(+++)	
1回目	9	9	100.0	1	1	7	0	陰性者率 0%
2回目	8	8	100.0	0	3	4	1	

※ 第1回目の判定結果が、発赤長径40mm以上または(+++)の強陽性1名については、第2回目のツ反を実施せず胸部X線検査を実施した。結果は全員異常なし

○平成23年度

医学科4年 12月実施

	対象者数(人)	受検者数(人)	受検率(%)	結 果 (人)				備 考
				(-)	(+)	(++)	(+++)	
1回目	91	88	96.7	24	23	37	4	陰性者率 27.3%

※第1回目の判定結果が、発赤長径40mm以上または(+++)の強陽性7名については、胸部X線検査を実施した。結果は、異常なし6名、要経過観察1名。

看護学科2年 12月実施

	対象者数(人)	受検者数(人)	受検率(%)	結 果 (人)				備 考
				(-)	(+)	(++)	(+++)	
1回目	58	58	100.0	11	19	23	5	陰性者率 19.0%

※第1回目の判定結果が、発赤長径40mm以上または(+++)の強陽性6名については、胸部X線検査を実施した。結果は全員異常なし。

看護学科3年次編入生 12月実施

	対象者数(人)	受検者数(人)	受検率(%)	結 果 (人)				備 考
				(-)	(+)	(++)	(+++)	
1回目	5	5	100.0	2	2	1	0	陰性者率 40.0%

判定結果 (－) 陰性  
(＋) 弱陽性  
(++) 中等度陽性  
(+++) 強陽性

## ②感染症抗体検査

### 医学部学生の感染症予防対策について

本学における医学部の学生については、各種感染症に関してハイリスクグループとされている。病院内等で配慮すべき感染症であるインフルエンザ、麻疹、風疹、ムンプス、水痘、B型肝炎等については、ワクチン接種によって予防可能な感染症であるため、医療従事者をはじめ、実習生、研修生等はウイルス抗体価検査を行うとともに、率先してワクチン接種を実施することが推奨されている。

医学科の臨床実習および看護学科の臨地実習開始前に、小児感染症（麻疹、風疹、ムンプス、水痘・帯状ヘルペス）の抗体検査、B型・C型肝炎抗体検査等を行い、順次ワクチン接種を実施していた。ただし、小児感染症の抗体検査については、医学科と看護学科で実施方法が異なっていたため、平成19年度より実施方法や検査機関について統一を図った。学生委員会、医学科長、看護学科長、学務課との連携を基本に、保健管理センターが医学科および看護学科の両学科における抗体検査について、計画から結果返しまでのマネジメントを統一的に担う事となった。検査法は麻疹、ムンプス、水痘・帯状ヘルペスの各抗体価についてはIgG(EIA法)、風疹抗体についてはHI法で実施することとし、保健管理センターにおいて採血を行い、抗体価測定については(財)島根難病研究所に依頼した。

計画および実施の手順は、次のとおりである。

- ①学生に対して、検査の意義と日程等について周知徹底を図る。
- ②学生は、学務課へ検査の申込み書（同意書として）提出および費用納入をおこなう。  
※平成22年度からは入学時に費用納入となった。
- ③保健管理センターにおいて採血し、(財)島根難病研究所へ検体を送る。
- ④保健管理センターが抗体検査の結果通知を受け取り、学生に対して個別に窓口で、抗体検査結果の説明をおこなう。
- ⑤麻疹、風疹、ムンプス、水痘・帯状ヘルペスの抗体価陰性および弱陽性者に対して予防接種を推奨し、附属病院小児科または該当の医療機関へ紹介状を発行する。
- ⑥B型肝炎ワクチン接種については、保健管理センターにおいて該当者一人に対して計3回接種をおこなう。

各学年においては、他にインフルエンザワクチン接種やツベルクリン反応検査を実施している。各種ワクチン接種の間隔について無用な混乱を避けるため、結果返しの際に学生全員にワクチン接種時期の予定表を作成し配布している。

検査項目	AST、ALT、 $\gamma$ -GTP、HBs抗原・HBs抗体、HCV抗体 風疹、麻疹、ムンプス、水痘・帯状ヘルペスの各抗体価
------	---

- 風疹、麻疹、ムンプス、水痘・帯状ヘルペスの各抗体検査の結果、「陰性(-)」「弱陽性(±)」と判定された学生に、該当項目のワクチン接種を受けることを推奨する。
- HBs抗原(-)およびHBs抗体(-)と判定された学生に、B型肝炎ワクチン接種(計3回)を受けることを推奨する。

小児感染症抗体検査、B型・C型肝炎抗体検査、肝機能検査

○平成 21 年度

医学科 1 年 10 月 受検者：医学科 1 年 計 93 名

項目	受検者数 (人)	陰性・弱陽 性者数(人)	率(%)
風疹ウイルス(HI)	93	8	8.6
麻疹ウイルス IgG(EIA)	93	4	4.3
ムンプスウイルス IgG(EIA)	93	20	21.5
水痘・帯状ヘルペスウ イルス IgG(EIA)	93	5	5.4

項目	受検者 数(人)	陽性者 数(人)	陽性者 率(%)
HBs抗原	93	0	0
HBs抗体	93	2	2.2
HCV抗体	93	0	0

医学科 3 年次編入生 10 月 受検者：医学科 3 年次編入生 10 名・3 年 1 名 計 11 名

項目	受検者数 (人)	陰性・弱陽 性者数(人)	率(%)
風疹ウイルス(HI)	11	2	18.2
麻疹ウイルス IgG(EIA)	11	0	0
ムンプスウイルス IgG(EIA)	11	2	18.2
水痘・帯状ヘルペスウ イルス IgG(EIA)	11	0	0

項目	受検者 数(人)	陽性者 数(人)	陽性者 率(%)
HBs抗原	11	0	0
HBs抗体	11	1	9.1
HCV抗体	11	0	0

看護学科 1 年 10 月 受検者：看護学科 1 年 61 名・2 年 1 名 計 62 名

項目	受検者数 (人)	陰性・弱陽 性者数(人)	率(%)
風疹ウイルス(HI)	62	2	3.2
麻疹ウイルス IgG(EIA)	62	1	1.6
ムンプスウイルス IgG(EIA)	62	15	24.2
水痘・帯状ヘルペスウ イルス IgG(EIA)	62	1	1.6

項目	受検者 数(人)	陽性者 数(人)	陽性者 率(%)
HBs抗原	62	0	0
HBs抗体	62	1	1.6
HCV抗体	62	1	1.6

看護学科 3 年次編入生 5 月 受検者：看護学科 3 年次編入生 計 10 名

項目	受検者数 (人)	陰性・弱陽 性者数(人)	率(%)
風疹ウイルス(HI)	10	1	10.0
麻疹ウイルス IgG(EIA)	10	0	0
ムンプスウイルス IgG(EIA)	10	1	10.0
水痘・帯状ヘルペスウ イルス IgG(EIA)	10	0	0

項目	受検者 数(人)	陽性者 数(人)	陽性者 率(%)
HBs抗原	10	0	0
HBs抗体	10	2	20.0
HCV抗体	10	0	0

○平成 22 年度

医学科 1 年 10 月 受検者：医学科 1 年 計 100 名

項目	受検者数 (人)	陰性・弱陽 性者数(人)	率(%)
風疹ウイルス(HI)	100	3	3.0
麻疹ウイルス IgG(EIA)	100	3	3.0
ムンプスウイルス IgG(EIA)	100	20	20.0
水痘・帯状ヘルペスウ イルス IgG(EIA)	100	2	2.0

項目	受検者 数(人)	陽性者 数(人)	陽性者 率(%)
HBs 抗原	100	0	0
HBs 抗体	100	1	1.0
HCV 抗体	100	5 (低力価)	5.0

医学科 3 年次編入生 10 月 受検者：医学科 3 年次編入生 10 名 計 10 名

項目	受検者数 (人)	陰性・弱陽 性者数(人)	率(%)
風疹ウイルス(HI)	10	0	0
麻疹ウイルス IgG(EIA)	10	1	10.0
ムンプスウイルス IgG(EIA)	10	4	40.0
水痘・帯状ヘルペスウ イルス IgG(EIA)	10	0	0

項目	受検者 数(人)	陽性者 数(人)	陽性者 率(%)
HBs 抗原	10	0	0
HBs 抗体	10	2	20.0
HCV 抗体	10	0	0

看護学科 1 年 10 月 受検者：看護学科 1 年 59 名

項目	受検者数 (人)	陰性・弱陽 性者数(人)	率(%)
風疹ウイルス(HI)	59	1	1.7
麻疹ウイルス IgG(EIA)	59	0	0
ムンプスウイルス IgG(EIA)	59	15	25.4
水痘・帯状ヘルペスウ イルス IgG(EIA)	59	3	5.1

項目	受検者 数(人)	陽性者 数(人)	陽性者 率(%)
HBs 抗原	59	0	0
HBs 抗体	59	0	0
HCV 抗体	59	0	0

看護学科 3 年次編入生 6 月 受検者：看護学科 3 年次編入生 計 9 名

項目	受検者数 (人)	陰性・弱陽 性者数(人)	率(%)
風疹ウイルス(HI)	9	0	0
麻疹ウイルス IgG(EIA)	9	1	11.1
ムンプスウイルス IgG(EIA)	9	4	44.4
水痘・帯状ヘルペスウ イルス IgG(EIA)	9	0	0

項目	受検者 数(人)	陽性者 数(人)	陽性者 率(%)
HBs 抗原	9	0	0
HBs 抗体	9	2	22.2
HCV 抗体	9	0	0

○平成 23 年度

医学科 1 年 10 月 受検者：医学科 1 年 計 101 名

項目	受検者数 (人)	陰性・弱陽 性者数(人)	率(%)
風疹ウイルス(HI)	101	3	3.0
麻疹ウイルス IgG(EIA)	101	2	2.0
ムンプスウイルス IgG(EIA)	101	41	40.6
水痘・帯状ヘルペスウ イルス IgG(EIA)	101	4	4.0

項目	受検者 数(人)	陽性者数 (人)	陽性者 率(%)
HBs 抗原	101	0	0
HBs 抗体	101	6	5.9
HCV 抗体	101	2 (低力価)	2.0

医学科 3 年次編入生 10 月 受検者：医学科 3 年次編入生 10 名 計 10 名

項目	受検者数 (人)	陰性・弱陽 性者数(人)	率(%)
風疹ウイルス(HI)	10	0	0
麻疹ウイルス IgG(EIA)	10	0	0
ムンプスウイルス IgG(EIA)	10	1	10.0
水痘・帯状ヘルペスウ イルス IgG(EIA)	10	0	0

項目	受検者 数(人)	陽性者 数(人)	陽性者 率(%)
HBs 抗原	10	0	0
HBs 抗体	10	2	20.0
HCV 抗体	10	0	0

看護学科 1 年 10 月 受検者：看護学科 1 年 計 61 名

項目	受検者数 (人)	陰性・弱陽 性者数(人)	率(%)
風疹ウイルス(HI)	61	0	0
麻疹ウイルス IgG(EIA)	61	1	1.6
ムンプスウイルス IgG(EIA)	61	16	26.2
水痘・帯状ヘルペスウ イルス IgG(EIA)	61	3	4.9

項目	受検者 数(人)	陽性者 数(人)	陽性者 率(%)
HBs 抗原	61	0	0
HBs 抗体	61	0	0
HCV 抗体	61	0	0

看護学科 3 年次編入生 10 月 受検者：看護学科 3 年次編入生 計 5 名

項目	受検者数 (人)	陰性・弱陽 性者数(人)	率(%)
風疹ウイルス(HI)	5	0	0
麻疹ウイルス IgG(EIA)	5	0	0
ムンプスウイルス IgG(EIA)	5	3	60.0
水痘・帯状ヘルペスウ イルス IgG(EIA)	5	0	0

項目	受検者 数(人)	陽性者 数(人)	陽性者 率(%)
HBs 抗原	5	0	0
HBs 抗体	5	3	60.0
HCV 抗体	5	0	0

## 感染症予防について

医学部では、医学科の臨床実習および看護学科の臨地実習に入る前に小児感染症（麻疹、風疹、ムンプス、水痘・帯状ヘルペス）の抗体検査とB型・C型肝炎の抗体等に関する血液検査を行います。

その結果、抗体を保有していない場合は、実習が開始するまでに該当のワクチン接種を実施する必要があります。なお、C型肝炎の予防ワクチンはありません。

- 検査を受ける対象学年は・・・医学科1年、 医学科3年次編入生  
看護学科1年、看護学科3年次編入生 の皆さんです。

☆ 小児感染症は・・・成人になってからかかると、重症化する場合があります。

### 麻疹（はしか）

発熱、咳、くしゃみ、鼻水などの症状で始まり、3～4日後に発疹が出る。

### 風疹（三日はしか）

熱が出て同時に発疹が出る。熱は軽く発疹も3～4日で消失する。

### ムンプス（流行性耳下腺炎・・・おたふくかぜ）

熱が出て、しばらくして両側の耳の下が痛くなり腫れてくる。

### 水痘（水ぼうそう）

熱が出て発疹が出る。間もなく水疱になり、さらに痂皮をつくって治る。

☆B型肝炎

B型肝炎ウイルスの感染によって起こる肝臓の病気です。

☆C型肝炎

C型肝炎ウイルスの感染によって起こる肝臓の病気です。

### 【 検査をすすめる理由 】

臨床実習および臨地実習では、様々な感染症の患者さんと直接あるいは間接的に接触する機会があります。自分自身の安全を守る（患者さんから感染しない）ことや他の患者さんの安全を守る（学生が感染源にならない）ために、検査および該当のワクチン接種を行います。

- 各種抗体検査および該当のワクチン接種を受けていないと、臨床実習および臨地実習、病院見学、就職用の健康診断書等の発行ができませんので注意してください。

- 「保健管理センターのしおり」より抜粋-

### ③B型肝炎ワクチン接種の実施

○医学科の臨床実習および看護学科の臨地実習が開始する前に、肝機能検査およびB型・C型肝炎の抗体検査を実施する。

○HBs抗原(-)およびHBs抗体(-)の場合は、B型肝炎ワクチン接種を行う。1名の学生に対して計3回ワクチンを接種する。

対象者数

(人)

	医学科 1年	医学科 2年	医学科 3年次編入生	看護学科 1年	看護学科 2年	看護学科 3年次編入生	計
平成21年度	91	0	10	61	2	8	172
平成22年度	98	2	8	59	0	7	174
平成23年度	95	1	7	61	0	2	166

### ④インフルエンザワクチン接種の実施

平成11年度より、国家試験受験対策として医学科6年の希望者を対象にワクチン接種を開始した。現在は、臨床実習および臨地実習の学年も対象としている。毎年11～12月にかけてワクチンを1回接種している。

○医学科6年および看護学科4年希望者・・・国家試験受験の感染症予防対策

○医学科5年および看護学科3年希望者・・・臨床および臨地実習の感染症予防対策

接種者数

(人)

	医学科 5年	医学科 6年	看護学科 3年	看護学科 4年	計
平成21年度	47	83	48	74	252
平成22年度	74	91	60	64	289
平成23年度	72	89	57	58	276

### 3. 外国人研究留学生・外国人研究者健康診断

○平成 21 年度

10 月、11 月 対象者数：4 名(留学生 2 名、研究者 2 名) 受診者数：4 名(男 4 名)

検査項目別受診率

	内科診察	尿検査	胸部 X 線検査	血液検査
対象者数 (人)	4	4	4	4
受診者数 (人)	4	4	4	4
受診率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0

HBs・HCV 検査関係一覧

	HBs 抗原	HBs 抗体	HCV 抗体
受検者数 (人)	4	4	4
陽性者数 (人)	1	2	0
陽性者率 (%)	25.0	50.0	0

総合判定

	異常なし	要経過観察	要継続医療	要精密検査	要治療	計
人数	0	3	0	1	0	4
%	0	75.0	0	25.0	0	100.0

○平成 22 年度

10 月 対象者数：8 名 受診者数：7 名(男 6 名、女 1 名)

検査項目別受診率

	内科診察	尿検査	胸部 X 線検査	血液検査
対象者数 (人)	8	8	8	8
受診者数 (人)	7	7	7	7
受診率 (%)	87.5	87.5	87.5	87.5

HBs・HCV 検査関係一覧

	HBs 抗原	HBs 抗体	HCV 抗体
受検者数 (人)	7	7	7
陽性者数 (人)	2	4	0
陽性者率 (%)	28.6	57.1	0

総合判定

	異常なし	要経過観察	要継続医療	要精密検査	要治療	計
人数	2	2	1	2	0	7
%	28.6	28.6	14.3	28.6	0	100.0

○平成 23 年度

10 月、12 月 対象者数：3 名 受診者数：3 名(男 1 名、女 2 名)

検査項目別受診率

	内科診察	尿検査	胸部 X 線検査	血液検査
対象者数 (人)	3	3	3	3
受診者数 (人)	3	3	3	3
受診率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0

HBs・HCV 検査関係一覧

	HB s 抗原	HB s 抗体	HCV 抗体
受検者数 (人)	3	3	3
陽性者数 (人)	1	1	0
陽性者率 (%)	33.3	33.3	0

総合判定

	異常なし	要経過観察	要継続医療	要精密検査	要治療	計
人数	1	2	0	0	0	3
%	33.3	66.6	0	0	0	100.0

#### 4. 保健管理センター利用状況

①年度別・区分別利用延件数

○平成21年度 上期：4月～9月

区 分	学 生						外国人留学生						職 員						
	4	5	6	7	8	9	4	5	6	7	8	9	4	5	6	7	8	9	
健 康 診 断																			
健康診断事後 措置（再検査）		14	141	49	7	3													
検 査 等	身体測定	121	126	133	123	41	111											1	
	視力測定	1	2	19	46	9	7			1									
	聴力検査			3	14	1	1												
	尿 検 査	1		2	6	1	1			1	1	1	1			1			
	血圧測定	4	1	18	27	6	4					1	1	1	2	3	3	5	7
	心電図検査			9	9	1	2												
	体力測定																		
	そ の 他		1	10	7	6	3					1							
身体面の健康相談 （スポーツ相談含む）	25	43	32	28	13	24	1		1		1		2	4		1	1	3	
健康診断書の発行	12	17	40	139	14	11			1										
（就職用）		(2)	(30)	(74)	(14)	(8)													
（実習用）				(63)															
（免許申請）																			
（その他）	(12)	(15)	(10)	(2)		(3)			(1)										
精神面の健康 相談・カウンセリング	11	22	24	19	6	16						2	1	3	7	3	2	4	
休養室の利用	6	2	4			1										1			
応急処置 等	86	66	88	66	17	33		3	4	4	3	3	5	9	4	6	4	8	
専門医紹介	17	22	22	14	4	11	1		1				2			1	1		
ツベルクリン反応検査													9	7					
ツ反後胸部X線検査																			
抗 体 検 査		11																	
B型肝炎ワクチン接種			10	245	2	1												16	
小児ワクチン紹介状				6	2														
インフルエンザワクチン接種																			
救急カーン貸出し	2	3	4	4	5														
合 計	286	330	559	802	135	229	2	3	9	5	6	7	10	29	21	15	13	40	

月 別	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	計
利用件数	<b>298</b>	<b>362</b>	<b>589</b>	<b>822</b>	<b>154</b>	<b>276</b>	<b>2,501</b>

平成 21 年度 下期 : 10 月～3 月

区 分	学 生						外国人留学生						職 員						
	10	11	12	1	2	3	10	11	12	1	2	3	10	11	12	1	2	3	
健 康 診 断								4											
健康診断事後 措置 (再検査)																			
検 査 等	身体測定	126	98	72	77	67	61												
	視力測定	2	2	4	16	10	7												
	聴力検査		1	3	12	5	1												
	尿 検 査	3	5		3	3	2		3	1									
	血圧測定	9	14	8	2	5	3	2						11	3	7	8	6	7
	心電図検査	1	1		14	10	9										2		
	体力測定																		
	その他	2	3		14	10	9												
身体面の健康相談 (スポーツ相談含む)	22	43	68	55	18	17	2	2	1	1			3	2	2	3	2	2	
健康診断書の発行	10	29	55	52	102	149				1						1	1	9	
(就職用)	(2)	(6)	(7)	(22)	(17)	(11)										(1)	(1)		
(実習用)																			
(免許申請)					(85)	(133)													
(その他)	(8)	(23)	(48)	(30)		(5)				(1)								(9)	
精神面の健康 相談・カウンセリング	12	7	8	10	9	14	1		1				1	2	6	8	8	6	
休養室の利用	2	1	2	1		1										1			
応急処置 等	83	61	35	36	55	20	7	9	2	2	2	2	13	11	11	9	4	6	
専門医紹介	9	14	9	9	7	5	2	1	1	1			1		2	1			
ツベルクリン反応検査		257	65																
ツ反後胸部X線検査			13	18															
抗 体 検 査	166																		
B型肝炎ワクチン接種		7	24	2	23														
小児ワクチン紹介状			10	242	240	4							26					13	
インフルエンザワクチン接種		210	44											18					
救急かばん貸出し	4	2			7	1													
合 計	45	755	420	563	571	303	1	1	6	5	2	2	55	36	28	33	21	43	

月 別	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
利用件数	520	810	454	601	594	348	3,327

平成 21 年度 上期 2,501 件 下期 3,327 件 計 5,828 件

○平成 22 年度 上期：4 月～9 月

区 分	学 生						外国人留学生						職 員					
	4	5	6	7	8	9	4	5	6	7	8	9	4	5	6	7	8	9
健 康 診 断																		
健診・再検査		10	159	37	5	1												
健診・事後措置				15	8	8												
検 査 等	身体測定	122	126	128	111	42	108											2
	視力測定		1	8	30	13	3											1
	聴力検査				9	3	2											1
	尿 検 査			3	5	2	2					1						4 7
	血圧測定	3	8	27	24	13	6		1				9	8	10	14	12	12
	心電図検査			2	7	1												
	体力測定																	
	そ の 他			4	6	1												
身体面の健康相談 (スポーツ相談含む)	33	28	60	34	14	14			1		2	1		2	1	2	6	
健康診断書の発行	6	5	22	44	17	4						1					2	
(就職用)			(13)	(39)	(16)	(3)												
(実習用)																		
(免許申請)																		
(その他)	(6)	(5)	(9)	(5)	(1)	(1)						(1)					(2)	
精神面の健康 相談・カウンセリング	13	19	27	13	8	18						4	7	6	4	3	5	
休養室の利用		5	2	4		5								2	1	1		
応急処置 等	77	69	89	92	9	36	5	4	4	3	6	3	5	5	5	11	4	6
専門医紹介	28	23	49	17	9	5			1		1	1	1		1			
ツベルクリン反応検査																		
ツ反後胸部 X線検査																		
抗 体 検 査																		
B型肝炎ワクチン接種			68	185	4													18
小児ワクチン紹介状		2	1	3	1													
インフルエンザワクチン接種																		
救急カバン貸出し	2	3	5	8	3													
テービソク講習会			31															
合 計	284	299	685	644	153	212	5	5	6	3	10	4	21	20	26	31	32	54

月 別	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	計
利用件数	<b>310</b>	<b>324</b>	<b>717</b>	<b>678</b>	<b>195</b>	<b>270</b>	<b>2,494</b>

平成 22 年度 下期：10 月～3 月

区 分	学 生						外国人留学生						職 員					
	10	11	12	1	2	3	10	11	12	1	2	3	10	11	12	1	2	3
健 康 診 断							6		1									
健診・再検査		2																
健診・事後措置																		
検 査 等	身体測定	11	99	71	75	59	55							14	12		2	4
	視力測定		1		7	3	7										1	
	聴力検査				3		2											
	尿 検 査		5		2								1	2	4		2	1
	血圧測定	6	11		8	1	3						9	13	11	7	5	5
	心電図検査				4		2											
	体力測定													6				
	そ の 他			1	6		1							11	19	15	20	20
身体面の健康相談 (スポーツ相談含む)	16	37	39	122	38	24		1		2		1	1	3	17	16	22	19
健康診断書の発行	5	10	4	68	247	20										1	1	5
(就職用)				(8)	(13)	(18)											(1)	
(実習用)																		
(免許申請)					(22)													
(その他)	(5)	(10)	(4)	(60)	(6)	(2)										(1)		(5)
精神面の健康 相談・カウンセリング	16	32	24	12	17	10				1	1		3		1	1	1	6
休養室の利用	4	3	5	4	3	1												
応急処置 等	53	50	41	37	22	10	1	3	3	1	2	2	5	11	6	6	4	2
専門医紹介	4	13	12	5	3	1		1					1					
ツベルクリン反応検査		249	74															
ツ反後胸部X線検査			20	13														
抗 体 検 査	17																	
B型肝炎ワクチン接種				174	166	1							18					14
小児ワクチン紹介状	1				49													
インフルエンザワクチン接種		272	17											19	1			
救急かばん貸出し	4	2		1	7	3								1				
テーピング講習会																		
合 計	39	786	308	541	615	14	7	5	4	4	3	3	38	80	71	46	58	76

月 別	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
利用件数	<b>443</b>	<b>871</b>	<b>383</b>	<b>591</b>	<b>676</b>	<b>219</b>	<b>3,183</b>

平成 22 年度 上期 2,494 件 下期 3,183 件 計 5,677 件

○平成 23 年度 上期：4 月～9 月

区 分	学 生						外国人留学生						職 員					
	4	5	6	7	8	9	4	5	6	7	8	9	4	5	6	7	8	9
健康診断																		
健診・再検査	1	21	99	30	13	8												3
健診・事後措置	1	3	5	12	16	4												
検 査 等	身体測定	103	116	121	103	41	98			1			8	2	6	1		
	視力測定	2	1	10	32	13	5			1								
	聴力検査			1	11	3	4											
	尿検査			1	3	1	1			1		1						
	血圧測定	2	3	21	24	12	7			1			1	3	3	1	8	
	心電図検査			3	7	3												
	体力測定																	
	その他	2	11	4	8	5							18	17	19	20	18	17
身体面の健康相談 (スポーツ相談含む)	60	52	44	41	17	32					1	19	19	22	22	21	17	
健康診断書の発行	29	8	20	107	16	6			1			2					1	
(就職用)			(15)	(39)	(12)	(6)												
(実習用)				(63)														
(免許申請)																		
(その他)	(29)	(8)	(5)	(5)	(4)				(1)			(2)					(1)	
精神面の健康 相談・カウンセリング	16	26	27	18	14	24						1	3	6	1	11	2	
休養室の利用	3	3	3	6		2						1						
応急処置 等	51	66	70	67	15	37			2	2	7	1	1	9	5	3	7	
専門医紹介	7	3	12	7	6	6									1			
ツベルクリン反応検査																		
ツ反後胸部X線検査																		
抗体検査																		
B型肝炎ワクチン接種				165		1											27	
小児ワクチン紹介状	4																	
インフルエンザワクチン接種																		
救急カバン貸出し	3	4	8	7	5													
テーピング講習会				34														
合 計	284	317	449	682	180	235	0	0	7	2	0	9	51	45	65	51	64	71

月 別	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	計
利用件数	<b>335</b>	<b>362</b>	<b>521</b>	<b>735</b>	<b>244</b>	<b>315</b>	<b>2,512</b>

平成 23 年度 下期：10 月～3 月

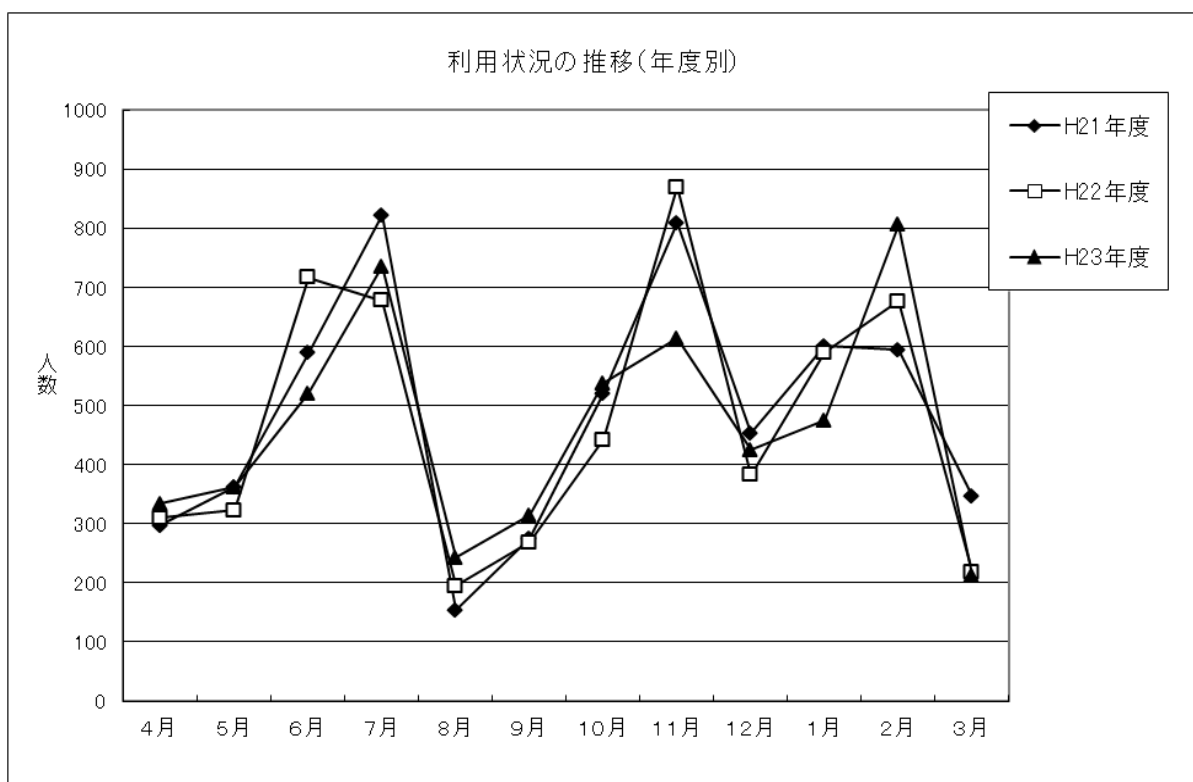
区 分	学 生						外国人留学生						職 員						
	10	11	12	1	2	3	10	11	12	1	2	3	10	11	12	1	2	3	
健 康 診 断							2		1										
健診・再検査	2																		
健診・事後措置																			
検 査 等	身体測定	112	97	70	72	54	48										3		
	視力測定	5	1	2	12	18	5												
	聴力検査	2		2	10	18	3												
	尿 検 査			1										1					
	血圧測定	13	13	8	11	6	7							2	1	1	6	1	3
	心電図検査			1	10	17	3												
	体力測定															1	1	2	
	そ の 他	2		1	10	16	5							18	16	16	15	15	10
身体面の健康相談 (スポーツ相談含む)	29	35	33	33	52	18	1	1		1	5	1	18	16	16	17	16	10	
健康診断書の発行	14	6	4	15	224	14							1					2	1
(就職用)	(4)	(2)	(2)	(11)	(25)	(14)												(2)	
(実習用)																			
(免許申請)					(198)														
(その他)	(10)	(4)	(2)	(4)	(1)								(1)						(1)
精神面の健康 相談・カウンセリング	29	34	52	31	41	28							16	6	10	7	8	2	
休養室の利用	5	3	2	3	5	1													
応急処置 等	49	63	35	27	36	22	1	5	2	3	8	3	1	5	8	7	3	5	
専門医紹介	2	9	7	1	11	4		1		1	3								
ツベルクリン反応検査			151																
ツ反後胸部X線検査				13															
抗体検査	178																		
B型肝炎ワクチン接種				164	167	1							31						15
小児ワクチン紹介状		1		2	72														
インフルエンザワクチン接種																			
救急カバン貸出し	4	4			6	3							1						
テーピング講習会																			
合 計	446	540	371	414	743	162	4	7	3	5	16	4	89	66	52	56	47	46	

月 別	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
利用件数	<b>539</b>	<b>613</b>	<b>426</b>	<b>475</b>	<b>806</b>	<b>212</b>	<b>3,071</b>

平成 23 年度 上期 2,512 件 下期 3,071 件 計 5,583 件

②保健管理センター出雲の利用状況推移（年度別）

	平成 21 年度			平成 22 年度			平成 23 年度		
	学生	留学生	職員	学生	留学生	職員	学生	留学生	職員
4 月	286	2	10	284	5	21	284	0	51
5 月	330	3	29	299	5	20	317	0	45
6 月	559	9	21	685	6	26	449	7	65
7 月	802	5	15	644	3	31	682	2	51
8 月	135	6	13	153	10	32	180	0	64
9 月	229	7	40	212	4	54	235	9	71
10 月	451	14	55	398	7	38	446	4	89
11 月	755	19	36	786	5	80	540	7	66
12 月	420	6	28	308	4	71	371	3	52
1 月	563	5	33	541	4	46	414	5	56
2 月	571	2	21	615	3	58	743	16	47
3 月	303	2	43	140	3	76	162	4	46
年度計	5,404	80	344	5,065	59	553	4,823	57	703



### ③健康診断書の発行件数（再掲）

- 奨学金申請手続きのための健康診断書（医学科、看護学科、留学生）
- 病院見学のための健康診断書（医学科、看護学科）
- 保育所実習のための健康診断書（看護学科）
- 医科研修医・マッチングのための健康診断書（医学科）
- 看護師、保健師、養護教諭採用試験受験のための健康診断書（看護学科）
- 雇入時健康診断書（医学科、看護学科、職員）
- 就職活動のための健康診断書（大学院生・・・医科学修士）

発行延件数

	学生	外国人留学生	職員	計
平成 21 年度	630	2	11	643
平成 22 年度	452	0	10	462
平成 23 年度	463	1	7	471

※医師、看護師、保健師免許申請のための健康診断書（医学科、看護学科）については、別途発行している。

### ④医療機関（専門医）紹介件数（再掲）

紹介延件数

	学生	外国人留学生	職員	計
平成 21 年度	143	10	10	163
平成 22 年度	169	4	3	176
平成 23 年度	75	5	1	81

## 5. メンタルヘルス対策

出雲キャンパス非常勤カウンセラー・臨床心理士 和田葉子

### ①こころの健康相談・カウンセリング

相談の実績等については、出雲キャンパス集計データ（別表）を参照していただきたい。

出雲キャンパス保健管理センターは、学生の心身両面からサポートができる施設として、学生達に比較的浸透していて、日頃から学生の出入りが多いことにも一つの特徴がある。保健管理センターを比較的身近に感じている学生も多いのではないかという風を感じている。

そのため、保健管理センターは、学生にとって比較的抵抗の少ない自発的に来談しやすい場所になっていると思われるし、本人がなかなか足を運べない状況にあっても、友人や教員の紹介によって来所する気になる学生もあり、学生同士や学生対教員という繋がりが機能する場所でもある。

近年は「カウンセリングを希望している」と自ら訴えて相談に来る学生も増えたため、そうしたニーズに応じて学生支援に当たる一方で、敢えて学外の機関を選択するという学生の自由度も尊重し、極端な管理的マネージメントは取らず、寄り添うような側面的支援をすることもある。

相談の内容は様々であり、元来の青年期特有のものから現代的な心理的課題に直面するもの、その他、問題行動や症状や発達の課題など多様化している。支援の内容に関しては、短期（1～数回）相談、継続相談（カウンセリング）ともにあるが、継続型カウンセリングが多い。継続型のカウンセリングで語られる悩みは、成長モデルに関わるテーマが多いため、相談期間が長期化するが、着実な成長により悩みや課題を克服していく学生が多く見受けられる。

また、日頃の相談活動で重要となる、大学側との連携や保護者からの相談・家族面接やカウンセラー担当でない心理相談などは、医師や保健師が、細やかに対応している。学業・就学の問題とも絡む場合、こうした連携が特に重要となることが多い。

### ②新入生心理検査

出雲キャンパスでは、平成20年度よりすべての入学生（新規1年生、3年次編入生）に対して、ACS（青年期危機尺度）という心理検査を実施しているが、入学時の心理検査実施には、次のような意味があると考えられる。

- 入学時の環境変化へのサポート
- 気になる学生、不適応傾向のある学生の早期発見
- 深刻化、重症化への早期予防（悩み過ぎ、うつ、引きこもり、希死念慮等の予防）
- メンタルヘルスサービスやカウンセリングへのつなぎ機能

出雲キャンパスで行っている ACS 検査は、入学時ガイダンスのオリエンテーションの際に医師より配布され、記入後は学生が保健管理センターに直接提出する形で回収している。

検査結果は得点化し、高得点（140点以上）群を「気になる学生」とし、提出時に結果が聞きたいと希望した学生を「モチベーションの高い学生」として、両群の該当学生に対して、フィードバック（FB）面接を実施している。FB面接は、個人宛に連絡し（テスト期間及び夏休みを除く）5～6月、9～10月にカウンセラーがセンターで直接会って説明している。

これまでにF B面接を実施した学生の心理的な評価内容は省略するが、

- F B面接に応じて来所する学生が多いこと（気になる学生の来所率が高い）
- 結果が聞きたいと自発的にF B面接を希望する学生がいること（モチベーションの高い学生の存在）
- A C S検査やF B面談がきっかけとなり、その後の自主来談・カウンセリング利用に通じるケースが相当数あること（自主来談の促進とつなぎ機能）

等から考えて、入学時の心理検査が学生の心理的不調の早期予防・早期発見やメンタルヘルスサービスへのつなぎに大きく役立っていて、しかも、学生自身が自分の悩みや課題を自覚して相談に臨むという解決志向型のカウンセリングを実現しやすくなっているとも言える。

【別表】

こころの健康相談・カウンセリング利用状況（再掲）

	利用延件数			
	学 生	外国人留学生	職 員	計
平成 21 年度	158	4	51	213
平成 22 年度	209	2	41	252
平成 23 年度	340	0	73	413

### Ⅲ 教職員の健康管理

#### 1. 教職員のセンター利用件数（再掲）

	延件数		
	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
メンタルヘルス	51	41	73
応急処置	90	70	55
その他	203	442	575
計	344	553	703

#### 2. 産業医業務

月 1 回の安全衛生委員会への参加と職場巡視、有害物質を使用する作業環境測定結果に対する意見提示、職員健康診断事後措置、退職者に対する面接および職場復帰支援を行った。（産業医 江副智子）

### Ⅳ 広報・啓発活動

1. 保健管理センターのしおり発行
2. 島根大学保健管理センター出雲のホームページ
3. 健康教育

#### テーピング講習会

平成 5 年度より年に 1 回（夏期休業前の 7 月）、医学部キャンパスにおいて、西日本医学生体育大会参加等に備え、スポーツ障害予防健康教室「テーピング講習会」を開催している。

講師：京都大学アメリカンフットボール部メディカルコーチ  
米田勇太郎 氏

	人		
	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
参加者数	32	31	34

學術研究・組織

## I：学術研究活動

### 1. 研究会主催

#### ○平成 21 年度中国・四国地区メンタルヘルス研究協議会

平成 21 年 10 月 29、30 日（松江テルサ）

基調講演 「学生の現状の理解と関わり方について考える」

放送大学客員教授 小柳晴生

#### ○島根学生相談研究会

##### 平成 21 年度

第 20 回島根学生相談研究会 平成 21 年 8 月 5 日（出雲キャンパス）

若者の希死念慮～性格学の観点から 秋田大学保健管理センター 苗村 育郎

第 21 回島根学生相談研究会 平成 22 年 3 月 23 日（出雲キャンパス）

私と学生相談 野原 隆彦

対談 東広島心理相談室 岩村 聡・野原 隆彦

##### 平成 22 年度

第 22 回島根学生相談研究会 平成 22 年 8 月 9 日（松江キャンパス）

最近のトピックス～さまようこのごろの「うつ」について～ 荒川 長巳

第 23 回島根学生相談研究会 平成 23 年 3 月 9 日（松江キャンパス）

学生相談の取り組み 島根県立大学・松江工業高等専門学校より

##### 平成 23 年度

第 24 回島根学生相談研究会 平成 23 年 8 月 2 日（出雲キャンパス）

事例提供 小林亮輔

第 25 回島根学生相談研究会 平成 24 年 3 月 9 日（松江キャンパス）

「認知行動療法」について 江副智子

#### ○全国学生相談研究会議 第 26 回エンカウンターグループ

平成 22 年 7 月 9、10、11 日（小田温泉）

ファシリテーター

大阪教育大学教授

安福純子

#### ○第 36 回中国・四国大学精神保健・学生相談研究会

平成 24 年 3 月 16 日（玉造温泉）

## 2. 学会・研究会参加

### 平成 21 年度

- 5 月 第 27 回日本学生相談学会（東京） 河野美江 早瀬眞知子 **座長**
- 6 月 島根県看護協会出雲支部保健師班会研修会（出雲） 米原満子
- 7 月 第 42 回島根県産業看護部会研修会（松江） 米原満子
- 7 月 第 6 回日本うつ病学会（東京） 荒川長巳
- 8 月 第 39 回中国・四国大学保健管理研究集会（鳥取） 蘆田耕一 野原隆彦  
荒川長巳 **座長** 河野美江 柏紀子 長廻久美子 米原満子
- 8 月 島根県看護協会出雲支部保健師班会研修会（出雲） 米原満子
- 9 月 精神保健指定研修会（東京） 荒川長巳
- 9 月 第 28 回秋季大会 心理臨床学会（東京） 早瀬眞知子
- 10 月 第 47 回全国大学保健管理研究集会（札幌） 蘆田耕一 荒川長巳 野原隆彦
- 10 月 平成 21 年度発達障害のある学生支援研修会 Part2（広島） 河野美江
- 11 月 第 47 回全国学生相談研修会（東京） 早瀬眞知子 寺脇玲子
- 11 月 メンタルヘルス連絡協議会（松江） 蘆田耕一 野原隆彦 **司会** 荒川長巳  
河野美江 **司会** 和田葉子
- 11 月 島根県看護職員メンタルヘルス支援事業（出雲） 河野美江 **座長**
- 1 月 平成 21 年度学生支援合同フォーラム・第 43 回全国学生相談研究会議（東京）  
早瀬眞知子
- 2 月 第 44 回島根県産業看護部会研修会（松江） 米原満子
- 2 月 兵庫こころのケア（兵庫） 早瀬眞知子
- 3 月 東部発達障がい者支援センター ブロック会議（松江） 早瀬眞知子
- 3 月 第 9 回トラウマティックストレス学会（神戸） 早瀬眞知子
- 3 月 第 34 回中国・四国大学精神保健・学生相談研究会（広島） 河野美江  
早瀬眞知子 長廻久美子

### 平成 22 年度

- 5 月 第 106 回日本精神神経学会（広島） 荒川長巳
- 5 月 第 28 回日本学生相談学会（岩手） 河野美江 早瀬眞知子
- 5 月 第 51 回日本臨床細胞学会（横浜） 河野美江
- 6 月 第 45 回島根県産業看護部会研修会（松江） 米原満子
- 6 月 島根県看護協会出雲支部保健師班会研修会（出雲） 米原満子
- 6 月 第 7 回日本うつ病学会（金沢） 荒川長巳
- 7 月 第 17 回日本産業精神保健学会（金沢） 荒川長巳
- 7 月 第 26 回全国学生相談研究会議エンカウンターグループ（出雲）  
河野美江 早瀬眞知子 小林亮輔
- 7 月 第 58 回山陰精神神経学会（出雲） 江副智子 **座長**
- 8 月 第 40 回中国・四国大学保健管理研究集会（松山） 蘆田耕一 江副智子  
荒川長巳 **座長** 河野美江 早瀬眞知子 柏紀子 長廻久美子
- 9 月 第 48 回日本犯罪心理学会（東京） 江副智子
- 9 月 第 29 回秋季大会 心理臨床学会（仙台） 早瀬眞知子

- 10月 第48回全国大学保健管理研究集会（千葉） 蘆田耕一 江副智子
- 11月 第17回日本時間生物学会（東京） 江副智子
- 11月 中国四国メンタルヘルス研究協議会（高知） 河野美江 司会
- 11月 心理臨床学会全国研修会（広島） 早瀬眞知子
- 11月 第48回全国学生相談研修会（東京） 早瀬眞知子
- 1月 第18回日本産業ストレス学会（神戸） 江副智子 座長
- 1月 平成22年度学生支援合同フォーラム・第44回全国学生相談研究会議（東京）  
河野美江 早瀬眞知子
- 1月 平成22年度学生支援合同フォーラム・全国学生メンタルヘルス研究会（東京）  
江副智子
- 2月 認知療法ワークショップ（東京） 江副智子
- 3月 第13回フィジカルヘルスフォーラム（吹田） 江副智子
- 3月 第15回島根県母性衛生学会（出雲） 河野美江 座長
- 3月 第35回中国・四国大学精神保健・学生相談研究会（熊本） 早瀬眞知子

### 平成23年度

- 5月 EMDR学会（東京） 早瀬眞知子
- 5月 第29回日本学生相談学会（東京） 河野美江 早瀬眞知子
- 5月 第84回日本産業衛生学会（東京） 江副智子
- 6月 第48回島根県産業看護部会研修会（松江） 米原満子
- 6月 島根県看護協会出雲支部保健師班会研修会（出雲） 米原満子
- 6月 ファシリテーション・フォーラム2011（札幌） 荒川長巳
- 6月 第23回山陰小児思春期精神神経研究会（米子） 河野美江
- 7月 第8回日本うつ病学会（大阪） 江副智子
- 7月 第59回山陰精神神経学会（出雲） 江副智子 座長
- 7月 第27回学生相談研究会議エンカウンターグループ（広島） 河野美江 早瀬眞知子
- 8月 第41回中国・四国大学保健管理研究集会（岡山） 竹永三男 江副智子  
荒川長巳 座長 河野美江 早瀬眞知子 柏紀子 長廻久美子 米原満子
- 9月 第11回日本認知療学会（大阪） 江副智子
- 10月 中国四国メンタルヘルス研究協議会（徳島） 河野美江 司会
- 10月 第107回日本精神神経学会（東京） 江副智子
- 11月 第49回全国大学保健管理研究集会（下関） 竹永三男 江副智子 座長  
荒川長巳 座長 柏紀子 米原満子
- 11月 発達障害フォーラム（出雲） 早瀬眞知子
- 11月 第27回日本ストレス学会（東京） 江副智子 座長
- 11月 第49回全国学生相談研修会（東京） 河野美江
- 12月 日本臨床心理士会研修会定例職能研修会Ⅲ（松江） 河野美江 早瀬眞知子
- 1月 第45回全国学生相談研究会議（広島） 河野美江 早瀬眞知子
- 1月 第19回日本産業ストレス学会（東京） 江副智子
- 2月 東日本大震災心理支援研究会（仙台） 早瀬眞知子
- 2月 日本臨床心理士会定例職能研修会Ⅳ（京都） 河野美江
- 3月 第31回日本社会精神医学会（東京） 江副智子

- 3月 第14回日本サイコセラピー学会（大阪） 江副智子  
3月 第36回中国・四国大学精神保健・学生相談研究会（玉造） 竹永三男  
荒川長巳 河野美江 早瀬眞知子 柏紀子 長廻久美子 米原満子

### 3. 学会・研究会発表

#### 平成21年度

- 6月 第41回中国・四国学校保健学会（松江）  
・「産婦人科専門医として島根県学校・地域保健連携推進事業にかかわって」  
○河野美江 松井浩美
- 8月 第39回中国・四国大学保健管理研究集会（鳥取）  
・「疲労蓄積度自己診断チェックリストを利用した職員の健康調査」  
○荒川長巳 蘆田耕一  
・「気になる学生」調査報告 そのⅢ  
○河野美江 寺脇玲子 早瀬眞知子 妹尾明子 深石優子 長廻久美子  
小林亮輔 柏紀子 荒川長巳 蘆田耕一  
・「大学における産業看護の現状—看護職等の職務調査結果から」  
○米原満子 野原隆彦

#### 平成22年度

- 5月 第28回学生相談学会（岩手）  
・「気になる学生」調査報告  
○河野美江 早瀬眞知子 寺脇玲子
- 8月 第40回中国・四国大学保健管理研究集会（松山）  
・「独立行政法人化後の島根大学における産業医活動」  
○荒川長巳 蘆田耕一  
・「大学生に対する子宮頸がん予防教育について」  
○河野美江 荒川長巳 長廻久美子 柏紀子 早瀬眞知子 蘆田耕一
- 1月 第18回日本産業ストレス学会（神戸）  
・「看護師のストレス対処能力（Sense of Coherence: SOC）とバーンアウトとの関係」  
○江副智子 米原満子
- 3月 第15回島根県母性衛生学会学術集会（出雲）  
・「思春期女性に対するメール相談の意義」  
○河野美江 長廻久美子 戸田稔子

#### 平成23年度

- 5月 第29回学生相談学会（東京）  
・学生支援GP「気になる学生」調査から継続的な支援へ  
○河野美江 早瀬眞知子 寺脇玲子
- 6月 第23回山陰小児思春期精神神経研究会（米子）  
・「統合失調症の女子学生Aさんへの大学での関わり」  
○河野美江

- 8月 第41回中国・四国大学保健管理研究集会（岡山）
- ・「島根大学におけるカルト対策」  
○荒川長巳 寺脇玲子 早瀬眞知子 長廻久美子 柏紀子 河野美江 竹永三男
  - ・「女性大生の卵巣腫瘍 ～自験例より～」  
○河野美江 荒川長巳 長廻久美子 柏紀子 早瀬眞知子 竹永三男
- 9月 キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク（広島）
- ・「相談窓口の在り方・体制について考える」  
○早瀬眞知子
- 11月 第27回日本ストレス学会（東京）
- ・医学生のケータイ使用に関する調査  
○江副智子 戸田雅裕
- 3月 第36回中国・四国大学精神保健・学生相談研究会（玉造）
- ・「気になる学生」B君の事例  
○河野美江

#### 4. 著書

1. Rubin, R.T. and Carroll, B.J. (江副智子訳)：うつ病と躁うつ病. In: ストレス百科事典 (ストレス百科事典翻訳刊行委員会編). P172～P180, 丸善. 東京. 2010
2. 河野美江：「子宮頸がんを知ろう」. おおなん元気net (編集：塩飽邦憲、岩本麻実子) P78～P85, 邑南町役場作成. 2011

#### 5. 学術論文

1. 河野美江、景山聡一郎、藤原悠子、辰巳春環、戸田稔子：神経性無食欲症が原因で心停止をきたした中学生の症例. 島根医学 29 (2) , P29～P33, 2009
2. 河野美江、西村 覚、荒川長巳：大学生1年生における精神的健康状態－喫煙・飲酒・性行動との関連－. 島根大学教育学部紀要 43, P41～P45, 2009
3. 河野美江、小海志津子：大学1年生における子宮がんに対するアンケート調査. 島根医学 29 (4) , P22～P25, 2009
4. 大西俊江、早瀬眞知子：スクールカウンセリング場面での危機対応. 臨床心理学 9 (2)
5. 河野美江：児童福祉施設等における性の問題と性教育の実践. 島根大学社会福祉論集 3号, P45～P53, 2010
6. 河野美江、戸田稔子：心理社会的困難性を有する10代出産の検討. 思春期学 28 (1) , P154～P159, 2010
7. 河野美江、長廻久美子、小海志津子：思春期女性に対するメール相談の意義. 島根母性衛生学会雑誌 15, P43～P46, 2011
8. 河野美江：A事業所における子宮頸がん予防啓発活動. 島根母性衛生学会雑誌 15, P93～P98, 2011
9. 河野美江：大学生に対する子宮頸がん予防教育. 性の健康 10, P14～P16, 2011

## 6. 報告書

1. 河野美江、松井浩美：産婦人科専門医として島根県学校・地域保健連携推進事業にかかわって. 第 41 回中国四国学校保健学会講演集, P143～P144, 2009
2. 荒川長巳、蘆田耕一：疲労蓄積度自己診断チェックリストを利用した職員の健康調査. 第 39 回中国四国大学保健管理研究集会報告書, P121～P124, 2009
3. 河野美江、寺脇玲子、早瀬眞知子、妹尾明子、深石優子、長廻久美子、小林亮輔、柏紀子、荒川長巳、蘆田耕一：「気になる学生」調査報告 そのⅢ. 第 39 回中国・四国保健管理研究集会報告書, P89～P93, 2009
4. 米原満子、野原隆彦：大学における産業看護の現状—看護職等の職務調査結果から— . 第 39 回中国・四国保健管理研究集会報告書, P97～P100, 2009
5. 河野美江、早瀬眞知子、寺脇玲子：「気になる学生」調査報告. 第 28 回学生相談学会発表論文集, P106, 2010
6. 河野美江：デートDVについて. 島根県人権啓発推進センター広報紙 りっぷる 12, P7, 2010
7. 荒川長巳、蘆田耕一：独立行政法人後の島根大学における産業医活動. 第 40 回中国四国大学保健管理研究集会報告書, P124～P127, 2010
8. 河野美江、荒川長巳、長廻久美子、柏紀子、早瀬眞知子、蘆田耕一：大学生に対する子宮頸がん予防教育について. 第 40 回中国・四国大学保健管理研究集会報告書, P116～P123, 2010
9. 河野美江、寺脇玲子：学生相談アンケート報告書. 学生の自主的活動の評価と教育効果の向上 最終報告書, P41～P47, 2011
10. 河野美江、早瀬眞知子、荒川長巳、寺脇玲子、妹尾明子、深石優子：「気になる学生」調査報告. 学生の自主的活動の評価と教育効果の向上 最終報告書, P55～P61, 2011
11. 河野美江、荒川長巳、長廻久美子、柏紀子、早瀬眞知子、竹永三男：女子大生の卵巣腫瘍について～自験例より～. 第 41 回中国・四国大学保健管理研究集会報告書, P83～P86, 2011
12. 荒川長巳：島根大学におけるカルト対策～5年間の総括～. 第 41 回中国・四国大学保健管理研究集会報告書, P114～P116, 2011

## 7. 研究助成

1. 平成 22 年 4 月～平成 24 年 3 月 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「20 代女性の子宮がん検診受診率向上を目的とした継続的性教育プログラムに関する研究」  
(課題番号 22500630、研究代表者 河野美江)
2. 平成 23 年度島根大学プロジェクト研究推進機構特定研究部門 「中山間地域における地域医療および生活・環境基盤再生のための地域マネジメント診断法の開発」(研究代表者 塩飽邦憲、研究分担者 並河 徹、岩本麻実子、伊藤勝久、米康充、河野美江、濱野強、他 4 名)

## II. 教育活動

### 江副智子

- メンタルヘルス（医学部医学科・看護学科，平成 22 年度～）
- 精神看護学援助論（医学部看護学科，平成 22 年度～）
- 職場における心身の健康管理について（新任教員、平成 22 年度～）

### 荒川長巳

- 健康・スポーツ科学概論Ⅰ（教育学部・生物資源科学部・総合理工学部・法文学部）
- 健康・スポーツ科学概論Ⅱ（共通教養，平成 21 年度）
- 総合科目「社会と大学」（共通教養）
- 職業選択と自己実現（共通教養，平成 21 年度）
- 医学概論（法文学部社会福祉コース，平成 22 年度～）
- 酒一杯の酒から学問を覗く（平成 22, 23 年度）
- 人と職業（平成 22, 23 年度）

### 河野美江

- 健康・スポーツ科学概論Ⅰ（教育学部・生物資源科学部・総合理工学部・法文学部）
- 健康・スポーツ科学概論Ⅱ（共通教養）
- 医学概論（法文学部社会福祉コース，平成 22 年度～）
- 臨床心理（医学部医学科・看護学科）
- ジェンダー（共通教養）

### 早瀬真知子

- 健康・スポーツ科学概論Ⅱ（共通教養）

（以上、学内に限る）

### Ⅲ. 社会貢献・講演

#### 江副智子

日本サイコセラピー学会理事

日本ストレス学会評議員

全国大学保健管理協会評議員

○講演 平成 22 年度 日本医師会生涯教育講座「IT 社会におけるテクノストレスの  
予防医学的研究 — man-machine interface の変遷」

平成 23 年度 第 25 回島根学生相談研究会「うつ病の認知行動療法について」

#### 荒川長巳

島根県たばこ対策委員

○講演 平成 21 年度 島根県立看護短期大学 「学生生活の危険」  
島根県警察少年相談

平成 22 年度 島根県立看護短期大学 「学生生活の危険」  
松江市子育て支援センター  
「思春期から現代の子育てを考えると・・・」  
日本政策金融公庫 「解決志向を体験するワークショップ」

平成 23 年度 島根県立看護短期大学 「学生生活の危険」  
まつえ市民大学 「参加型まつえ市民大学とサポーターの活動」  
安来ファミリー・サポート・センター  
「思春期から見た現代の子育て」  
中国四国地区国立大学法人労務管理連絡会  
「健康な職場づくりに向けて — 「うつ」を中心に —」  
安来子育て支援スタッフ講演会 「現代の子育てについて」  
国立大学中四国部課長連絡会議 「うつ病について」

## 河野美江

島根県臨床心理士会理事（平成 21, 22 年度）  
全国大学メンタルヘルス研究協議会地区実行委員会委員  
島根県健康相談アドバイザー  
松江市医師会学校保健部委員  
島根県母性衛生学会理事  
島根県社会福祉審議会委員（平成 22 年度～）

○講演 平成 21 年度 松江市健康福祉部健康推進課「エジンバラ産後うつ病質問紙票の導入について～ロールプレイ」

性教育講演会 中学校 13 校、高校 6 校、教員 3 校、NPO 1 回

平成 22 年度 島根県看護協会 「性教育支援者のための研修会」

日本家族計画協会主催

「指導者のための避妊と性感染症予防セミナー」

島根県組合女性部県庁支部 「女性の健康について」

性教育講演会 中学校 14 校、高校 6 校、大学 2 校、教員 1 回、  
NPO 3 回、女性 2 回

平成 23 年度 島根県 「LOVE 子宮フォーラム」

日本医師会生涯教育講座

「女性のがん—20 代女性における子宮頸がん検診の重要性—」

鳥取県看護協会 「性教育支援者のための研修会」

性教育講演会 中学校 16 校、高校 7 校、大学 6 校、教員 1 回、  
NPO 1 回、女性 2 回

## 早瀬真知子

日本臨床心理士会 代議員  
島根県教育委員会生徒指導推進室 スーパーバイザー  
「いのちの電話」評議員  
島根被害者サポートセンター 理事  
NPO 法人 大田子どもセンター 理事

○講演 平成 21 年度 労働安全協会・中災防「メンタルヘルスと自殺予防」

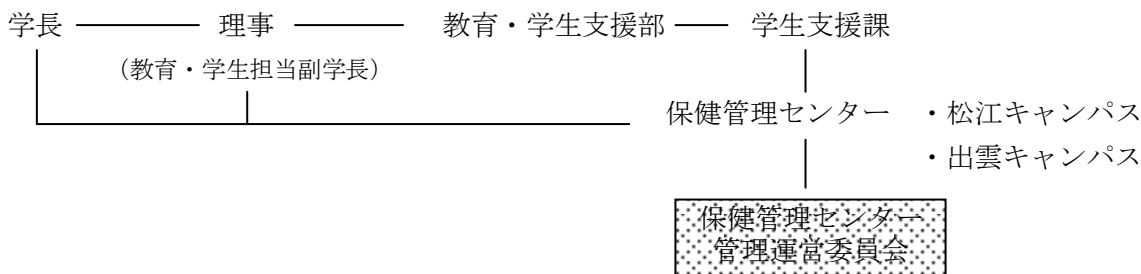
平成 23 年度 島根いのちの電話「カウンセリングについて」

島根被害者サポートセンター「傾聴」

## IV： 保健管理体制

### 1. 組織

平成 16 年～



### 2. 構成

平成 21 年度

所長	蘆田 耕一	(兼任 法文学部教授)		
副所長	野原 隆彦			
(松江) 教授	荒川 長巳	(精神科医師・産業医)	(出雲) 教授	野原 隆彦 (外科医師・産業医)
講師	河野 美江	(産婦人科医師・臨床心理士)	保健師	米原 満子
特任講師	早瀬 眞知子	(臨床心理士)	嘱託講師	和田 葉子 (臨床心理士)
保健師	長廻 久美子		事務担当	長妻 久美子 (学務課学生支援室専門職員)
臨床検査技師	柏 紀子		7月～	増原 晴美 (学務課学生支援室専門職員)
学校医	坂之上 一史	(内科医師)		
管理栄養士	石倉 陽子	(学生課支援課)		
事務担当	加藤 文夫	(学生支援課長)		
	日野 勲	(学生支援課)		

平成 22 年度

所長	蘆田 耕一	(兼任 法文学部教授)		
副所長	江副 智子			
(松江) 教授	荒川 長巳	(精神科医師・産業医)	(出雲) 教授	江副 智子 (産業医)
講師	河野 美江	(産婦人科医師・臨床心理士)	保健師	米原 満子
特任講師	早瀬 眞知子	(臨床心理士)	嘱託講師	和田 葉子 (臨床心理士)
	小林 亮輔	(臨床心理士)	事務担当	増原 晴美 (学務課学生支援室専門職員)
保健師	長廻 久美子		7月～	高橋 忠文 (学務課課長補佐)
臨床検査技師	柏 紀子			
学校医	坂之上 一史	(内科医師)		
管理栄養士	石倉 陽子	(学生課支援課)		
事務担当	山崎 幸司	(学生支援課長)		
	浅村 裕	(学生支援課)		

## 平成 23 年度

所長	竹永 三男 (兼任 法文学部教授)		
副所長	江副 智子		
(松江) 教授	荒川 長巳 (精神科医師・産業医)	(出雲) 教授	江副 智子 (産業医)
		保健師	米原 満子
講師	河野 美江 (産婦人科医師・臨床心理士)	嘱託講師	和田 葉子 (臨床心理士)
		事務担当	澄田 隆 (学務課課長補佐)
特任講師	早瀬 眞知子 (臨床心理士)		
	小林 亮輔 (臨床心理士)		
	執行 三佳 (臨床心理士)		
保健師	長廻 久美子		
臨床検査技師	柏 紀子		
学校医	坂之上 一史 (内科医師)		
管理栄養士	石倉 陽子 (学生課支援課)		
事務担当	山崎 幸司 (学生支援課長)		
	笠巻 慎司 (学生支援課)		
	寺脇 玲子 (学生支援課)		

## 3. 保健管理センター管理運営委員会

### 平成 21 年度

委員長	保健管理センター所長	蘆田 耕一		
委員	副学長	足立 悦男	医学部医学科内科学教授	山口 修平
	医学部付属病院長	小林 祥泰	医学部医学科精神神経科教授	堀口 淳
	法文学部 (評議員)	加藤 克夫	医学部医学科眼科学教授	大平 明弘
	教育学部 (評議員)	肥後 功一	医学部医学科耳鼻咽喉科教授	川内 秀之
	総合理工学部 (評議員)	土屋 敏章	保健管理センター副所長	野原 隆彦
	生物資源科学部 (評議員)	荒瀬 榮	保健管理センター	荒川 長巳
				河野 美江

### 平成 22 年度

委員長	保健管理センター所長	蘆田 耕一		
委員	副学長	足立 悦男	医学部医学科内科学教授	山口 修平
	医学部付属病院長	小林 祥泰	医学部医学科精神神経科教授	堀口 淳
	法文学部 (評議員)	加藤 克夫	医学部医学科眼科学教授	大平 明弘
	教育学部 (評議員)	肥後 功一	医学部医学科耳鼻咽喉科教授	川内 秀之
	総合理工学部 (評議員)	土屋 敏章	保健管理センター副所長	江副 智子
	生物資源科学部 (評議員)	荒瀬 榮	保健管理センター	荒川 長巳
				河野 美江

### 平成 23 年度

委員長	保健管理センター所長	竹永 三男		
委員	副学長	足立 悦男	医学部医学科内科学教授	山口 修平
	医学部付属病院長	小林 祥泰	医学部医学科精神神経科教授	堀口 淳
	法文学部 (評議員)	村瀬 俊樹	医学部医学科眼科学教授	大平 明弘
	教育学部 (評議員)	肥後 功一	医学部医学科耳鼻咽喉科教授	川内 秀之
	総合理工学部 (評議員)	服部 泰直	保健管理センター副所長	江副 智子
		10月1日～ 久保 恭男	保健管理センター	荒川 長巳
	生物資源科学部 (評議員)	荒瀬 榮		河野 美江

#### 4. 島根大学保健管理センター規則

(平成16年島大規則第163号)  
(平成16年4月1日制定)  
〔平成17年2月2日一部改正〕  
〔平成18年3月22日一部改正〕  
〔平成18年12月19日一部改正〕  
〔平成24年3月19日一部改正〕

(趣旨)

第1条 この規則は、島根大学保健管理センター（以下「保健管理センター」という。）の組織及び運営等に関し、必要な事項を定める。

(設置)

第2条 島根大学（以下「本学」という。）に、保健管理センターを置く。

(目的)

第3条 保健管理センターは、本学における保健管理に関する専門的業務を一体的に行い、学生及び職員の健康の保持増進を図ることを目的とする。

(業務)

第4条 保健管理センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 保健管理計画の企画及び立案
- 二 定期及び臨時の健康診断
- 三 健康診断の事後措置等健康の保持増進について必要な指導
- 四 健康相談及び精神保健に関する指導・助言
- 五 環境衛生及び感染症の予防に関する指導・助言
- 六 保健管理に関する調査研究
- 七 その他保健管理について必要な専門的業務

(施設の名称及び位置)

第5条 保健管理センターに、次の各号に掲げる施設を置き、それぞれ当該地区の保健管理に関し、前条に定める業務を分掌する。

- 一 島根大学保健管理センター松江 松江市西川津町1060
- 二 島根大学保健管理センター出雲 出雲市塩冶町89の1

(職員)

第6条 保健管理センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 所長
- 二 副所長
- 三 教授，准教授，講師，助教又は助手
- 四 技術職員

2 前項各号に掲げる者のほか、保健管理に関する専門的業務を担当する者を置くことができる。

(所長)

第7条 所長の選考は、本学の専任の教授のうちから、第10条に規定する島根大学保健管理センター管理運営委員会の発議に基づき、教育研究評議会の議を経て、学長が行う。

2 所長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 所長は、保健管理センターの業務を掌理する。

(副所長)

第8条 副所長の選考は、本学の専任の教授のうちから、第10条に規定する島根大学保健管理センター管理運営委員会の推薦に基づき、学長が行う。

2 副所長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 副所長は、所長を補佐し、保健管理センターの業務を整理する。

(所長、副所長及び教員の選考)

第9条 教員の選考は、次条に規定する島根大学保健管理センター管理運営委員会の発議に基づき、教育研究評議会の議を経て、学長が行う。

(管理運営委員会)

第10条 保健管理センターに、島根大学保健管理センター管理運営委員会（以下「管理運営委員会」という。）を置く。

2 管理運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

一 保健管理の基本方針

二 組織運営に関する基本方針

三 所長、副所長及び教員の人事に関する事項

四 予算及び概算に関する事項

五 事業計画の策定及び実施

六 その他保健管理センターの管理運営に関する必要な事項

(管理運営委員会の組織)

第11条 管理運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

一 学長が指名する副学長

二 医学部附属病院長

三 医学部以外の各学部（総合理工学部を除く。）から選出された評議員 各1名

三の二 総合理工学研究科から選出された評議員 1名

四 医学部医学科内科学教授 1名

五 医学部医学科精神医学教授 1名

六 医学部医学科眼科学教授 1名

七 医学部医学科耳鼻咽喉科学教授 1名

八 所長

九 副所長

十 保健管理センター専任の教員

2 前項第3号から第7号までの委員は、学部長及び研究科長の申出に基づき学長が任命する。

3 第1項第3号から第7号までの委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 管理運営委員会に委員長を置き、委員長は、所長をもって充てる。

(管理運営委員会の会議)

第12条 管理運営委員会は、委員長が招集し、議長は、委員長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、委員長の指名する委員がその職務を代理する。

3 管理運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

4 管理運営委員会は、出席委員の過半数をもって議決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 管理運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門委員会等)

第13条 専門の事項を検討するため必要があるときは、管理運営委員会に、専門委員会等を置くことができる。

2 専門委員会等に関し必要な事項は、管理運営委員会において定める。

(事務)

第14条 保健管理センター松江及び管理運営委員会の事務は、教育・学生支援部学生支援課において処理する。

2 保健管理センター出雲の事務は、医学部学務課において処理する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年2月2日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

## V. 沿革

### 1. 旧島根医科大学保健管理センター沿革

昭和 50 年 10 月 1 日	島根医科大学開学
昭和 52 年 4 月 1 日	保健管理室業務開始
平成 3 年 4 月 12 日	保健管理センター開設（保健管理室を廃止）
〃	初代所長 恒松徳五郎(内科学講座第三) 教授 就任（併任）
平成 3 年 7 月 1 日	保健婦 米原満子 着任
平成 4 年 3 月 16 日	講師 野原隆彦（第一外科より） 着任
平成 4 年 4 月 1 日	保健管理センター開所
平成 5 年 4 月 1 日	2代所長 加藤 讓（内科学講座第一） 教授 就任（併任）
平成 7 年 4 月 1 日	3代所長 福本四郎（内科学講座第二） 教授 就任（併任）
平成 8 年 9 月 16 日	4代所長 小林祥泰（内科学講座第三） 教授 就任（併任）
平成 10 年 9 月 16 日	5代所長 高島利一（内科学講座第四） 教授 就任（併任）
平成 12 年 9 月 16 日	6代所長 木下芳一（内科学講座第二） 教授 就任（併任）
平成 14 年 9 月 16 日	7代所長 加藤 讓（内科学講座第一） 教授 就任（併任）
平成 15 年 10 月 1 日	旧島根大学と島根医科大学が統合

### 2. 島根大学保健管理センター沿革

昭和 41 年	開学以来設置されていた学生健康相談所に代わり、昭和 41 年 6 月国立学校設置法施行規則第 29 条の 2 の規定に基づき学生の健康管理に関する専門的業務を行う厚生施設として、全国で 4 大学（東大、京大、長崎大、島根大）に設置された。
	初代所長（併） 福井一明助教授（教育学部） 就任
	井上照雄助教授（精神科） 着任
	看護師 徳永末子 着任 ～昭和 53 年 3 月
	非常勤講師 村江通之（衛生学）
	非常勤医師 石倉 幌（内科） ～昭和 60 年 3 月
	高橋富士郎（内科）
	青戸陽一（歯科） ～昭和 55 年 3 月
	茂木五郎（耳鼻科）
昭和 42 年 4 月	所長 井上照雄助教授 就任
	非常勤医師 西村 充（耳鼻科） ～昭和 55 年 3 月
昭和 47 年 12 月	本部管理棟へ移転
昭和 51 年 4 月	所長（併）小滝信夫教授（教育学部） 就任 ～昭和 52 年 3 月
	助教授 井上照雄 教授に昇任
	非常勤医師 中島隆司（整形外科）
昭和 52 年 4 月	所長（併）稲波正充教授（教育学部） 就任 ～昭和 57 年 3 月
昭和 53 年 4 月	看護師 三崎キクノ 着任 ～昭和 58 年 3 月

昭和 55 年	臨床検査技師 柏(永海)紀子 着任 非常勤医師 青戸泰吉(歯科) 永松 力(内科)	～平成 12 年 3 月
昭和 56 年	非常勤カウンセラー 落合 潮 着任 非常勤カウンセラー 大西俊江講師(教育学部) 着任	～平成 5 年 3 月
昭和 58 年 4 月	所長 井上照雄教授(精神科) 就任 講師 藤永佳代子(小児科) 着任 看護師 坪倉(清水)千歳 着任	～平成 5 年 3 月 ～昭和 60 年 12 月
昭和 60 年 4 月	非常勤医師 池田 博(内科)	
昭和 61 年 1 月	講師 谷本浩一(消化器内科) 着任	～昭和 61 年 12 月
昭和 61 年 2 月	保健管理センター現在地に移転	
昭和 61 年 4 月	講師 船井哲夫(精神科) 着任	
平成 4 年 4 月	所長 喜多村 望教授(教育学部) 就任 講師 船井哲夫 助教授に昇任	～平成 7 年 3 月 ～平成 6 年 3 月
平成 5 年 4 月	助教授 荒川長巳(精神科) 着任 非常勤カウンセラー 斉藤 涉 着任	～平成 6 年 3 月
平成 6 年 4 月	助手 山本大介(精神科) 着任 非常勤カウンセラー 津森葉子 着任	～平成 9 年 3 月
平成 8 年 4 月	所長(併) 猪野郁子教授(教育学部) 就任	
平成 9 年 4 月	非常勤カウンセラー 足立富美子 着任	～平成 17 年 3 月
平成 14 年 4 月	非常勤カウンセラー 早瀬真知子 着任	
平成 15 年 4 月	助教授 荒川長巳 教授に昇任	
平成 15 年 9 月	講師 山本大介 助教授に昇任	～平成 19 年 4 月
平成 15 年 10 月	<b>旧島根大学・島根医科大学 統合</b>	
	所長(併) 猪野郁子 教授(教育学部) 就任 副所長(併) 小林祥泰 教授(医学部) 就任 教授 荒川長巳(精神科) 助教授 山本大介(精神科) 講師 野原隆彦(外科) 看護師 坪倉千歳 保健師 米原満子 臨床検査技師 柏 紀子	～平成 17 年 3 月 ～平成 16 年 3 月
	非常勤医師 池田 博(内科) 非常勤カウンセラー 大西俊江 名誉教授 非常勤カウンセラー 足立富美子 非常勤カウンセラー 和田葉子	～平成 17 年 3 月 ～平成 17 年 3 月 ～平成 17 年 3 月
平成 16 年 4 月	<b>国立大学法人 島根大学となる</b>	
平成 17 年 4 月	所長(併) 蘆田耕一 教授(法文学部) 就任 副所長(併) 杉本利嗣 教授(医学部) 就任 特任講師 早瀬真知子 着任 非常勤医師 坂之上 一史(内科医師) 講師 野原隆彦 助教授に昇任	～平成 23 年 3 月 ～平成 21 年 3 月

平成 19 年 4 月	助教授 野原隆彦 教授に昇任	
平成 20 年 1 月	講師 河野美江 (産婦人科) 着任	
平成 21 年 4 月	副所長 (兼) 野原隆彦 教授 就任	～平成 22 年 3 月
	保健師 長廻久美子 着任	
平成 21 年 5 月	嘱託講師 (カウンセラー) 小林亮輔 着任	
平成 22 年 4 月	教授 江副智子 (予防医学) 着任	
	副所長 (兼) 江副智子 教授 就任	
平成 22 年 4 月	講師 河野美江 准教授に昇任	
平成 23 年 4 月	所長 (兼) 竹永三男 教授 (法文学部) 就任	
平成 23 年 7 月	嘱託講師 (カウンセラー) 執行三佳 着任	

# 島根大学保健管理センター年報

[平成 21 年度～23 年度]

平成 24 年 3 月発行

島根大学保健管理センター

〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060

TEL 0852-32-6568